第22回

平成23年度

学生生活実態調査報告書

鹿児島大学

目　　次

序章　調査の概要
１．調査の目的・・1
２．調査の対象・・1
３．調査の方法・・1
４．調査期間・・・1
５．回答状況・・・1
６．出身地・・2
７．配偶者の有無・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
８．子供の有無・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
第１章　経済状況について
１．１ヵ月の平均収入額（援助等含む）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
２．１ヵ月の平均支出額（授業料は除く）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8
３．家庭全体の年収額・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
４．主な家計支持者・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10
５．授業料免除（平成２３年度前期分）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
６．奨学金の受給状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
７．パソコンの所持状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
８．入学後のアルバイト実施状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
９．アルバイトの種類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
10．アルバイトの時間数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
11．アルバイト収入の使途・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
第２章　住居・通学・食事などについて
１．現在の住居形態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・18
２．通学方法・・19
３．通学所要時間（片道）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
４．食事の場所（朝食）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
５．食事の場所（昼食）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
６．食事の場所（夕食）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
第３章　学習について
１．本学選択時の主たる情報源・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
２．入学理由・・25
３．授業の満足度（学部のみ）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
４．授業に対する不満理由（学部のみ）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
５．授業への出席状況（学部のみ）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
６．授業の欠席理由（学部のみ）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
７．授業内容の理解度（学部のみ）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
８．１日の自習時間（学部のみ）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28

９．教員に対する要望（学部のみ）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
10．進学理由（大学院のみ）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
11．研究科・専攻の適合（大学院のみ）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
12．修士（博士）論文の研究テーマの満足度（大学院のみ）・・・・・・・・・・・・・31
13．教員の教育・研究に対する熱意度（大学院のみ）・・・・・・・・・・・・・・・・31
14．指導教員とのコミュニケーション（大学院のみ）・・・・・・・・・・・・・・・・32
15．大学院のレベルでの教育の実施度（大学院のみ）・・・・・・・・・・・・・・・・32
16．研究設備・資料等の充実度（大学院のみ）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
17．研究スペースの確保（大学院のみ）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
18．所属研究科・専攻の変更希望（大学院のみ）・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
19．所属研究科・専攻の変更希望の理由（大学院のみ）・・・・・・・・・・・・・・・34
20．附属図書館の利用頻度・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
21．附属図書館の利用目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
22．専門学校通学状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
第４章　課外活動について
１．サークルへの加入状況（学部のみ）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
２．加入サークルの種類（学部のみ）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
３．サークルへの加入動機（学部のみ）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・39
４．サークル活動１週間あたりの平均時間数（学部のみ）・・・・・・・・・・・・・・39
５．サークル活動をやめた理由（学部のみ）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・40
第５章　ボランティア活動について
１．ボランティア活動の経験・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41
２．ボランティア活動の内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42
３．ボランティア活動希望の有無・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43
第６章　就職について
１．卒業（修了）後の進路希望・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・44
２．就職の希望職種(分野)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・45
３．就職する場合の重要事項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・46
４．就職の希望地域・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
５．就職に関する不安・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48
６．就職に関する大学への要望・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・49
７．就職支援センターの認識度・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50
第７章　健康状態について
１．健康状態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・51
２．平均睡眠時間・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52
３．保健管理センターの利用回数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53
４．アルコール摂取頻度・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・54
５．喫煙の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・55
６．現在の悩み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・56
７．悩みへの対処方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・57

８．悩んだときに最初に相談する相手・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・58
９．保健管理センターのカウンセラーの認識・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・59
第８章　ハラスメント等について
１．学生何でも相談室の認識・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・60
２．トラブルの有無・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・61
３．ハラスメントについて
（１）ハラスメントの有無・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・62
（２）ハラスメントの内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・63
（３）ハラスメントの場所・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・64
（４）ハラスメントの行為者・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・65
（５）ハラスメントの相談者・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・66
（６）ハラスメントの解決・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・67
第９章　施設とキャンパス環境について
１．快適な施設・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・68
２．快適な施設での行為・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・69
３．自習に利用する施設・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・70
４．自習に利用する施設への改善要望・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・71
５．弁当等を食べるために利用する施設・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・72
６．飲食施設への改善要望・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・73
７．売店への改善要望・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・74
８．郡元キャンパスでよく利用する門・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・75
９．大学施設・環境への改善要望・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・76
第10章　大学生活についての感想、意見、要望等について・・・・・・・・・・・・・・77
学生生活実態調査項目〔学部学生用〕・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・78
学生生活実態調査項目〔大学院生用〕・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・88

はじめに

年度末を迎え、学内には卒業の日を間近にした学生、彼らから実験研究を引き継ぐ後輩学生の姿が目立つ頃となりました。学生指導に当たられた教職員の皆様におかれましては、やれやれと一仕事を終えた感慨と、まもなく始まる新学年を控えて、引き締まる思いでおられることと拝察します。

ほどなく新入学生も加わってキャンパス内は、若々しい熱気で溢れかえる時期を迎えます。学生の本分は勉強であることは言うまでもありませんが、多くの学生が 10 代終盤から 20 代の中盤のまさに青春時代を大学で過ごすこの期間は、多種多様な体験を積む絶好の機会でもあります。

鹿児島大学には大学院生を含めて、一万人を超える学生が在籍しています。大学では学生達が、勉学や各種課外活動にあたり、可能な限り生き生きと過ごすことの出来る環境を整備するべく努力を続けているところです。そのために折にふれて学生の意見を聞きたいと、角度を変えた、いろいろな方向からのアンケートや意見収集を行っております。今回の学生生活実態調査もその一環で実施したもので、平成 21 年度に設置した本調査実施計画のワーキングで、2 年ごとの奇数年度に調査を実施する提言が学生生活委員会になされ、了承されました。今回は初めての試みとして、紙媒体ではなく Web アンケートの形をとりました。ワーキングには、質問項目を精選するなど、回答者に負担がかからないよう努力していただきました。さらに、各部局独自のアンケート調査項目を付け加えることなども出来るようにしてもらいました。回答は、後期の履修登録の際に一緒に回答出来るようにしましたが、当初に設定した締め切りの 10 月中旬までの回答率が極めて悪く、締め切りを約 2 週間延長し、各部局には学生に回答促進の案内を依頼するなどお世話を戴きました。この度、集計結果がまとまりましたので報告する次第です。今後は、結果を分析して、学生生活支援の向上に結びつけるよう具体的な計画策定に反映させる材料にする予定です。

今回の実態調査の実施にあたってご協力いただいた関係者の皆様に深く感謝いたします。

次回の調査は 25 年度に予定されています。今回、顕在化した問題点等修正を加えながら準備にかかりたいと考えております。教職員各位のご意見、ご提案も多数お寄せいただければ幸いでございます。

平成 24 年 3 月

鹿児島大学学生生活委員会委員長　阿部美紀子

序章　調査の概要

１．調査の目的

本学学生の生活実態及び生活意識を把握し、今後の大学における学生支援の充実を図る上での基礎資料とすることを目的とする。

２．調査の対象

本学の学部生及び大学院生を対象とした。ただし、外国人留学生及び休学者は含まない。

３．調査の方法

WEB を利用したアンケート調査

４．調査期間

平成２３年９月１３日（火）から１０月３１日（月）までとし、回答は９月１日現在で記入を求めた。

５．回答状況

回答者総数は４，７４５人で、学部学生４，１８９人（回答率４７．４８％）、大学院生５５６人（回答率３７．７７％）であった。

表１　回答状況（学部）

学部名	回答者数	対象学生数	回答率(%)
法文学部	999	1723	57.98
教育学部	544	1211	44.92
理学部	403	796	50.63
医学部	335	1132	29.59
歯学部	143	315	45.40
工学部	945	1979	47.75
農学部	470	1073	43.80
水産学部	350	593	59.02
計	4189	8822	47.48

表２　回答状況（大学院）

研究科名	回答者数	対象学生数	回答率(%)
人文社会科学研究科	25	61	40.98
教育学研究科	35	69	50.72
保健学研究科	7	53	13.21
理工学研究科	338	660	51.21

農学研究科	42	107	39.25
水産学研究科	31	62	50.00
医歯学総合研究科	39	319	12.23
医学研究科	0	15	0.00
司法政策研究科	11	36	30.56
臨床心理学研究科	10	31	32.26
連合農学研究科	18	59	30.51
計	556	1472	37.77

６．出身地

学部学生の鹿児島県出身者は５１．７％であり、また、九州地方だけで８９．１％を占めている。

大学院生の出身地も学部学生と同様の傾向で、鹿児島県出身者が５３．１％、九州地方だけで８６．３％を占めている。

表３　出身地（学部）

出身地	法文	教育	理	医	歯	工	農	水産	全体
鹿児島県	62.4% (623)	71.1% (387)	44.7% (180)	54.6% (183)	28.0% (40)	50.5% (477)	31.5% (148)	36.3% (127)	51.7% (2165)
沖縄県	0.3% (3)	0.0% (0)	1.2% (5)	0.6% (2)	0.7% (1)	0.0% (0)	0.4% (2)	0.0% (0)	0.3% (13)
宮崎県	9.4% (94)	4.6% (25)	13.6% (55)	8.7% (29)	5.6% (8)	9.4% (89)	6.2% (29)	2.0% (7)	8.0% (336)
熊本県	6.7% (67)	7.4% (40)	6.9% (28)	8.1% (27)	9.1% (13)	12.1% (114)	11.9% (56)	6.3% (22)	8.8% (367)
大分県	3.0% (30)	1.8% (10)	5.0% (20)	2.1% (7)	2.8% (4)	3.1% (29)	3.2% (15)	2.0% (7)	2.9% (122)
長崎県	5.3% (53)	2.8% (15)	6.0% (24)	2.4% (8)	3.5% (5)	5.9% (56)	7.4% (35)	7.4% (26)	5.3% (222)
佐賀県	2.1% (21)	1.5% (8)	3.5% (14)	3.0% (10)	0.7% (1)	2.8% (26)	2.8% (13)	1.1% (4)	2.3% (97)
福岡県	7.9% (79)	5.5% (30)	9.7% (39)	10.1% (34)	8.4% (12)	9.6% (91)	20.6% (97)	7.7% (27)	9.8% (409)
四国	0.5% (5)	0.9% (5)	0.0% (0)	0.3% (1)	4.2% (6)	0.8% (8)	1.1% (5)	2.9% (10)	1.0% (40)
中国	0.9% (9)	1.7% (9)	2.7% (11)	3.0% (10)	4.9% (7)	1.9% (18)	3.6% (17)	6.3% (22)	2.5% (103)
近畿	0.4% (4)	1.3% (7)	1.0% (4)	1.8% (69	11.2% (16)	1.7% (16)	3.8% (18)	7.4% (26)	2.3% (97)
中部	0.6% (6)	0.6% (3)	3.0% (12)	1.2% (4)	7.0% (10)	0.6% (6)	3.2% (15)	10.6% (37)	2.2% (93)
関東	0.4% (4)	0.6% (3)	2.2% (9)	3.3% (11)	11.9% (17)	1.2% (11)	3.8% (18)	6.3% (22)	2.3% (95)
東北	0.0% (0)	0.4% (2)	0.0% (0)	0.6% (2)	1.4% (2)	0.1% (1)	0.2% (1)	0.9% (3)	0.3% (11)
北海道	0.0% (0)	0.0% (0)	0.5% (2)	0.3% (1)	0.7% (1)	0.3% (3)	0.2% (1)	2.95 (10)	0.4% (18)
海外	0.1% (1)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (1)

（　）内の数字は人数。

表４　出身地（大学院）

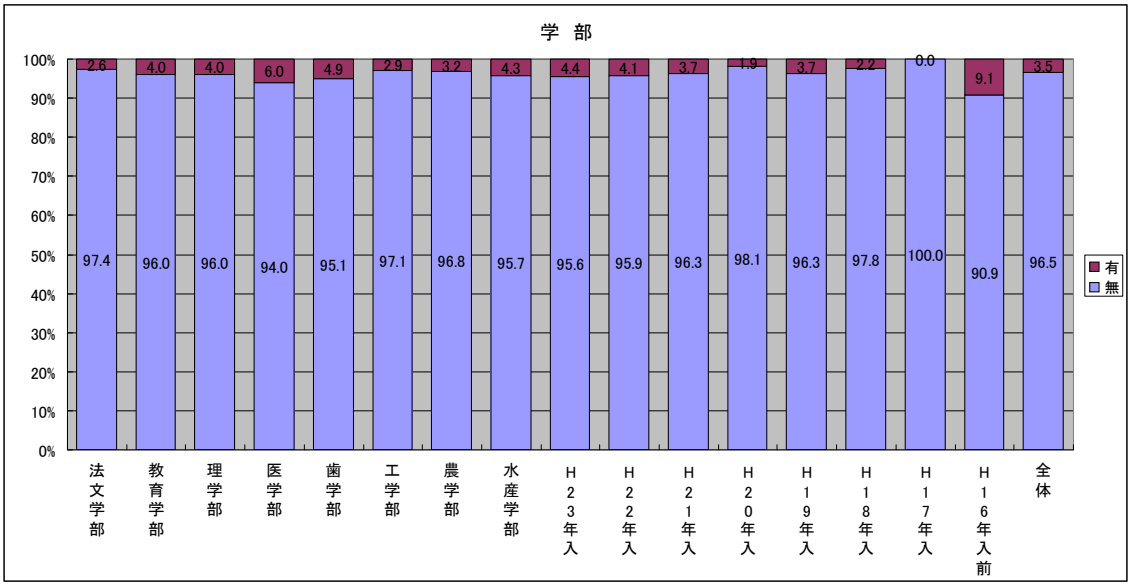
出身地	人文	教育	保健	理工	農学	水産	医歯	司法	臨床	連合農	全体
鹿児島県	80.0% (20)	91.4% (32)	71.4% (5)	53.3% (180)	28.6% (12)	25.8% (8)	53.8% (21)	63.6% (7)	70.0% (7)	16.7% (3)	53.1% (295)
沖縄県	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.9% (3)	2.4% (1)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)	16.7% (3)	1.3% (7)
宮崎県	4.0% (1)	0.0% (0)	0.0% (0)	7.7% (26)	7.1% (3)	3.2% (1)	2.6% (1)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)	5.8% (32)
熊本県	4.0% (1)	2.9% (1)	0.0% (0)	10.4% (35)	19.0% (8)	3.2% (1)	2.6% (1)	0.0% (0)	10.0% (1)	5.6% (1)	8.8% (49)
大分県	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)	4.4% (15)	7.1% (3)	0.0% (0)	2.6% (1)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)	3.4% (19)
長崎県	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)	4.4% (15)	4.8% (2)	6.5% (2)	5.1% (2)	0.0% (0)	0.0% (0)	16.7% (3)	4.3% (24)
佐賀県	0.0% (0)	2.9% (1)	0.0% (0)	1.5% (5)	0.0% (0)	3.2% (1)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)	5.6% (1)	1.4% (8)
福岡県	4.0% (1)	2.9% (1)	14.3% (1)	9.2% (31)	16.7% (7)	6.5% (2)	7.7% (3)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)	8.3% (46)
四国	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.6% (2)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.4% (2)
中国	0.0% (0)	0.0% (0)	14.3% (1)	0.3% (1)	4.8% (2)	16.1% (5)	2.6% (1)	0.0% (0)	10.0% (1)	11.1% (2)	2.3% (13)
近畿	4.0% (1)	0.0% (0)	0.0% (0)	2.7% (9)	4.8% (2)	12.9% (4)	10.3% (4)	18.2% (2)	10.0% (1)	11.1% (2)	4.5% (25)
中部	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)	1.2% (4)	0.0% (0)	12.9% (4)	2.6% (1)	0.0% (0)	0.0% (0)	5.6% (1)	1.8% (10)
関東	4.0% (1)	0.0% (0)	0.0% (0)	3.0% (10)	4.8% (2)	3.2% (1)	7.7% (3)	9.1% (1)	0.0% (0)	11.1% (2)	3.6% (20)
東北	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.6% (2)	0.0% (0)	3.2% (1)	0.0% (0)	9.1% (1)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.7% (4)
北海道	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)	3.2% (1)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.2% (1)
海外	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)	2.6% (1)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.0% (0)	0.2% (1)

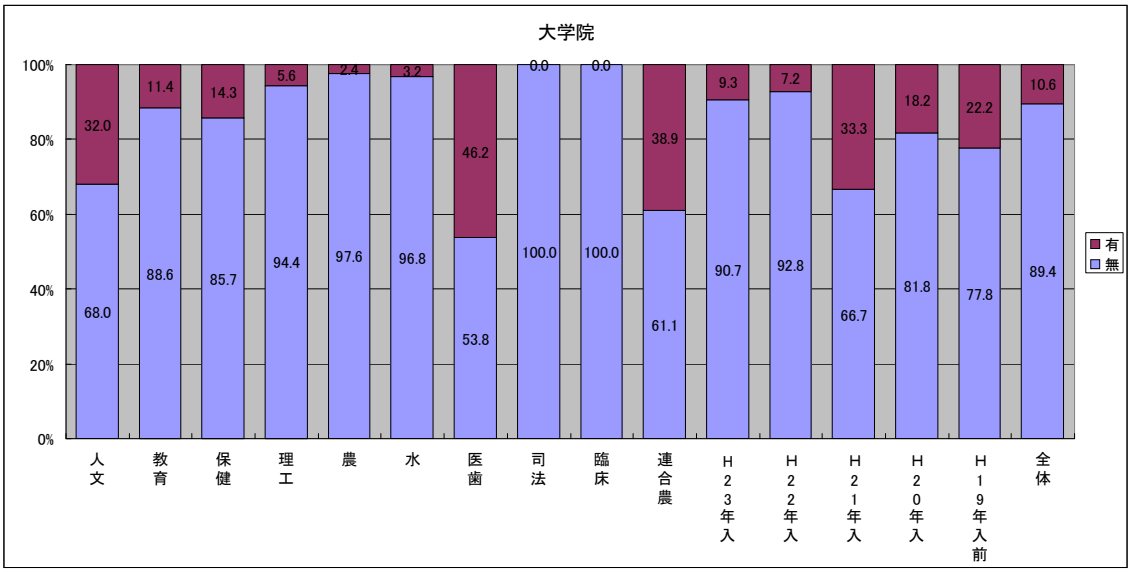
（　）内の数字は人数。

７．配偶者の有無

配偶者有りと回答した学生は、学部学生で３．５％（１４８人）、大学院生で１０．６％（５９人）であった。

図１　配偶者の有無

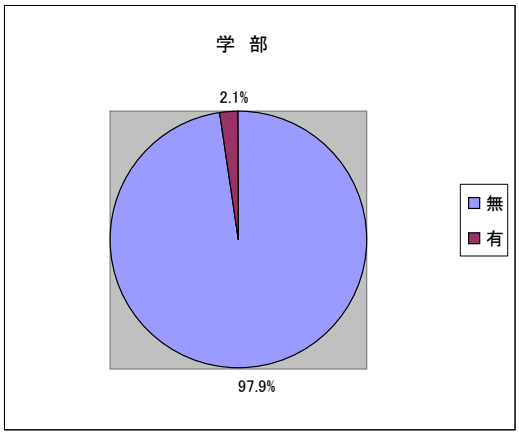


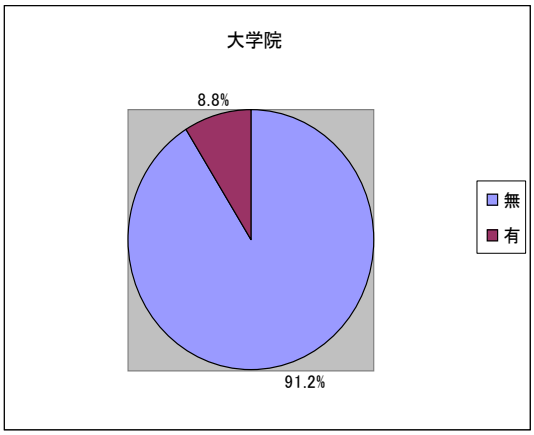


８．子供の有無

子供がいると回答した学生は、学部学生で２．１％（９０人)、大学院生で８．８％（４９人）であった。

図２　子供の有無





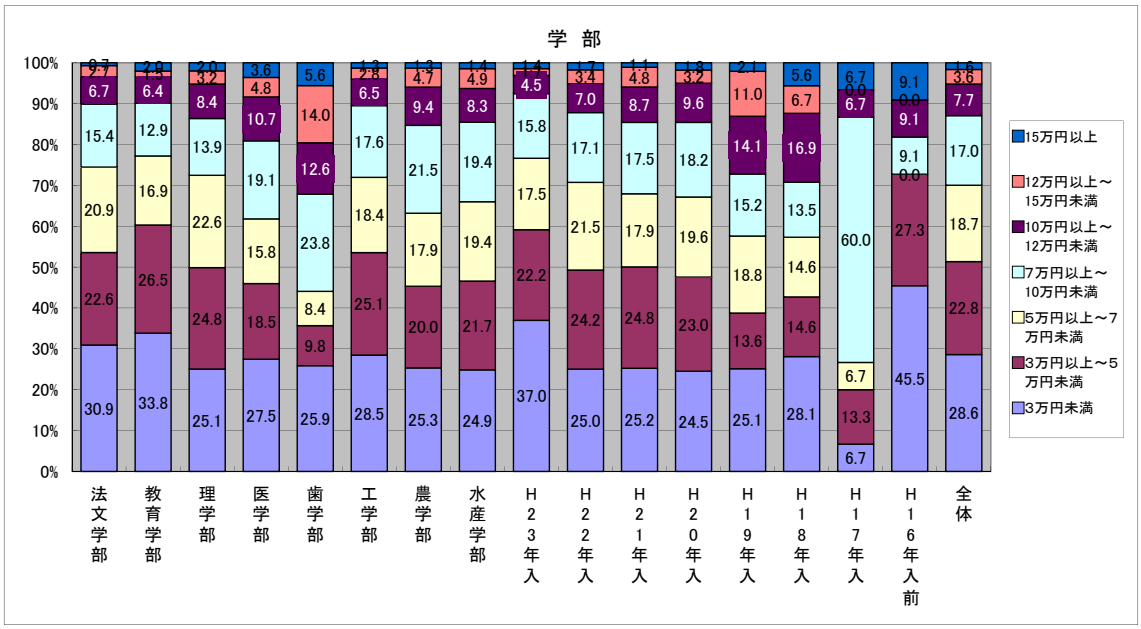
第１章　経済状況について

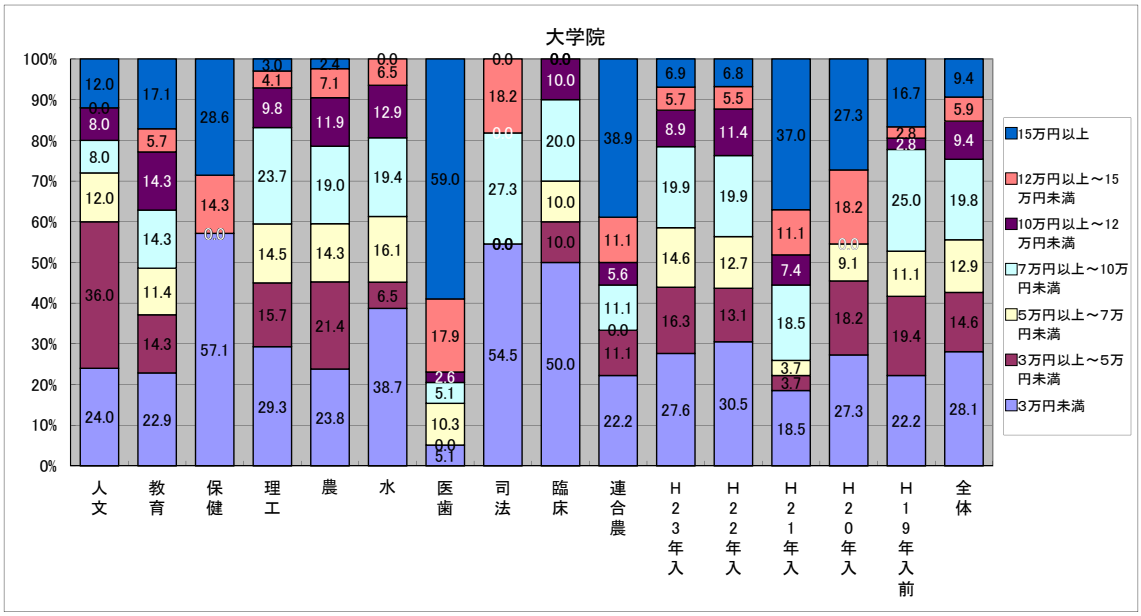
１．１ヵ月の平均収入額（援助等含む）

学部生全体で見ると、3 万円未満が最多で 28.6%。以後収入の増加につれ各段階の比率は減少している。ただ、居住形態別に見てみると、“家族と同居”と“それ以外”では大きな差がある。家族と同居している者では、ほぼ半数（47%）が 3 万円未満で、3 万～5 万円未満の 27%と合わせて 3/4 の学生は 5 万円未満の収入で生活している。家族と同居以外の者では、3 万円未満は 17%と大きく減少し、10 万円以上を一纏めにすると各段階とも概ね 20%前後になる。

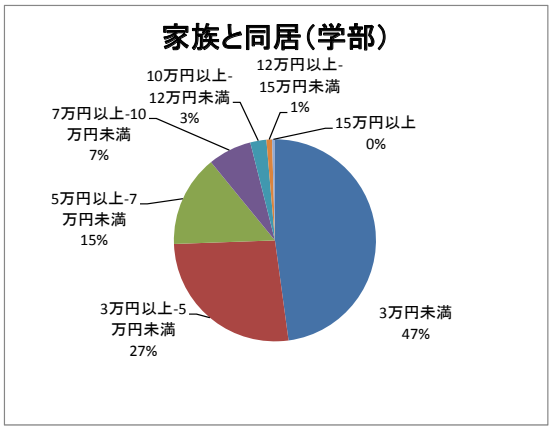
院生では、学部生に比べ 3 万円以上 5 万円未満、5 万円以上 7 万円未満の割合が減少し、その分が高収入側の増加になっている。しかし、研究科毎の分布の違いがあり、医歯学総合並びに連合農学研究科での高収入部分の割合の高さが全体の分布に影響しているようで、その他の研究科では院生の収入は学部生時代とそれ程変わってないようである。

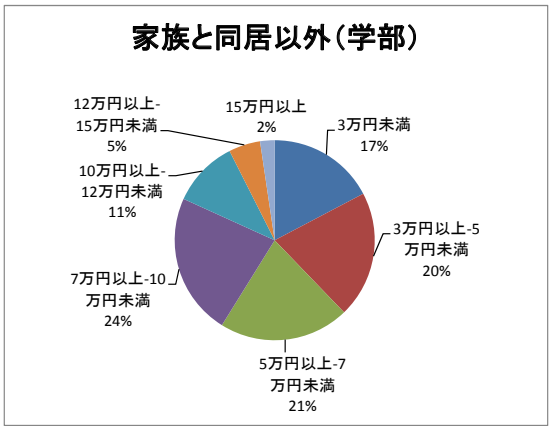
図Ⅰ-1-1　1ヵ月の平均収入額（援助等含む）

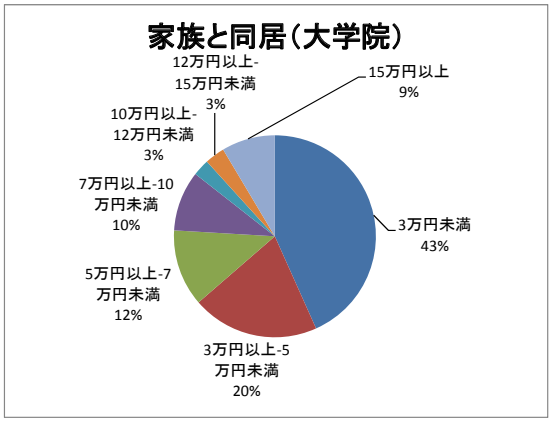


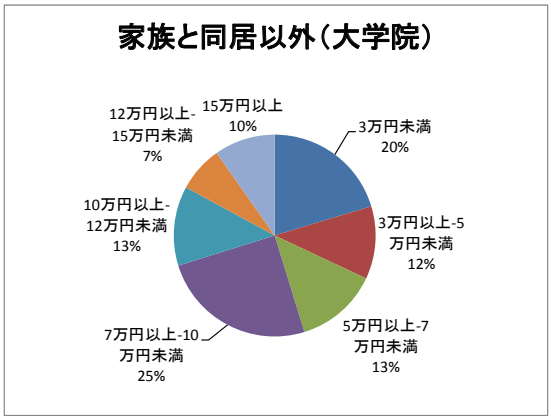


図Ⅰ-1-2　1ヵ月の平均収入額（住居形態別）







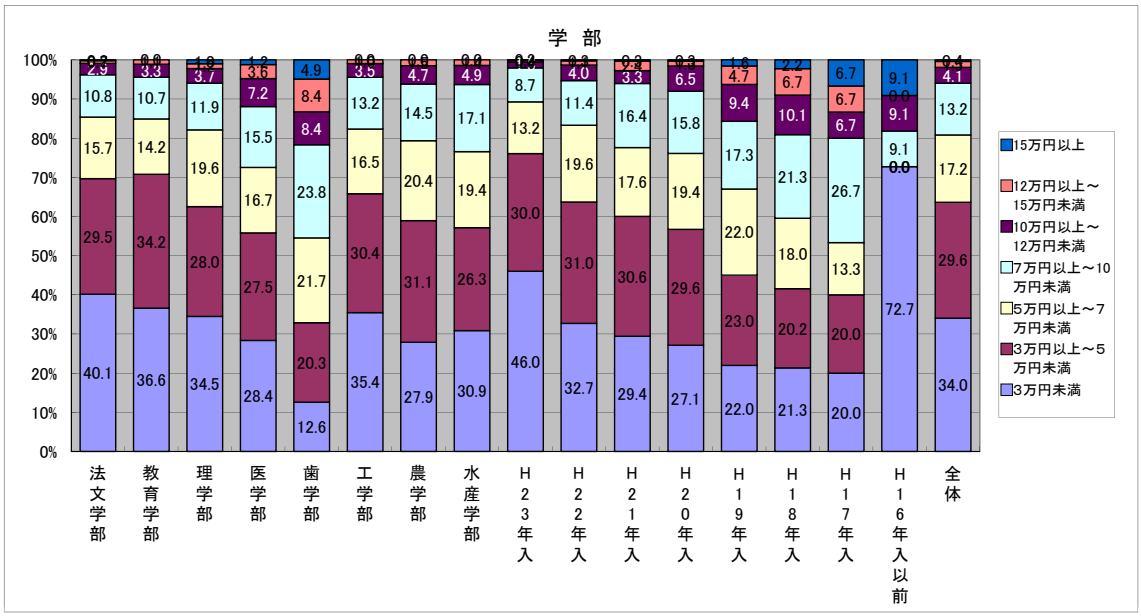


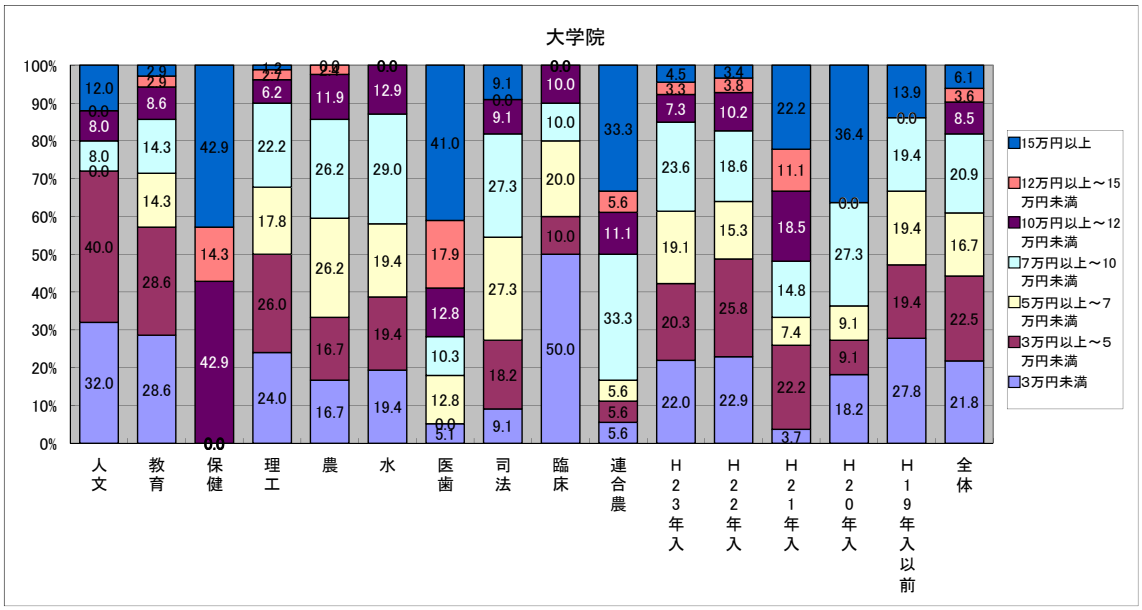
２．１ヶ月の平均支出額（授業料は除く）

学部生では図Ⅰ-1-1の分布状態とあまり変わりなく、低額側にシフトした分布を示している。

院生でも支出額は収入額の反映で、分布のパターンは収入と余り変わらず、低額側にシフトしている。

図Ⅰ-2　１ヶ月の平均支出額（授業料は除く）



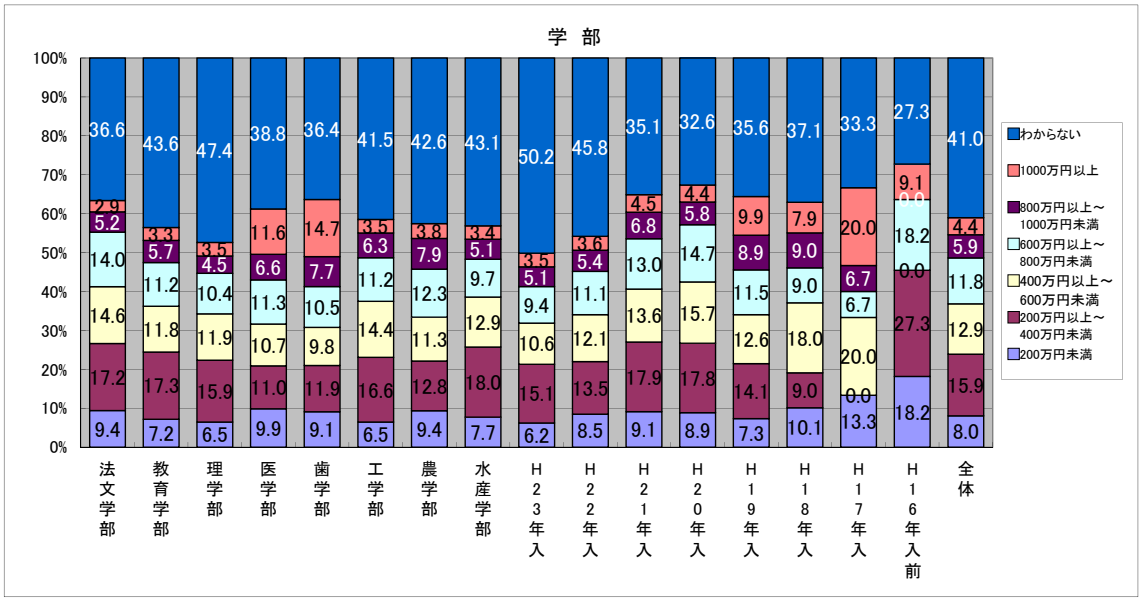


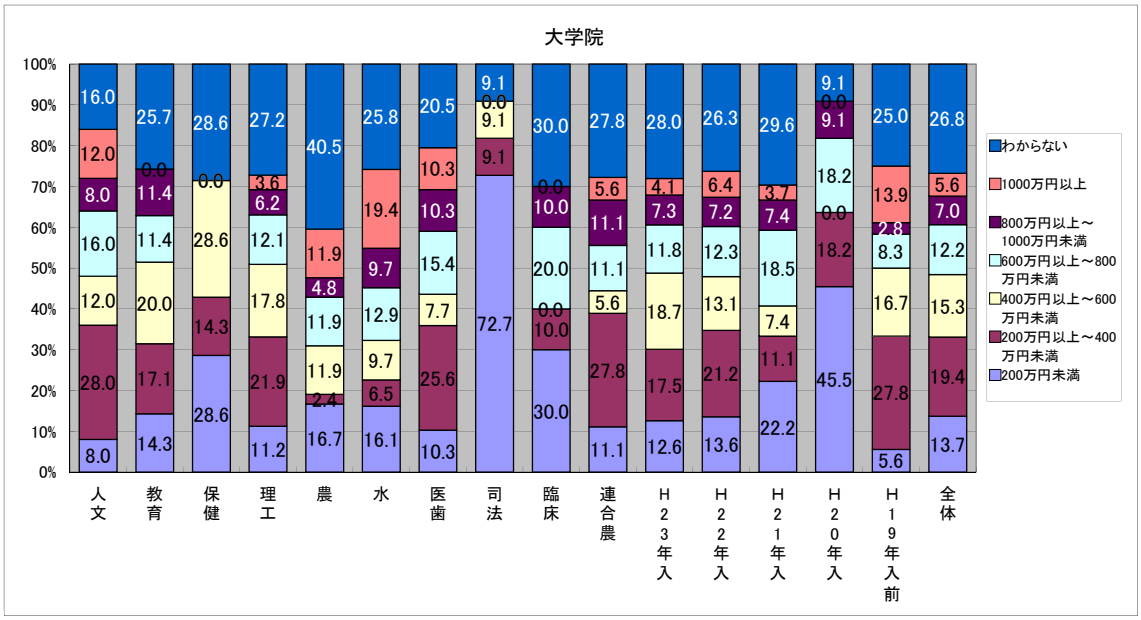
３．家庭全体の年収額

200 万～400 万円未満が一番多く（15.9%）高収入側へも低収入側へも割合は減少してゆく。ただ、判らないと答えた学部生が 41%もいるため、全体像は不明である。

院生の場合、判らないと答えた者の割合が 26.8%に減少し、その分各段階の割合が増加しているが、全体で見た分布パターンは学部生と変わらない。しかし、学部毎の差はあまりなかったが、研究科毎では分布パターンに差が見られる。

図Ⅰ-3　家庭全体の年収額



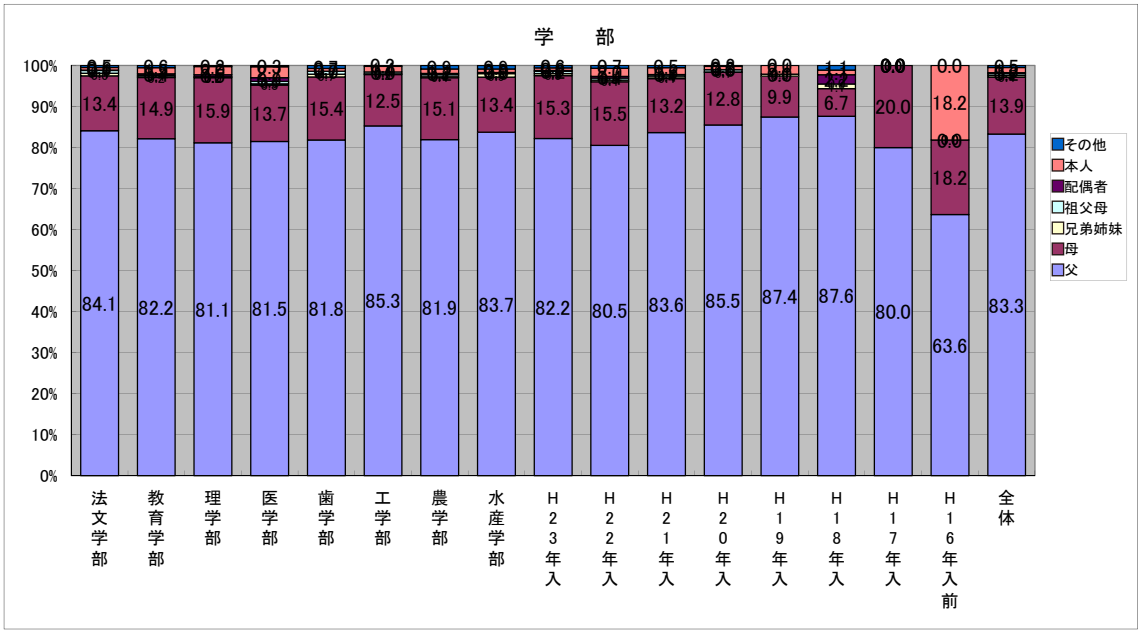


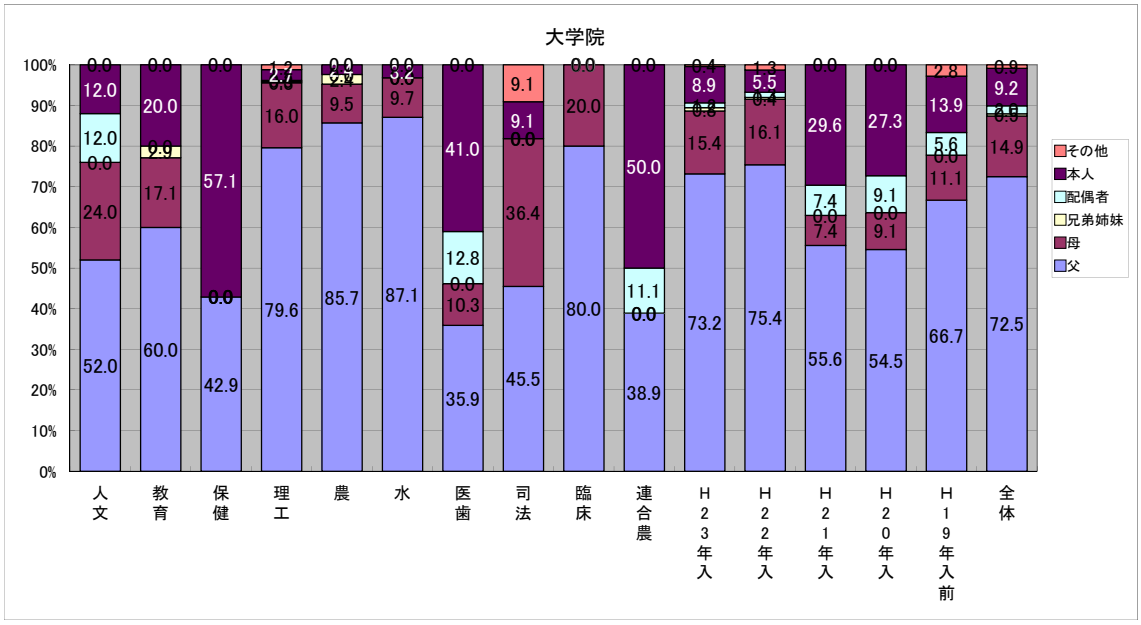
４．主な家計支持者

学部生の場合、学部間の差はなく主な家計支持者は父親（83.3%）で、母親（13.9%）を加えると 97%を越えるが、残り（2.9%）の中で一番多いのが本人（1.3%）である。

院生の場合、全体で見ると本人の割合がかなり増加(9.2%)しているが、依然父親(72.5%)、母親(14.9%)が多く、両方で87%を越えている。ただ、保健学、医歯学総合、連合農学研究科では本人の比率が他研究科に比べかなり高く（それぞれ57.1、41.0、50.0%）、逆に理工学、農学、水産学研究科では父母の割合が高い（それぞれ95.6、95.2、96.8%）。

図Ⅰ-4　主な家計支持者



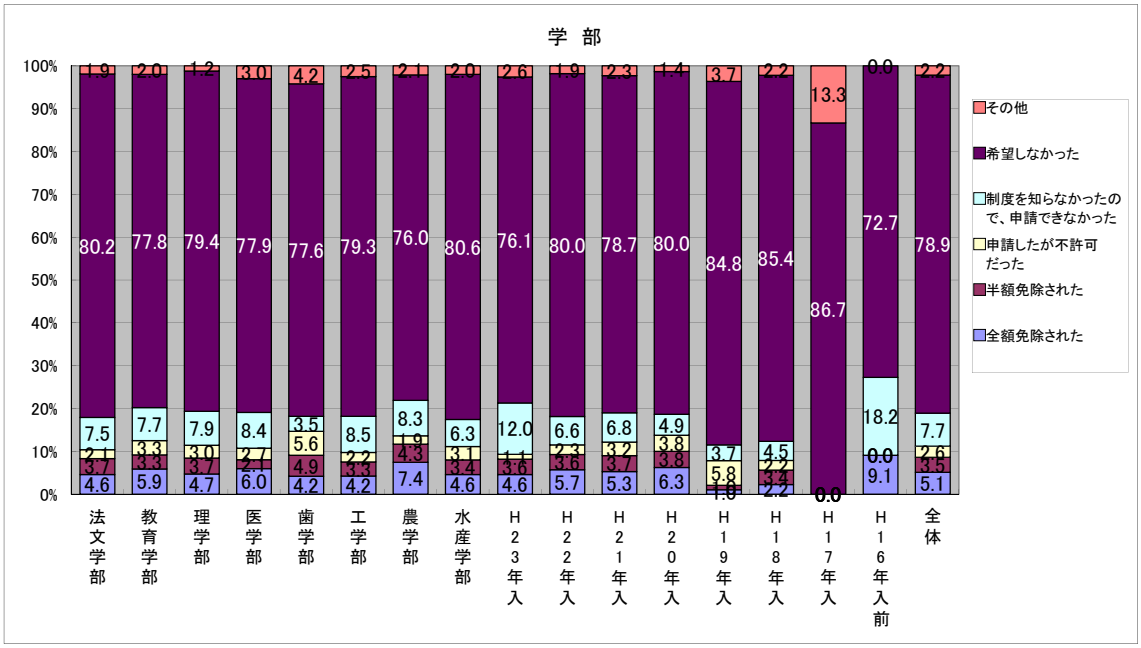


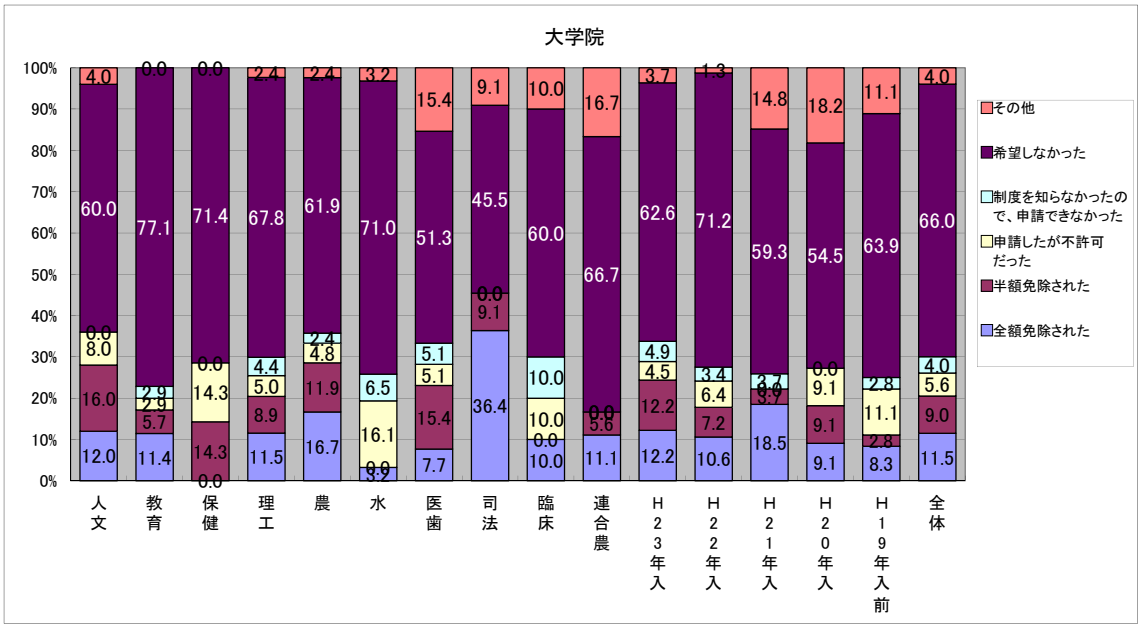
５．授業料免除（平成２３年度前期分）

平均78.9%の学部生が希望していない。すなわち、受けられないあるいは受けなくてもやっていける事になる。5.1%が全額免除、3.5%が半額免除を受けており、合計8.6%の学部生が授業料免除を受けている。しかし、申請したが不許可の者（2.6%）と制度を知らなかったので申請しなかった者（7.7%）を希望者として加えて考えると、希望者（19.2%）の半数弱しか免除することができないことになる。

院生では全額免除（11.5%）、半額免除（9.0%）で、合計 20.5%が免除を受けており、割合では学部生より多い。申請したが不許可だった者（5.6%）と制度を知らなかったので申請できなかった者（4.0%）を加えた、希望者全体（30.1%）の2/3が何らかの授業料免除を受けていることになる。

図Ⅰ-5　授業料免除（平成23年度前期分）



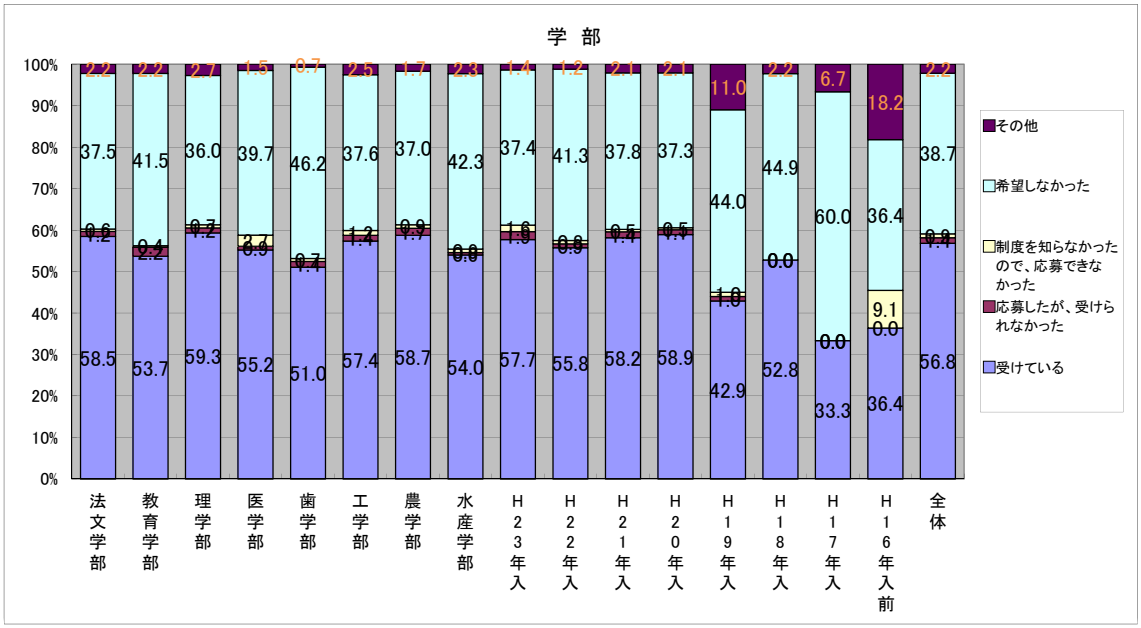


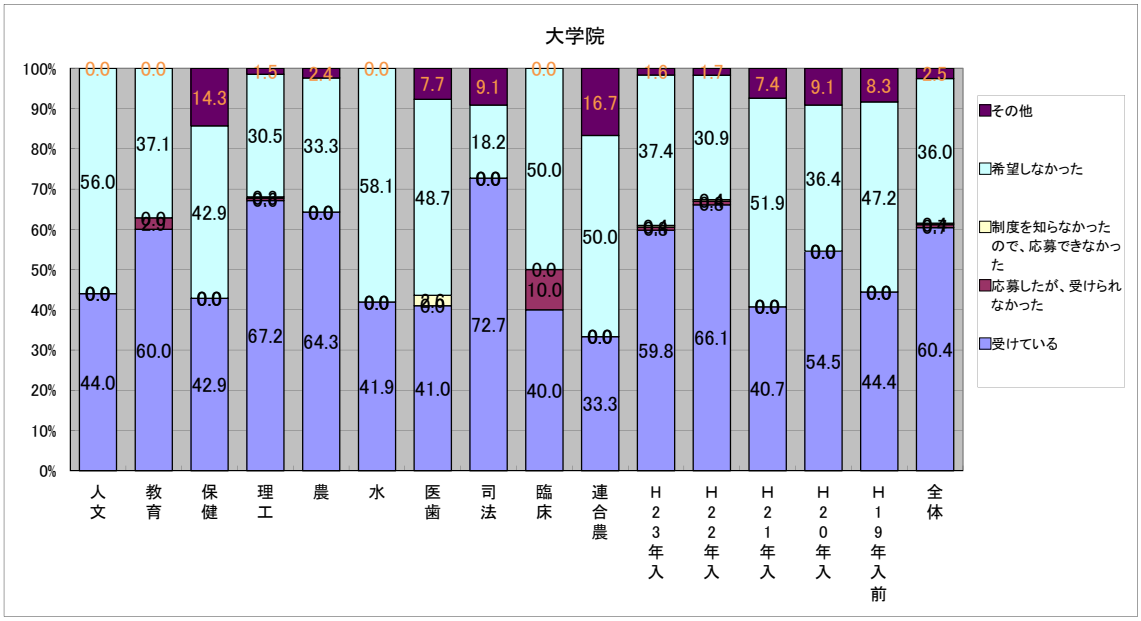
６．奨学金の受給状況

受給者率の学部毎のばらつきがほとんど無く（51～59%）、平均 56.8%の学部生が奨学金を受給している。ただ、全体で応募したが受けられなかった者（1.4%）と制度を知らなかったので応募できなかった者（0.9%）がおり（合計 2.3%）、あと少しで必要としている学部生全体に行き渡るので、なんとかならないものであろうかと感じられた。

院生全体では 60.4%と、学部生よりやや多い。さすがに制度を知らなかったので応募できなかったというのはごくわずかで（0.4%、理工学及び医歯学総合研究科）、多くの研究科では希望者全員が奨学金を受けていることになる。教育学、理工学、臨床心理学研究科では、応募したが受けられなかった者が少数出ている（それぞれ 2.9、0.6、10.0%）。

図Ⅰ-6　奨学金の受給状況

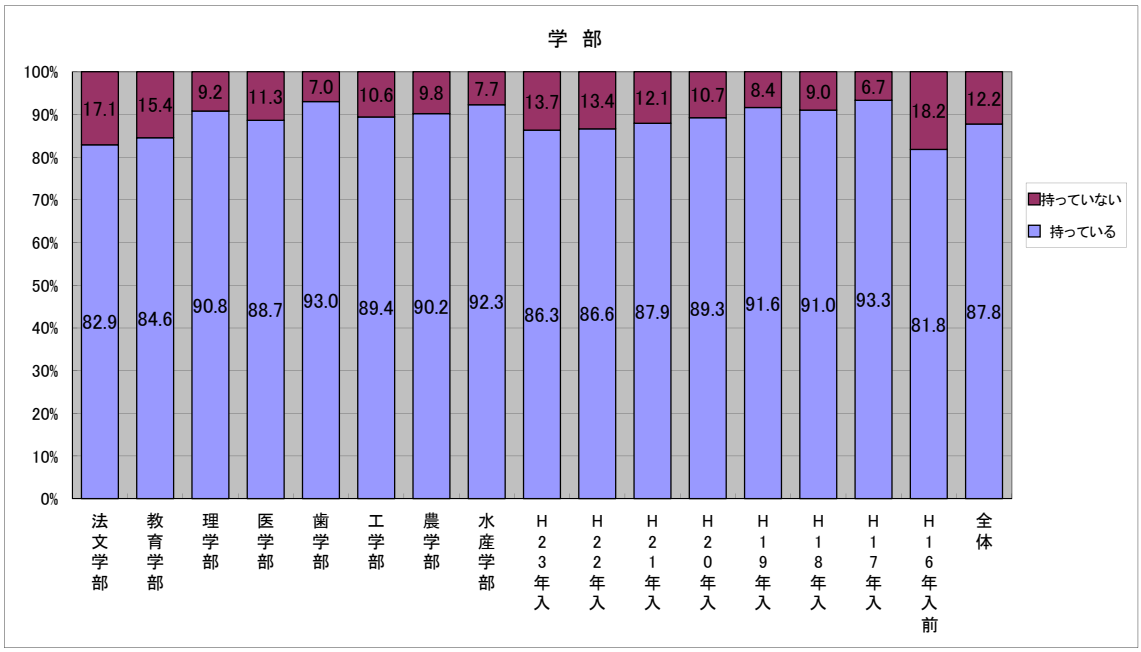


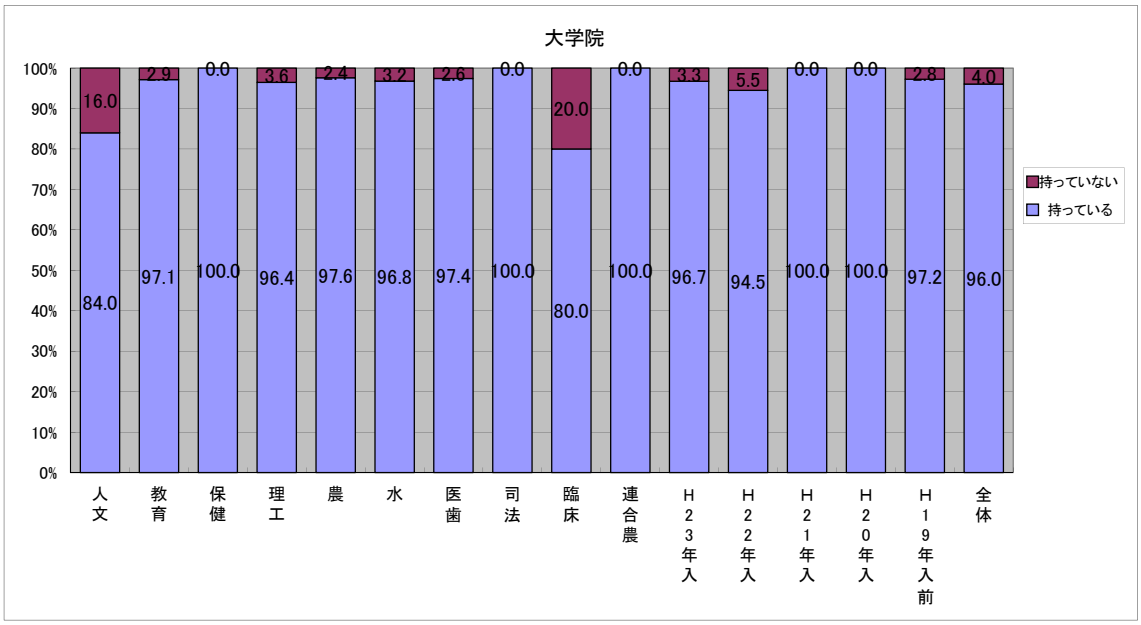


７．パソコンの所持状況

学部による差はほとんど無く、全体で87.8%の学部生が自分専用のパソコンを所持している。
院生ではさらに多く、96.0%が専用パソコンを所持している。

図Ⅰ-7　パソコンの所持状況



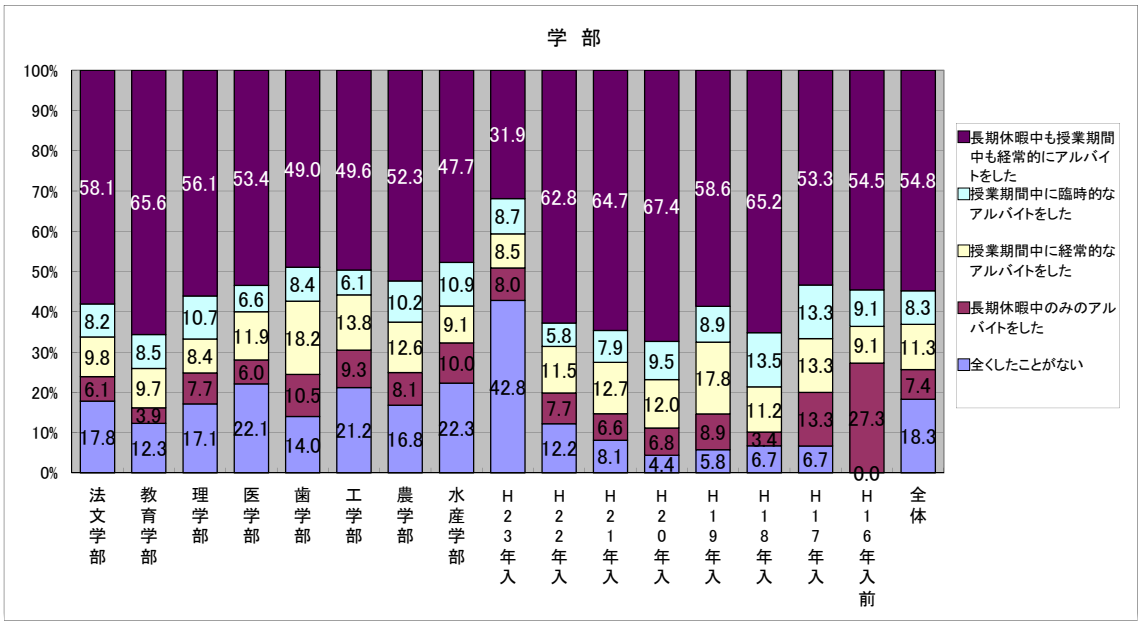


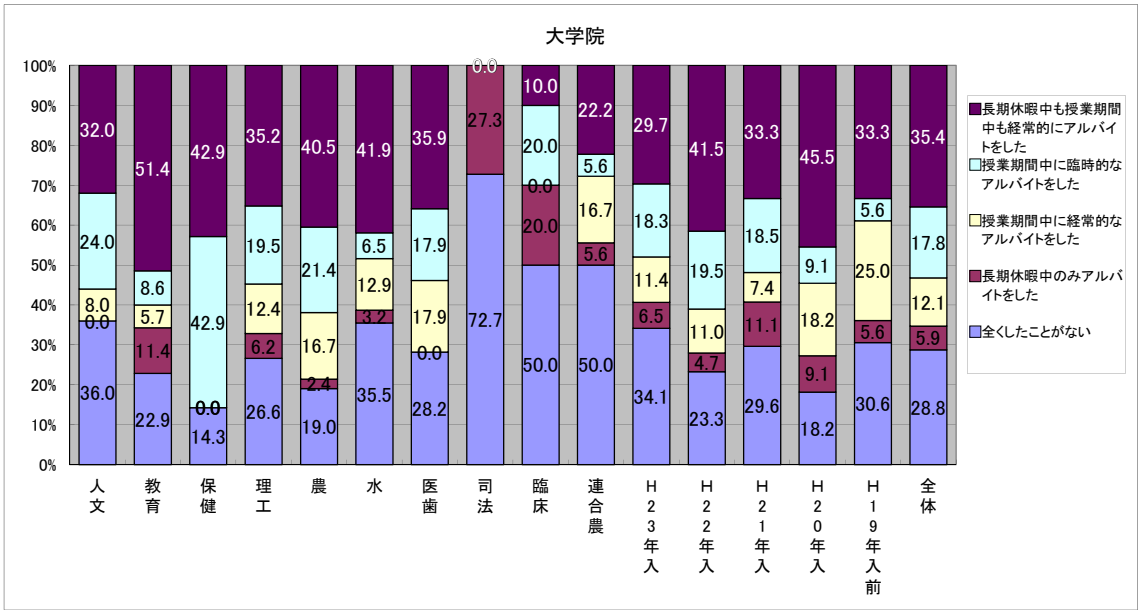
８．入学後のアルバイト実施状況

学部毎のばらつきはそう多くない。全体では 18.3%の全くしたことのない者を除く 81.7%の学部生はなにがしかのアルバイトを経験しており、54.8%の学部生は長期休暇中も授業期間中も経常的にアルバイトをしていると答えている（授業期間中に経常的なアルバイトをした者 11.3%を加えると 66.1%の学生が授業期間中に経常的なアルバイトをしていることになる）。ただ、入学年度で見てみると、初年度は 42.8%がアルバイトをしておらず、経常的に行っている者は 31.9%に留まっている。しかし、２年目以上になると 60%以上の学部生が経常的にアルバイトを行っており、全くしたことのない者は 12.2%以下になる。

院生では、長期休暇中も授業期間中も経常的にアルバイトをしている者の割合が 35.4%と学部生（54.8%）より約 20%減少し、全くしていない者と授業期間中に臨時的にアルバイトをした者がそれぞれ 28.8%、17.8%と約 10%づつ増加している。

図Ⅰ-8　入学後のアルバイト実施状況



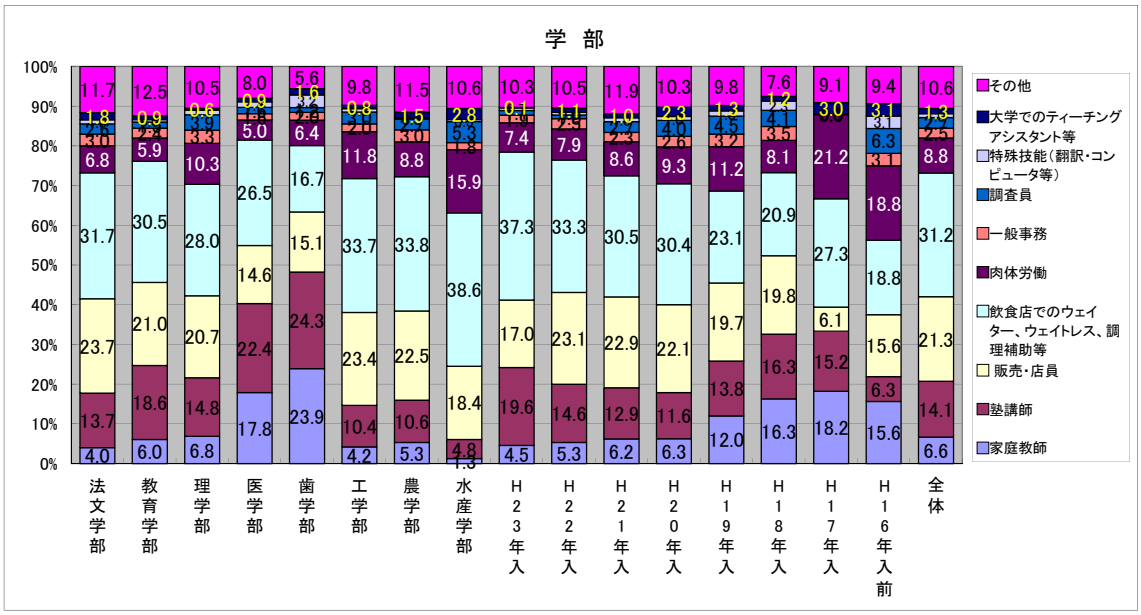


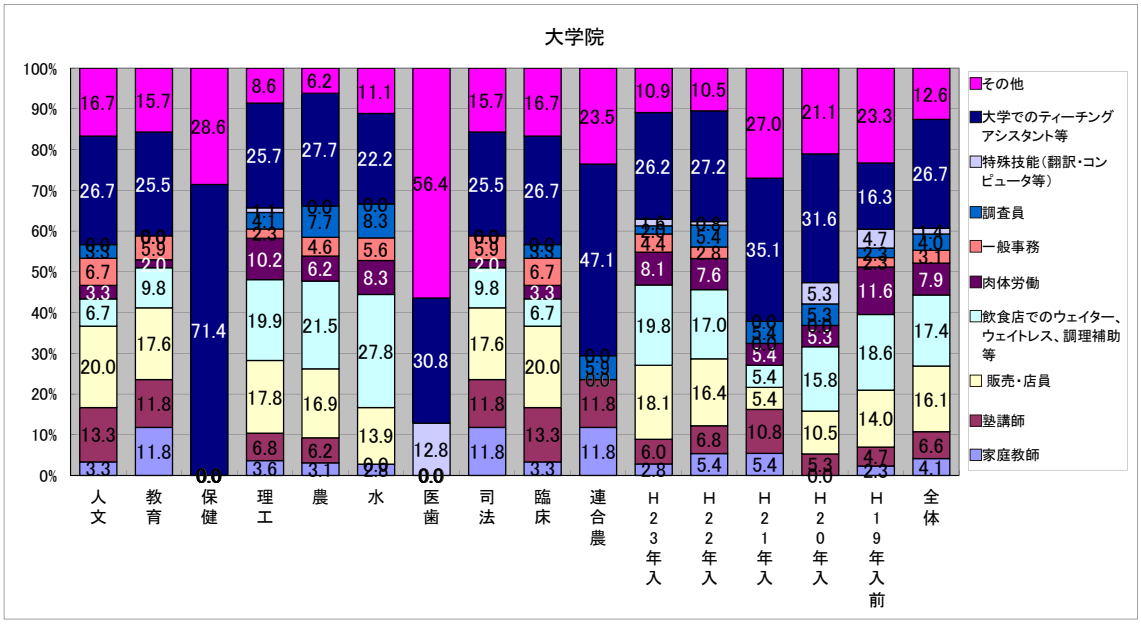
９．アルバイトの種類

全体的に多いのは飲食店でのウェイター・調理等（31.2%）や、販売員（21.3%）のような商業系のアルバイトで、ほぼ1/3の学部生がこの種類のアルバイトを経験している。次に多いのは家庭教師(6.6%)、塾講師（14.1%）で、医学部、歯学部ではこの種類のアルバイト経験者が多い。肉体労働も全体で8.8%ある。ティーチングアシスタントを経験した学部生は、学年が上がるにつれて増加するが、それでも4年目で2.3%程度である。

院生ではティーチングアシスタントの割合が増加し、20～30%が経験している。特に保健学研究科（71.4%）、連合農学研究科（47.1%）で多くの院生がティーチングアシスタントを経験している。商業系のアルバイトも飲食店（17.4%）、販売員（16.1%）と依然多いが、学部生に比べるとその比率は減少している。医歯学総合研究科ではその他が56.4%と際だって多いが、同研究科は院生の80%程度が医師または歯科医師であるためであろう。

図Ⅰ-9　アルバイトの種類（複数回答可）



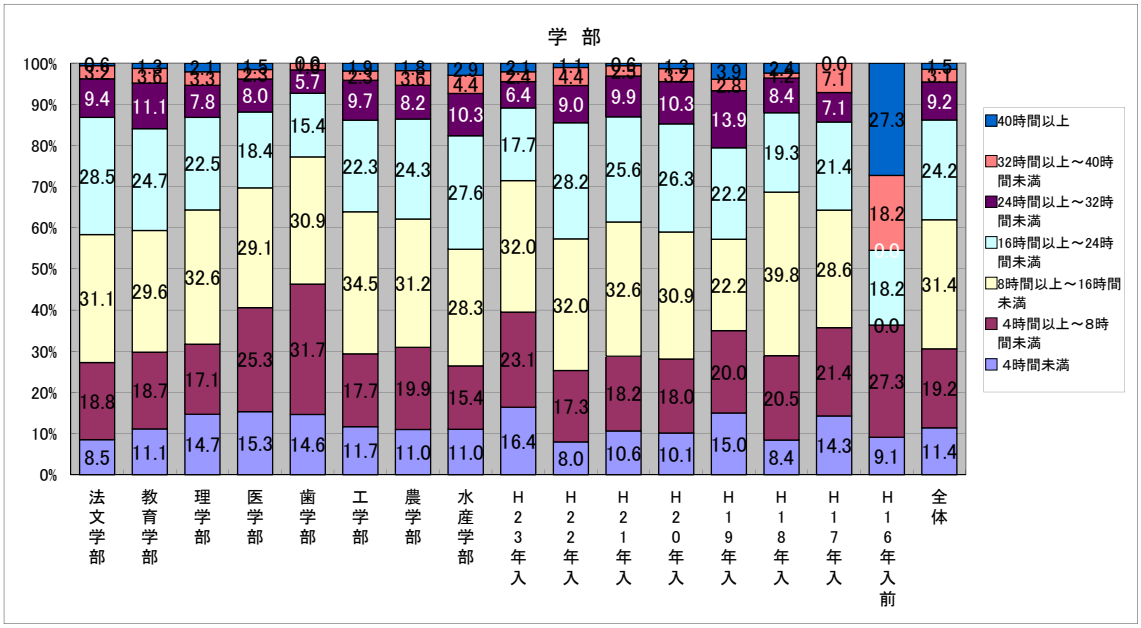


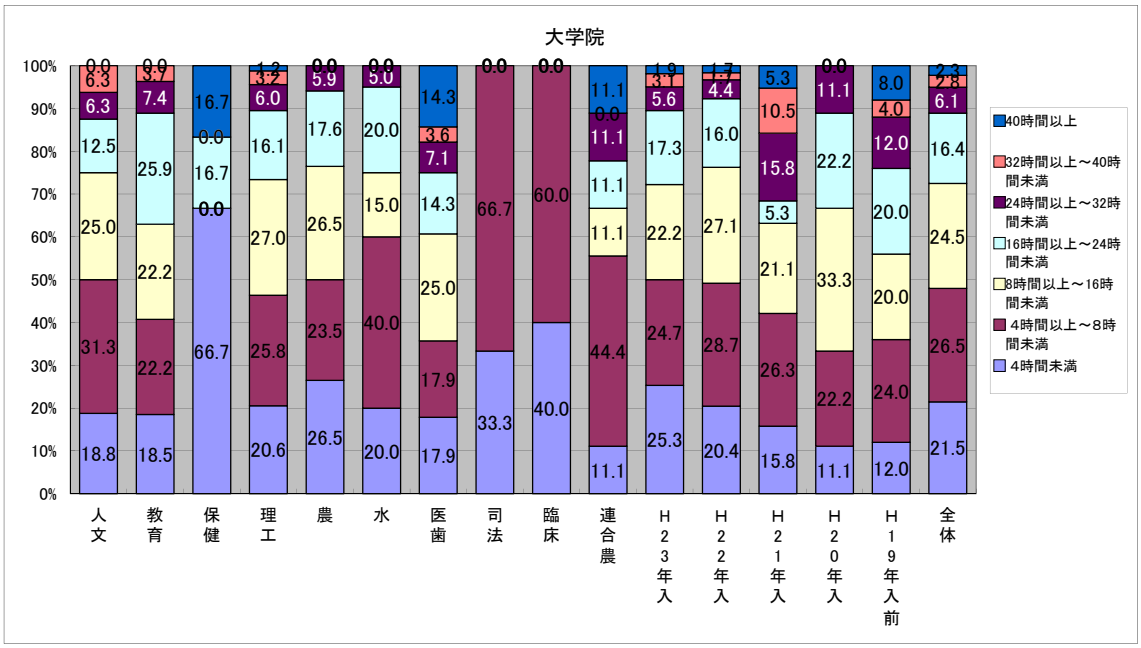
１０. アルバイトの時間数

概数で 4 時間未満が 10%、4～8 時間が 20%、8～16 時間が 30%、16～24 時間が 25%で、それ以上が合わせて 15%である。ただ、1 週間 40 時間以上という、正規の労働時間を上回るようなアルバイトを行っている学部生が、歯学部を除く全学部、全学年に存在し、その比率が平均 1.5%このぼる。

院生では、各時間区分の分布パターンは学部生と似通っているが、時間的には短い方へ動き、40 時間以上の者が 10 研究科中 6 研究科でゼロになっている。しかし、保健学、医歯学総合、連合農学研究科では 40 時間以上の者が 1 割以上の高比率で（それぞれ 16.7、14.3、11.1%）存在する。

図Ⅰ-10　アルバイトの時間数



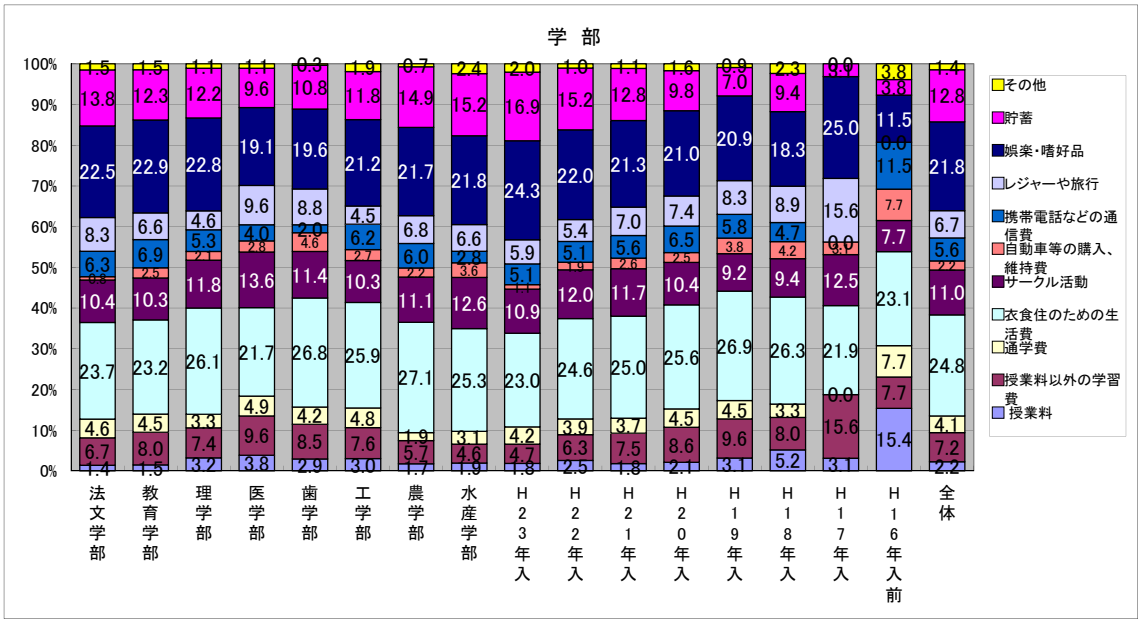


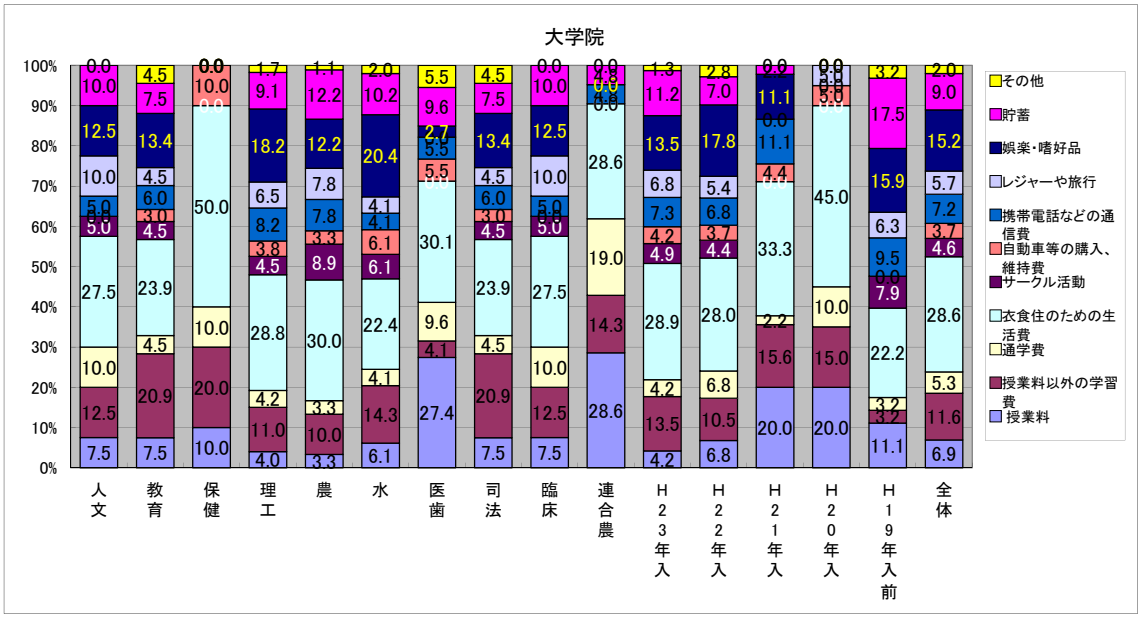
１１．アルバイト収入の使途

一番多かったのが衣食住のための生活費に充てている者で 24.8%にのぼる。これに授業料（2.2%）、それ以外の学習費（7.2%）、通学費（4.1%）などを加えた勉学を行うに必要な経費に充てている者が 38.3%になる。二番目に多かったのは娯楽･嗜好品に充てている者で 21.8%いた。これにサークル活動（11.0%）、レジャーや旅行（6.7%）など生活のゆとり部分に充てている者が合計 39.5%となり、勉学費とゆとりにほぼ均等に充てているようである。

院生では生活費、授業料、それ以外の学習費、通学費に充てる者がそれぞれ 28.6、6.9、11.6、5.3%と軒並み学部生より上昇し、勉学費に充てる者の合計は 52.4%にも達した。逆に娯楽・嗜好品、サークル活動、レジャーや旅行に充てている者は 15.2、4.6、5.7%と減少し合計 25.5%にしかならず、貯蓄も学部生の 12.8%から 9.0%に減少し、院生生活は学部生に比べるとゆとりが少ないのかと感じられた。

図Ⅰ-11　アルバイト収入の使途（３つまで回答可）





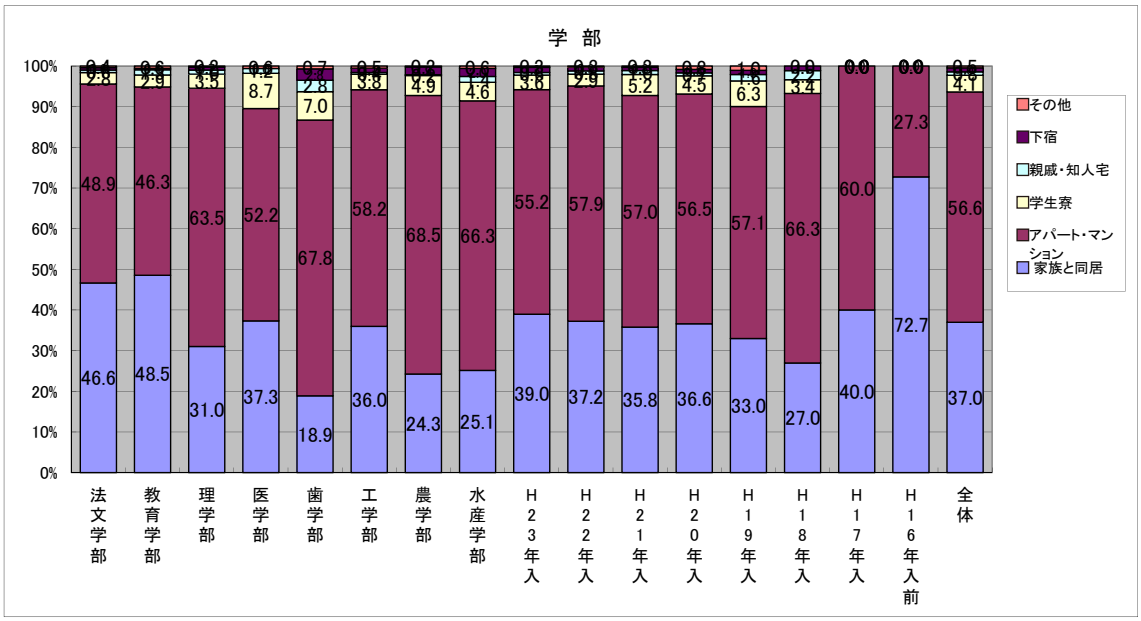
第２章　住居・通学・食事などについて

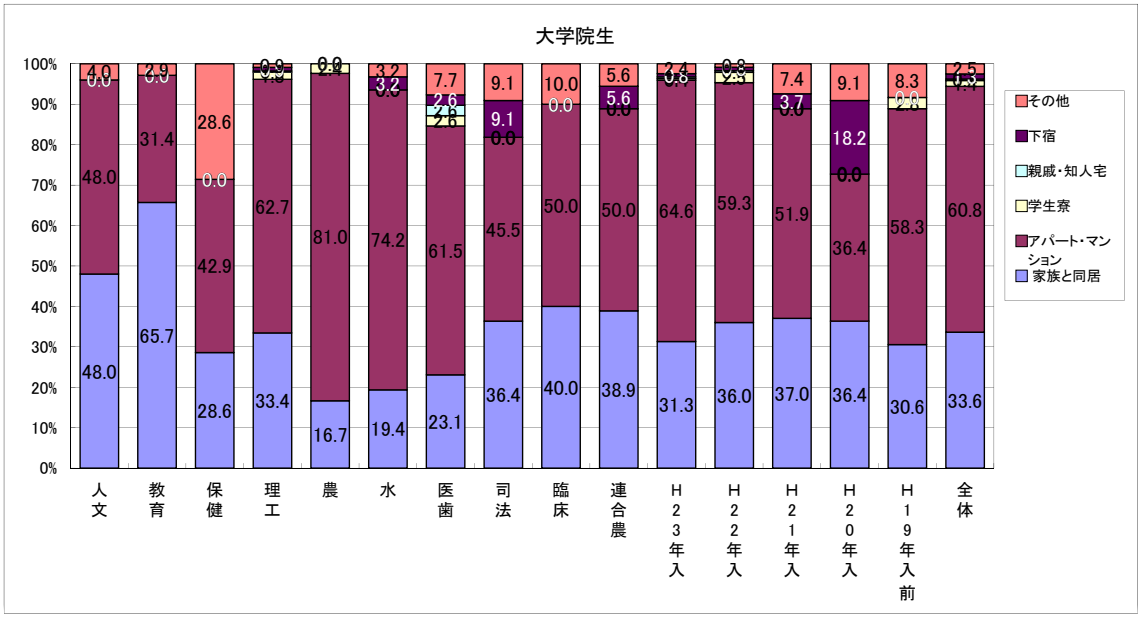
１．現在の住居形態

学部生の住居は、アパート・マンションが主流（56.6%）で、次いで家族と同居（37.0%）が続き、この両者で90%を越える。残りの1/2程度（4.1%）が学生寮に居住している。歯学部・農学部・水産学部で家族と同居の割合が19～25%と低くなっているが、この3学部を持つ大学が全国にそれ程多くなく、学生の出身県が広い地域に分散しているあらわれと思われる。

院生では、学部生に比べ家族と同居がやや減少し（33.6%）、その分アパート・マンションが増加している（60.8%）が、全体的な傾向はほとんど変わっていない。

図Ⅱ-1　現在の住居形態



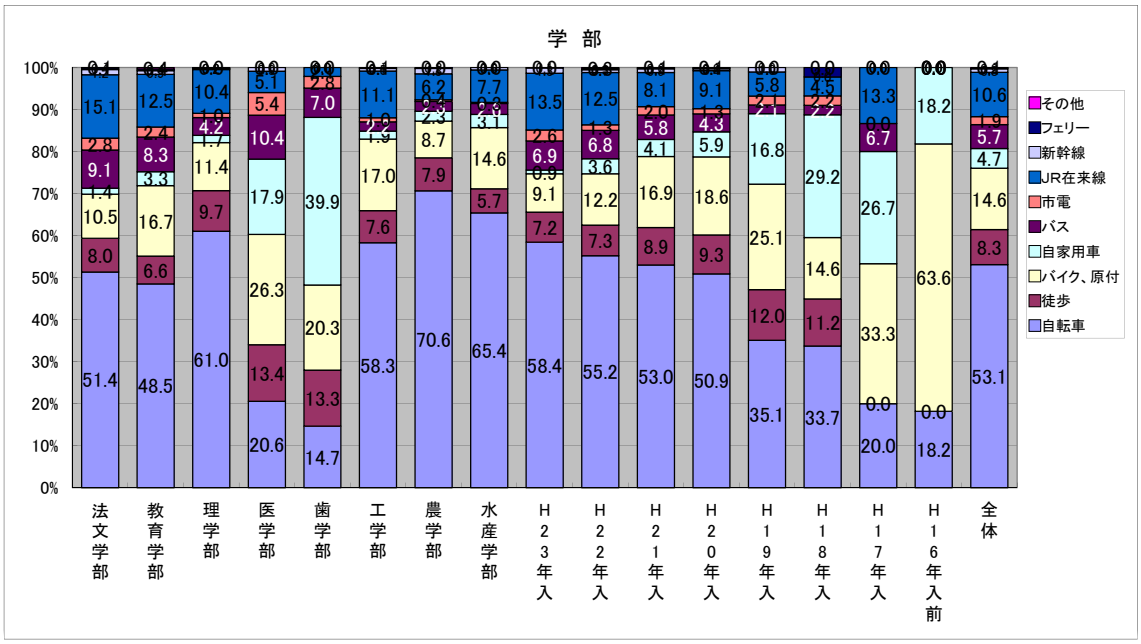


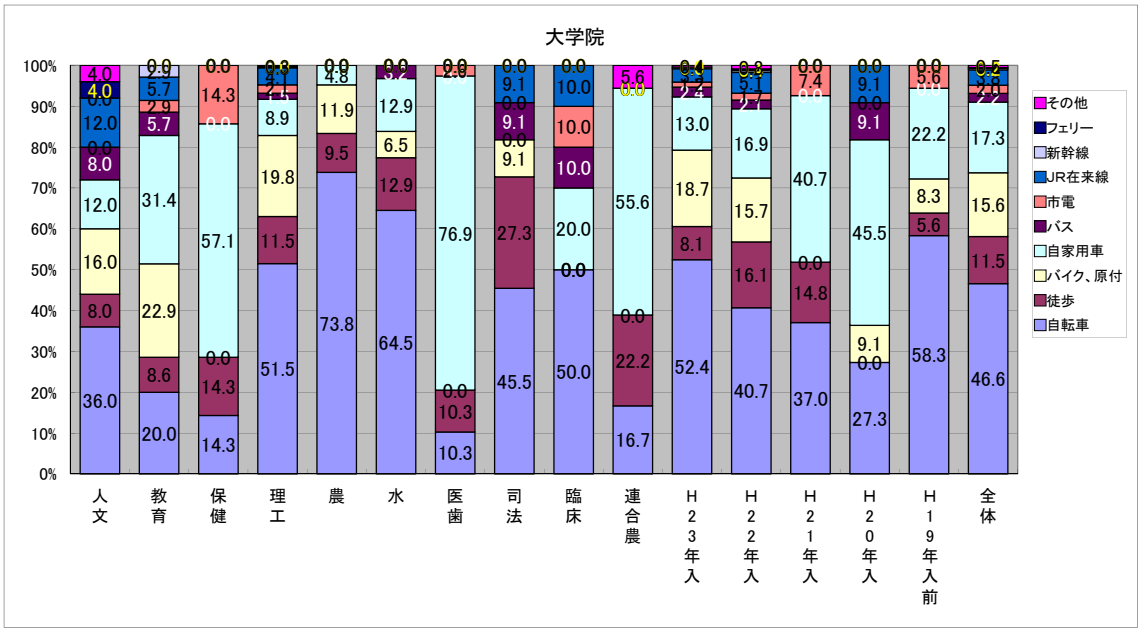
２．通学方法

全体では自転車が 53.1%と最多で、半数以上の学部生が自転車通学をしている。バイク（14.6%）がこれに次ぎ、ＪＲ在来線（10.6%）、徒歩（8.3%）と続く。ただ、郡元・下荒田地区の学部と異なり医・歯学部は自動車（それぞれ 17.9%、39.9%）、バイク（26.3%、20.3%）、徒歩（13.4%、13.3%）が多く、その分自転車が少なくなっている。これは、桜ヶ丘地区の立地条件、交通環境が反映されていると考えられる。また、全体的に入学後の学年進行に伴い、自転車が減少し、バイクが増加している。

院生については、全体では自転車が 46.6%、以下自家用車（17.3%）、バイク（15.6%）、徒歩（11.5%）がほぼ拮抗しているが、学部生と比べると自家用車が増加している。しかし、研究科別に見るとかなり相違があり、自家用車が非常に多い教育学、保健学、医歯学総合、連合農学研究科、自転車が非常に多い農学、水産学研究科など特徴的である。

図Ⅱ-2　通学方法（移動距離の最も長いものを選択）



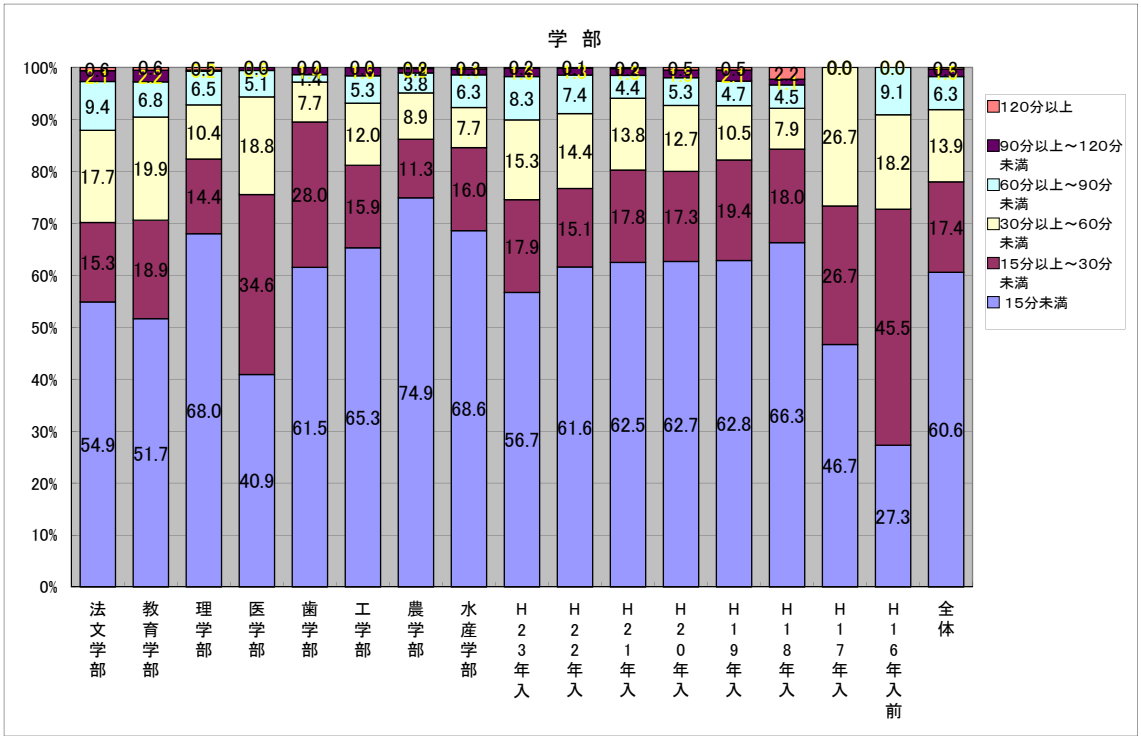


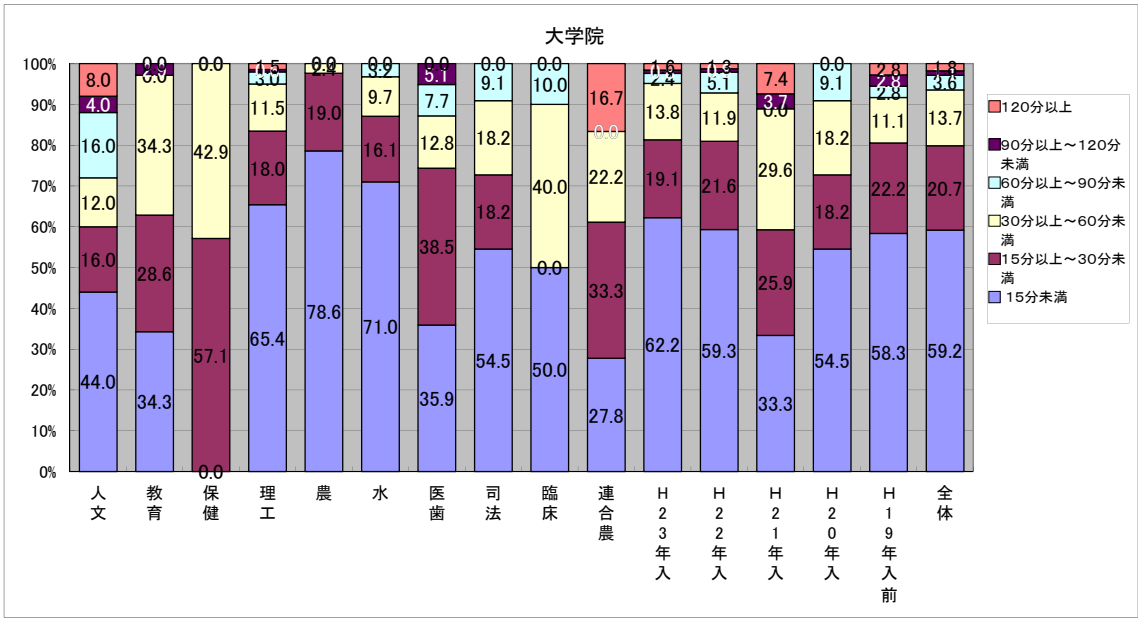
３．通学所要時間（片道）

やはり、大学の近所に居住することが望まれているのか、60.6%の学部生が 15 分圏内に居住し、30 分以内の者（17.4%）を加えるとほぼ 80%の学生が 30 分圏内に居住している事になる。しかし、残り 20%程度の学部生は 30 分以上かかり、2 時間以上のものも散見される。

院生でも、15 分圏内に 59.2%が、15～30 分圏内に 20.7%が居住しており、学部生と大差はない。ただ、研究科間では差があり、自家用車による通学が多かった教育学、保健学、医歯学総合、連合農学研究科では、15 分圏内の居住者が減少し、その分 15～30 分圏の居住者が増加している。

図Ⅱ-3　通学所要時間（片道）



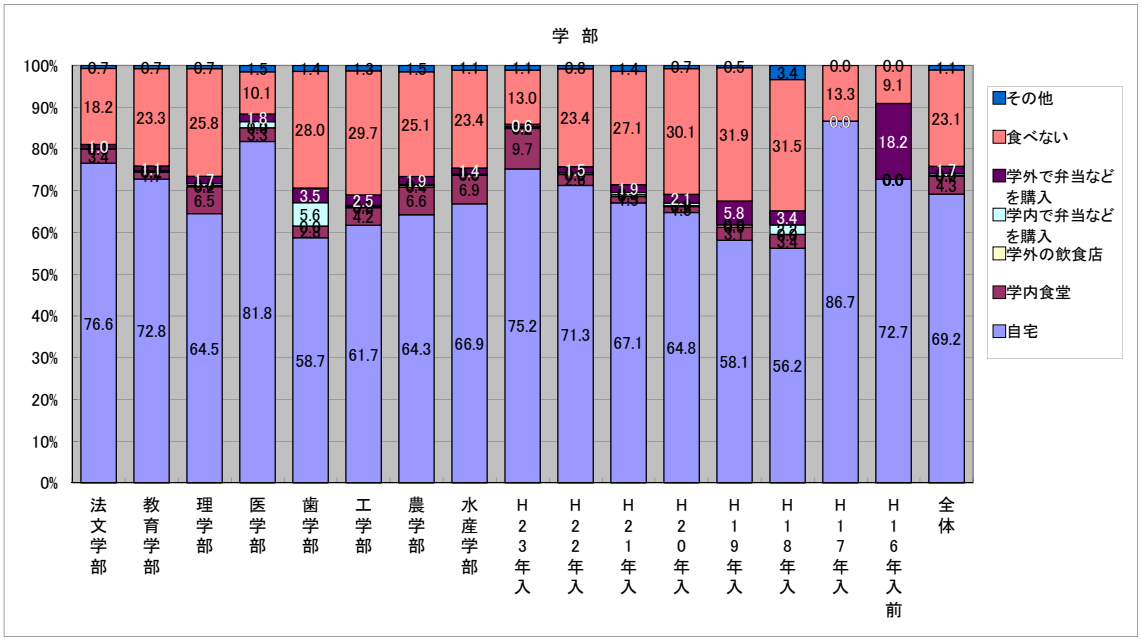


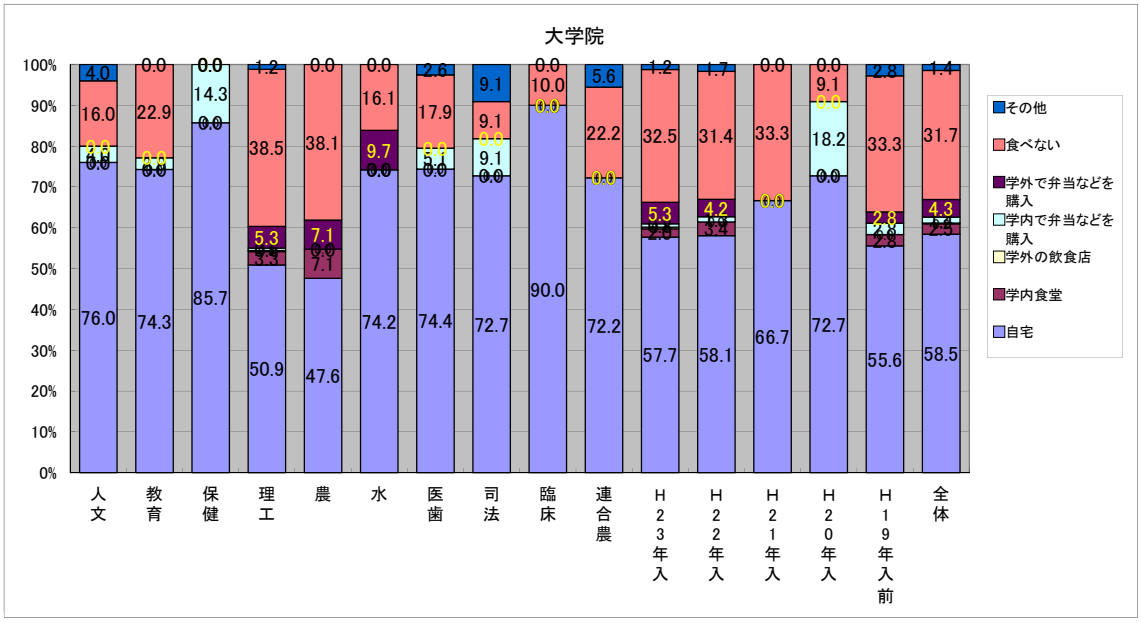
４．食事の場所（朝食）

各学部とも自宅で摂る学生が一番多い（60～80%）が、次に多いのが朝食を食べない（10～30%）であるのは気になるところである。さらに、学年があがるにつれ朝食を摂らない学部生の割合が増加している。

10 研究科中理工学、農学研究科を除く 8 研究科では、70%以上の者が自宅で朝食を摂り、その他のジャンルを加えるとほぼ 80%の者は朝食を摂っており、朝食を摂らない者は多くて 20%程度である。しかし、理工学、農学研究科では自宅で摂っている者はほぼ 50%で、その他のジャンルを加えても朝食を摂っている者は 60%にしかならず、摂っていない者が 38%にもなる。

図Ⅱ-4　食事の場所（朝食）



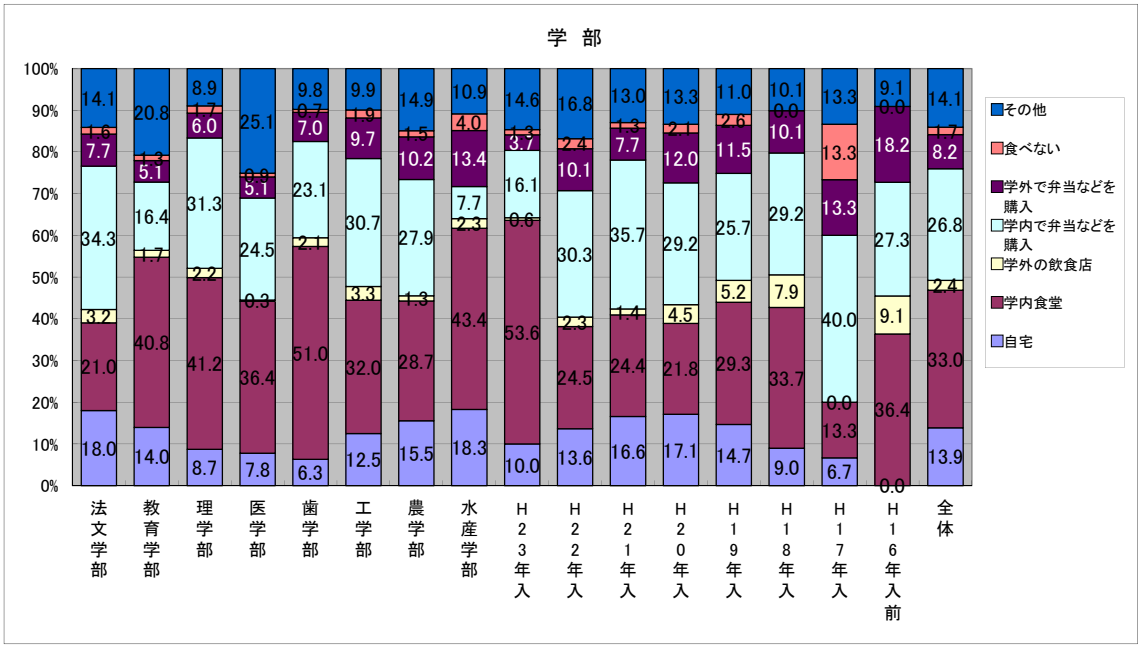


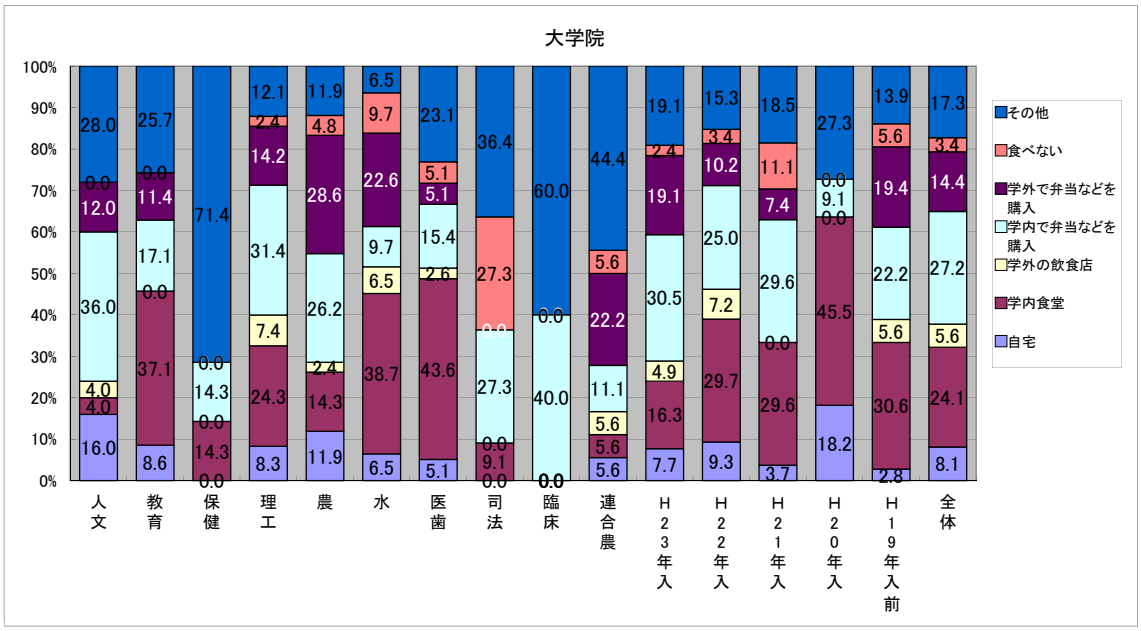
５．食事の場所（昼食）

学内食堂で摂る学部生が多く、学内食堂の充実は学生にとって大きな問題と考えられる。ついで多いのは学内で弁当を購入するである。多分、食べるのは学内であろうと思われる。学外で弁当を購入を加えると、ほぼ７割の学生が昼食を学内で摂っていることになる。

研究科毎のばらつきが大きいが、学内食堂を多く利用するところと、学内外で弁当を購入するのが多いところとがあるようである。保健学、臨床心理学、連合農学研究科ではその他が多く（それぞれ71.4、 60.0、 44.4%）、また、司法政策研究科で昼食を食べないものが27.3%もいるのは特徴的である。

図Ⅱ-5　食事の場所（昼食）



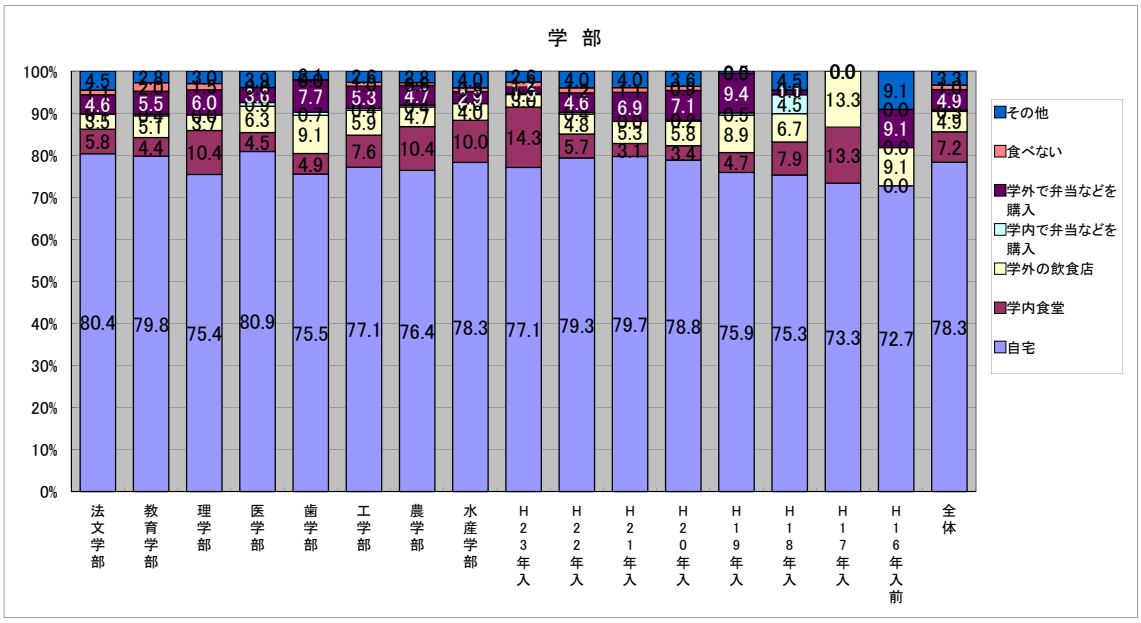


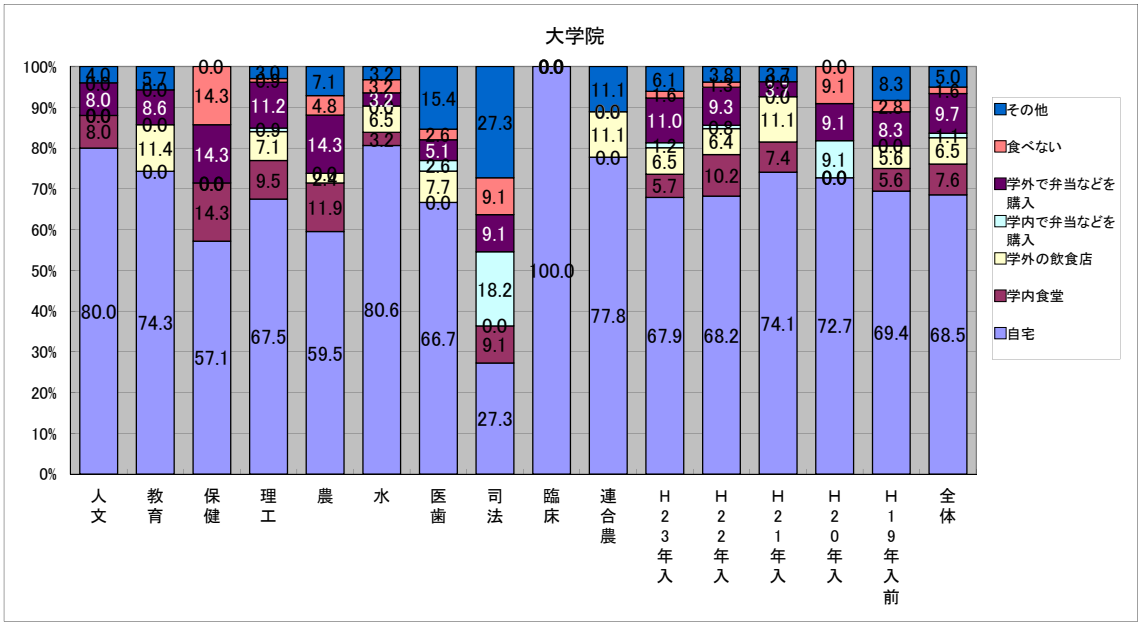
６．食事の場所（夕食）

3 食の中ではどの学部とも自宅で摂る割合が高く、ほぼ 80%の学部生が自宅で夕食を摂っている。5～10%の学部生が夕食も学内食堂を利用している。また、3 食の中では学外の飲食店を利用する割合が高いが、それでも 5%前後である。

院生の場合も全体的には 3 食中自宅で摂る比率が一番高いが、68.5%と数字的には学部生より減少し、その他の利用者が増えている。夕食も 7.6%は学内食堂を、9.7%は学外での弁当購入を利用している。

図Ⅱ-6　食事の場所（夕食）





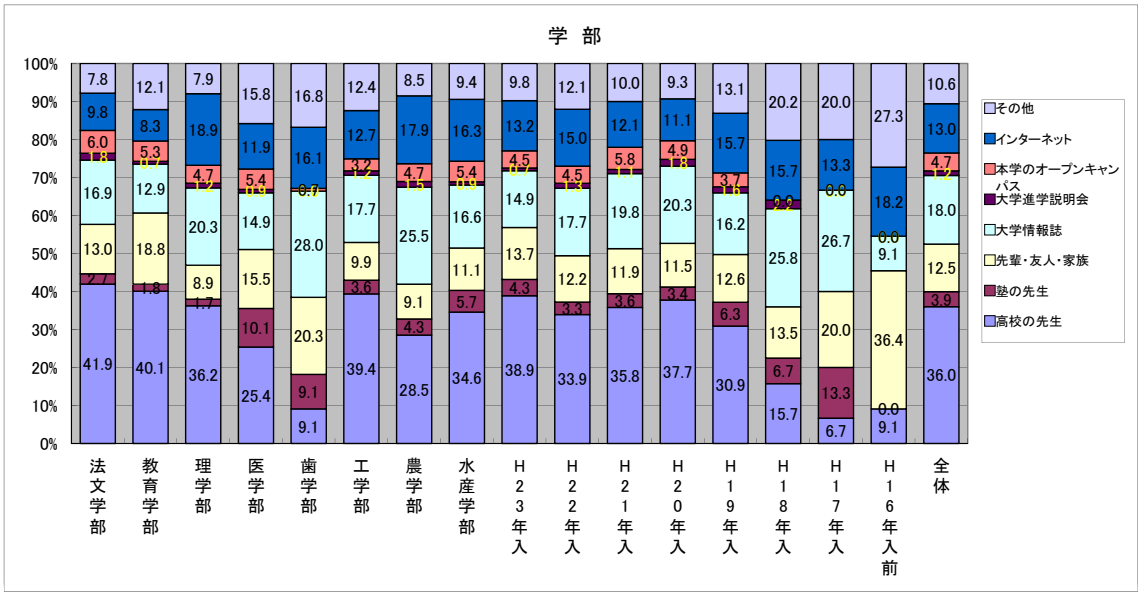
第３章　学習について

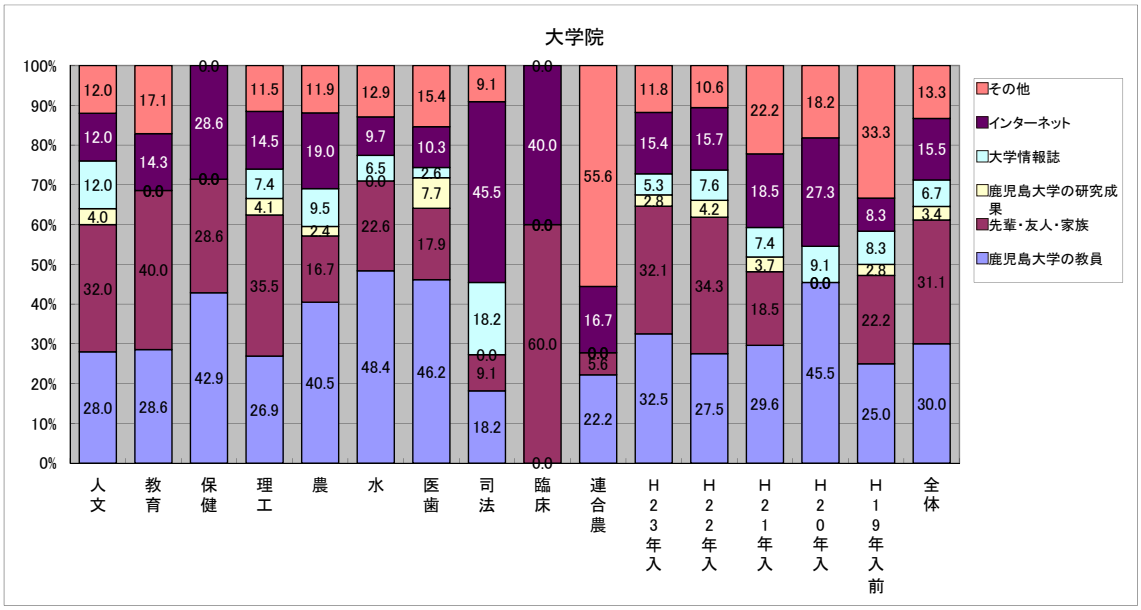
１．本学選択時の主たる情報源

「高校の先生」が最も高く、「大学情報誌」、「インターネット」、「先輩・友人・家族」の順である。「本学のオープンキャンパス」は4.7%であるが、重要な情報源の一つである。歯学部は「大学情報誌」、「先輩・友人・家族」、「塾の先生」という回答が目立ち、その分「高校の先生」という回答が少ない。

院生の本学選択時の主たる情報源は、「鹿児島大学の教員」(30.0%)、「先輩・友人・家族」(31.1%)、および「インターネット」(15.5%) である。研究科別では、臨床心理学研究科で「先輩・友人・家族」(60.0%)と「インターネット」(40.0%)、司法政策研究科で「インターネット」(45.5%)と「大学情報誌」(18.2 %) が高い比率を示し、特色がみられる。

図Ⅲ-1　本学選択時の主たる情報源



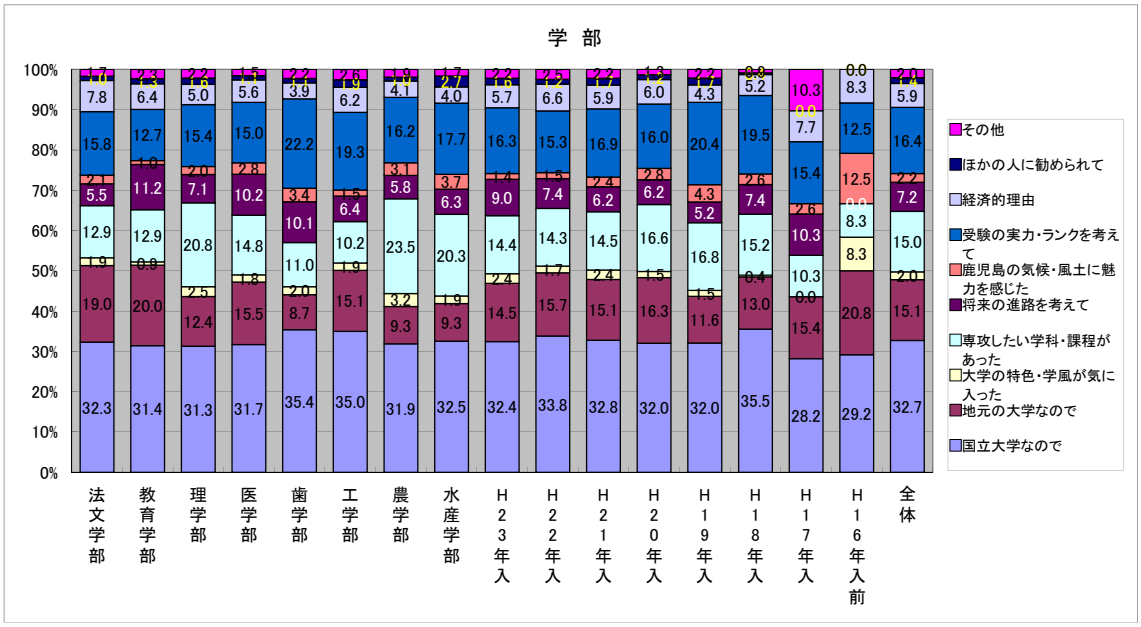


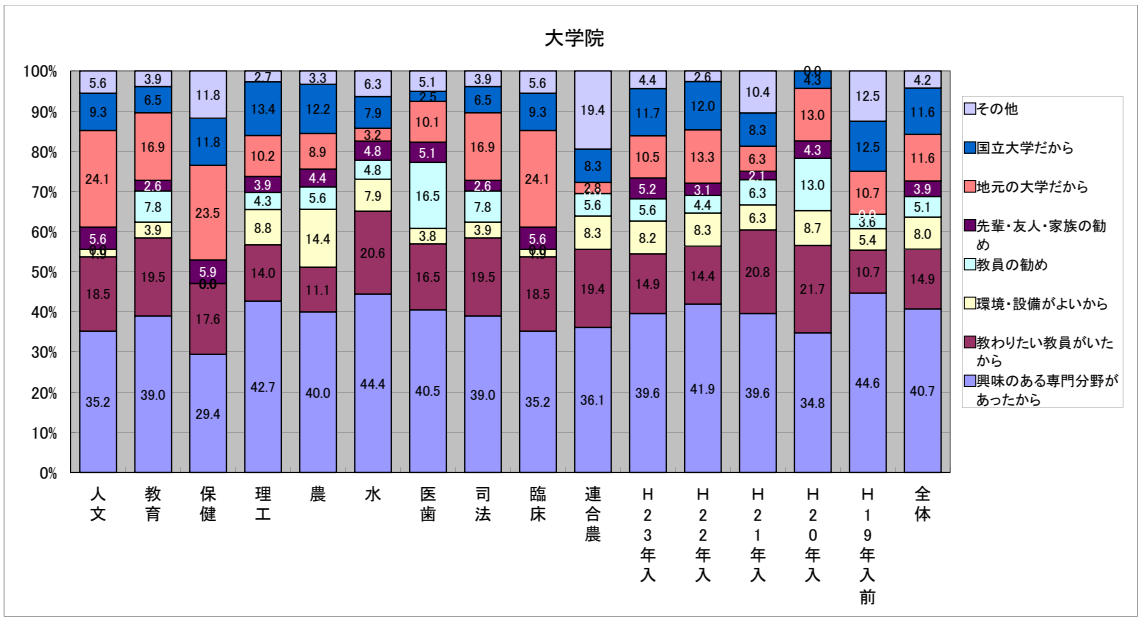
２．入学理由

「国立大学なので」(32.7％) の回答が最も多く、次に「受験の実力・ランクを考えて」(16.4％)、「専攻したい学科・課程があった」(15.0％)、「地元の大学なので」(15.1％)がほぼ同率の回答である。「専攻したい学科・課程があった」は、理学部、農学部、水産学部で高い回答であり、「将来の進路を考えて」は、教育学部、医学部、歯学部で高い回答であった。

院生では「興味のある専門分野があったから」(40.7％)、「教わりたい教員がいたから」(14.9％)、「地元の大学だから」と「国立大学だから」(11.6％) が主たる選択理由となっている。研究科では、人文社会科学・保健学・臨床心理学研究科で「地元の大学だから」が２割を超えて高く、医歯学総合研究科で「教員の勧め」(16.5％)、農学研究科「環境・設備が良いから」(14.4％) と特色がみられる。

図Ⅲ-2　入学理由（3つまで回答可）

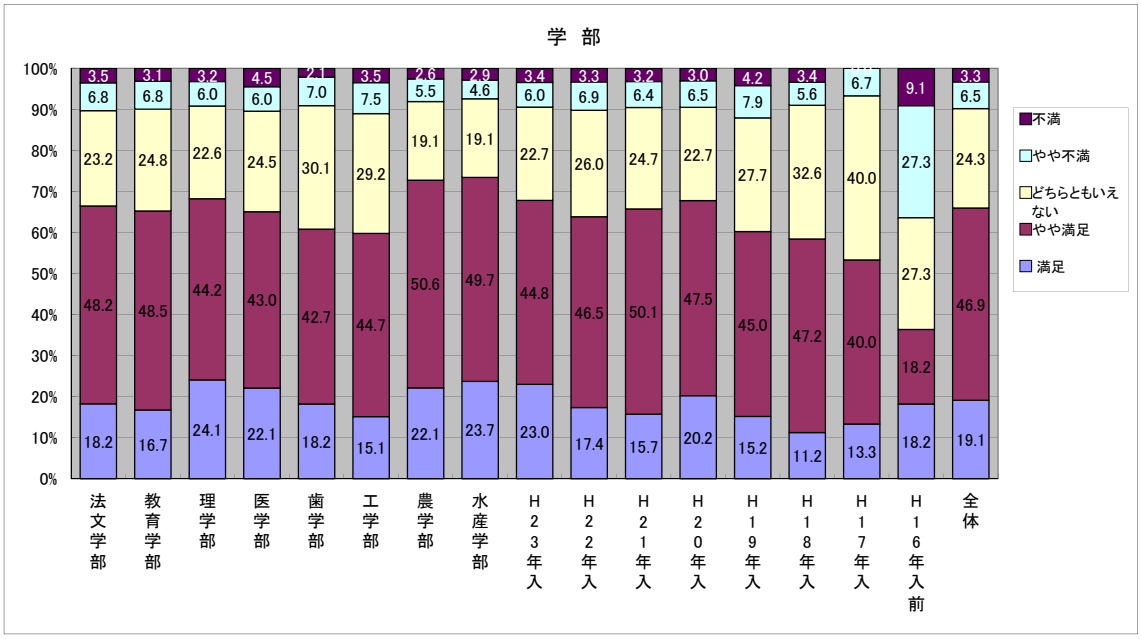




３．授業の満足度（学部のみ）

「満足」（19.1 %）と「やや満足」（46.9 %）の回答を合わせると、学部間でやや差は認められるものの、6～7 割を占めた。「H 16 年以前入学」で「やや不満」、「不満」の回答が多い。

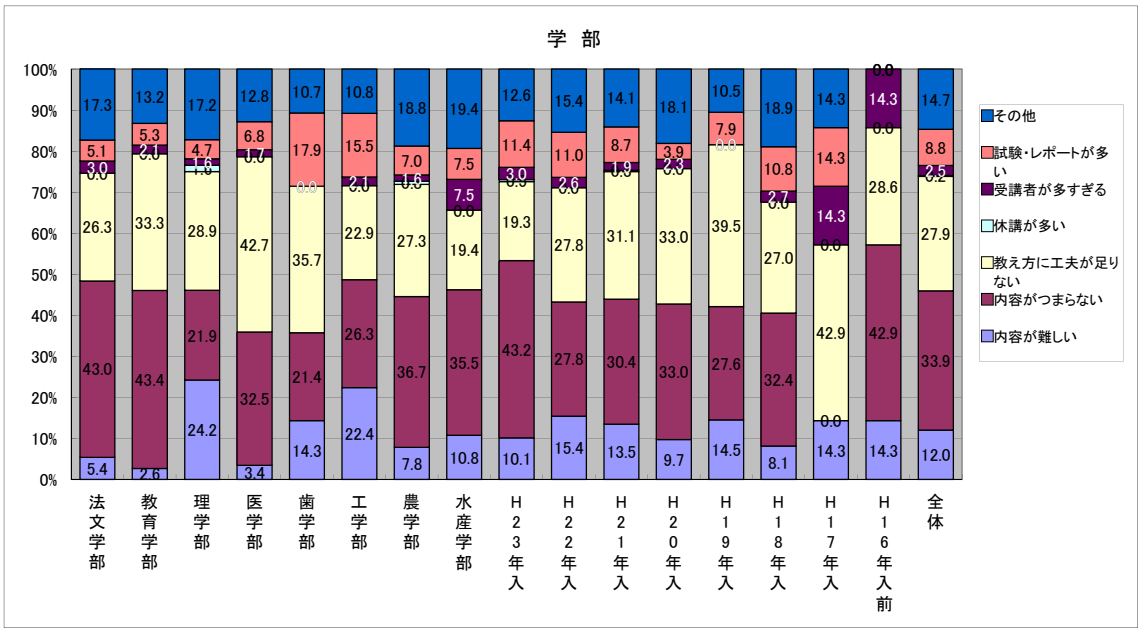
図Ⅲ-3　授業の満足度



４．授業に対する不満理由（学部のみ）

授業に対する満足度に対して「やや不満」、「不満足」と回答した学生の不満理由は、学部間により差がみられる。理学部、工学部で「内容が難しい」、法文学部、教育学部で「内容がつまらない」、医学部、歯学部、教育学部で「教え方に工夫が足りない」などの意見が目立つ。

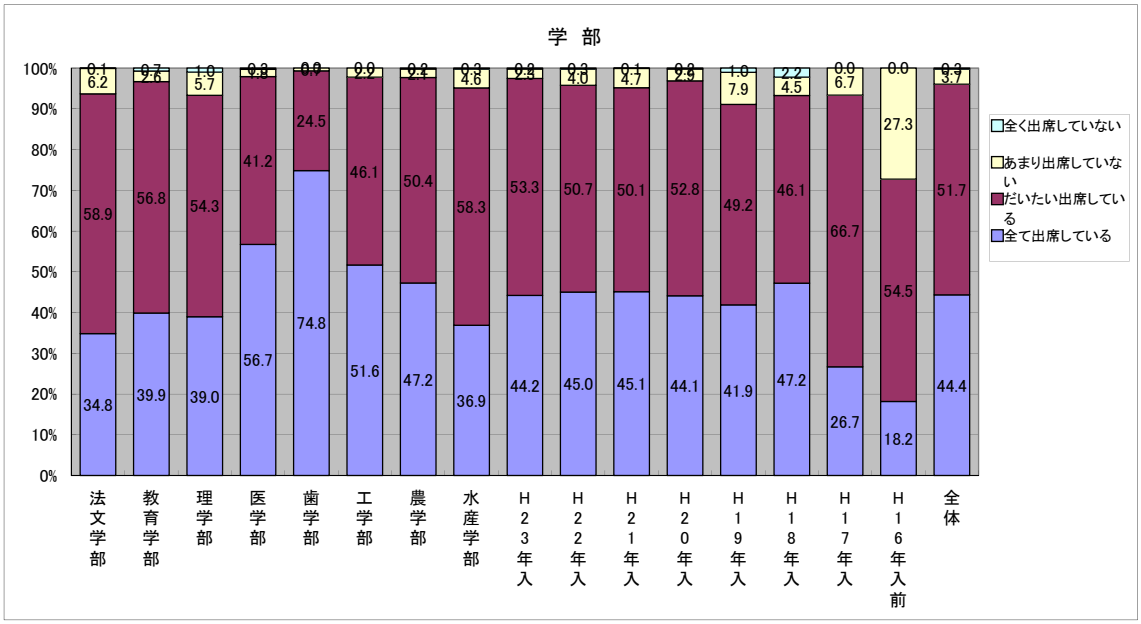
図Ⅲ-4　授業に対する不満理由



５．授業への出席状況（学部のみ）

「全て出席している」、「だいたい出席している」をあわせると 96 %の割合である。歯学部で「全て出席している」（74.8 %）の割合が高い。

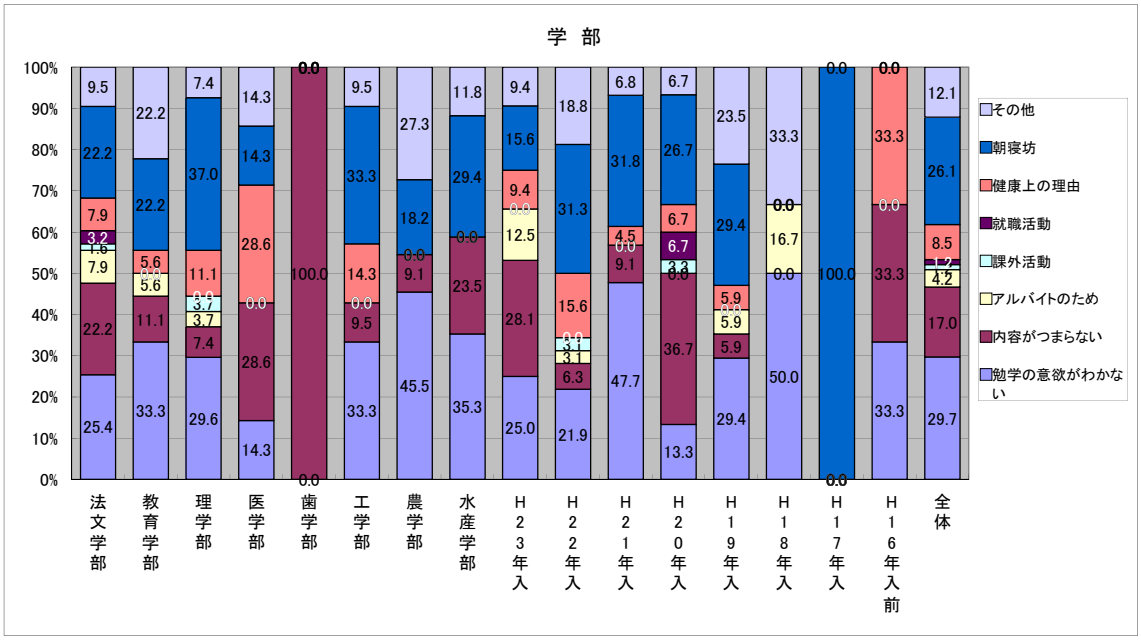
図Ⅲ-5　授業への出席状況



６．授業の欠席理由（学部のみ）

授業に「あまり出席していない」、「全く出席していない」学生の欠席理由としては、全体的には、「勉学の意欲がわかない」（29.7 %）、「朝寝坊」（26.1 %）、「内容がつまらない」（17.0 %）の割合が高いが、学部間で差がみられる。医学部では、「内容がつまらない」、「健康上の理由」の割合が高かった。歯学部では「内容がつまらない」、H17 年入学で「朝寝坊」が目立つが回答数の影響を受けている可能性がある。

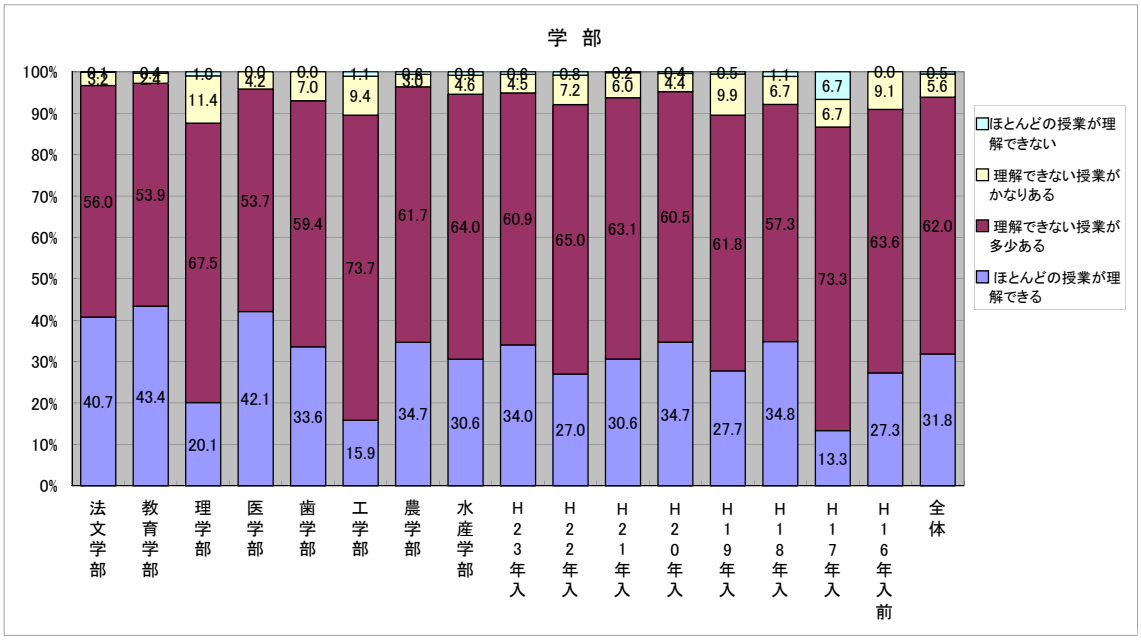
図Ⅲ-6　授業の欠席理由



７．授業内容の理解度（学部のみ）

「ほとんどの授業が理解できる」と回答した割合は全体で３割であるが、法文学部、教育学部、医学部で４割を超えて高く、理学部（20.１％）、工学部（15.９％）では少ない。「理解できない授業がかなりある」「ほとんどの授業が理解できない」と答えた学生は、理学部、工学部で１割を超え全体（6.１％）に比べて多い。

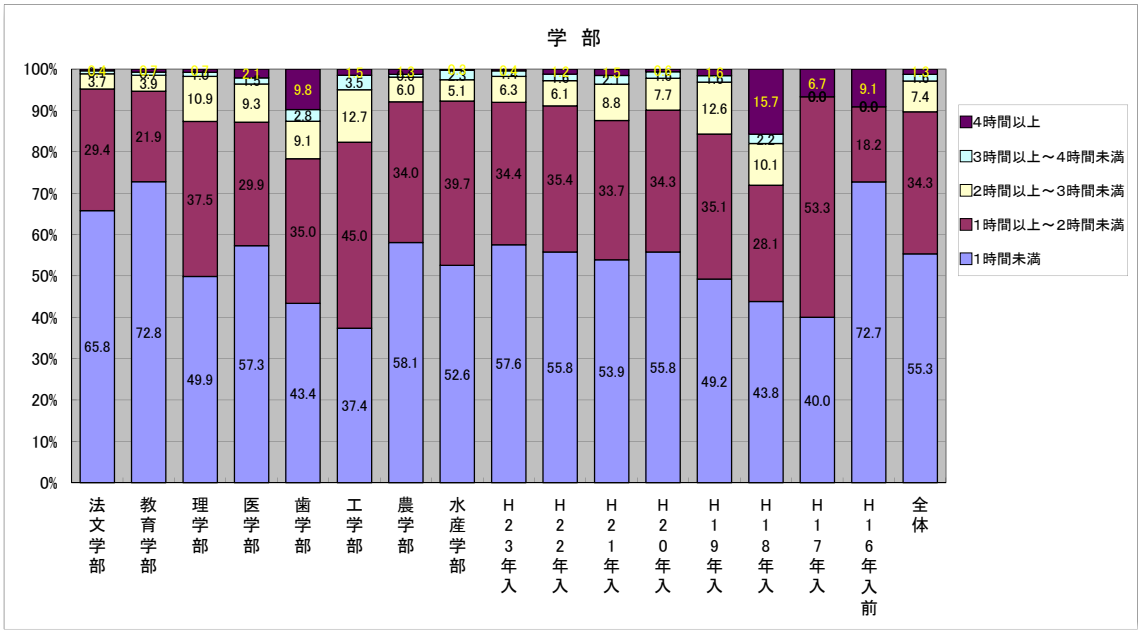
図Ⅲ-7　授業内容の理解度



８．１日の自習時間（学部のみ）

歯学部で「4時間以上」と回答した学生が約１割であり多い。全体では、「1時間未満」の回答率が55.3%であり、勉強時間が少ない。

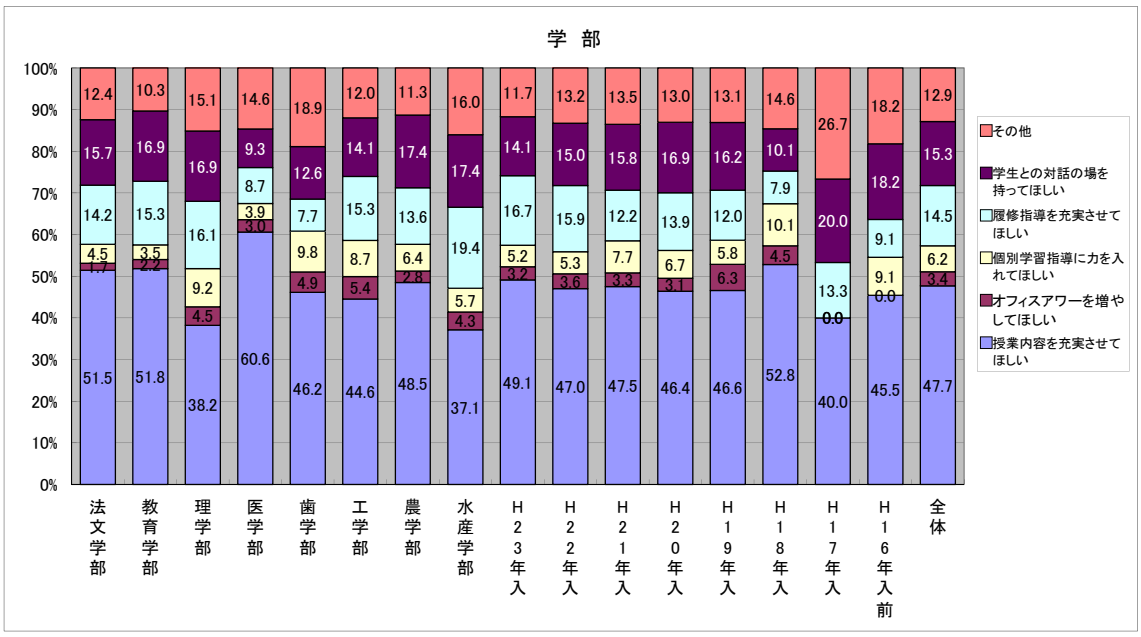
図Ⅲ-8　１日の自習時間



９．教員に対する要望（学部のみ）

全体では、「授業内容を充実させて欲しい」（47.7％）の割合が高く、次に「学生との対話に場をもって欲しい」（15.3％）、「履修指導を充実させて欲しい」（14.5％）であった。医学部では「授業内容を充実させて欲しい」（60.6％）が、水産学部では、「履修指導を充実させて欲しい」（19.4％）が、全体に比べて高い割合であった。

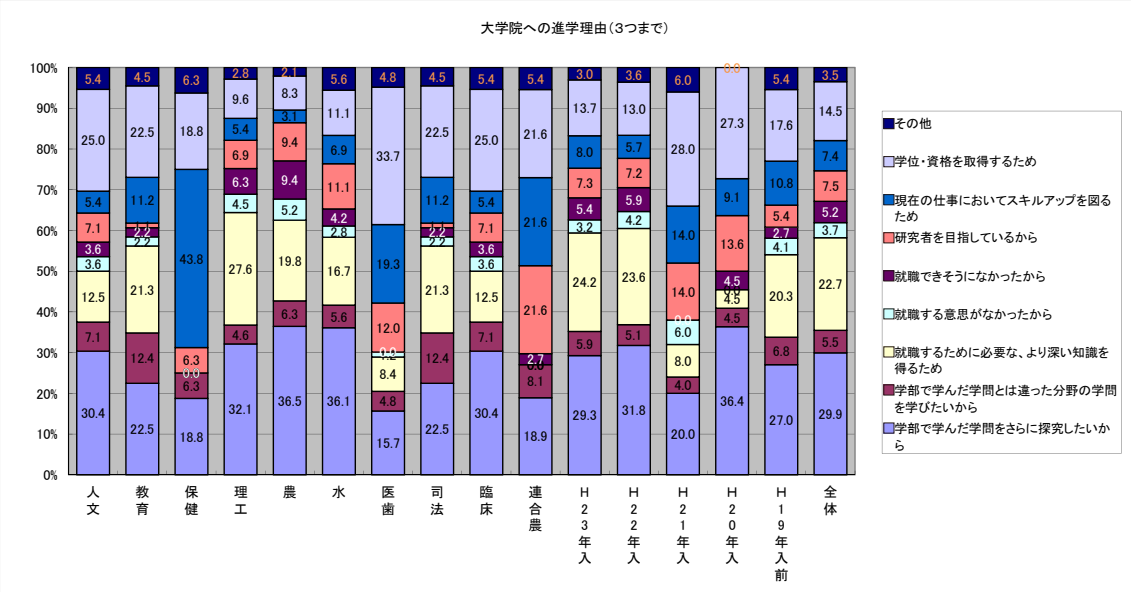
図Ⅲ-9 教員に対する要望



１０．進学理由（大学院のみ）

全体としては、「学部で学んだ学問をさらに探求したいから」(29.9％)、「就職するために必要な、より深い知識をえるため」(22.7％)、「学位・資格を取得するため」(14.5％)が大学院への進学の主たる理由である。研究科の特色としては、保健学と医歯学総合研究科では「学部で学んだ学問をさらに探求したいから」はそれぞれ18.8％、15.7％と低いものの保健学研究科では「現在の仕事においてスキルアップを図るため」(43.8％)、医歯学総合研究科で「学位・資格を取得するため」(33.7％) と高い割合を示した。「学位・資格を取得するため」で約２割を示したのは、人文・教育学・保健学・司法政策・臨床心理学・連合農学研究科である。「研究者を目指しているから」については、連合農学研究科で21.6％と高い値を示し、教育学と司法政策研究科で1.1％と低い値であった。

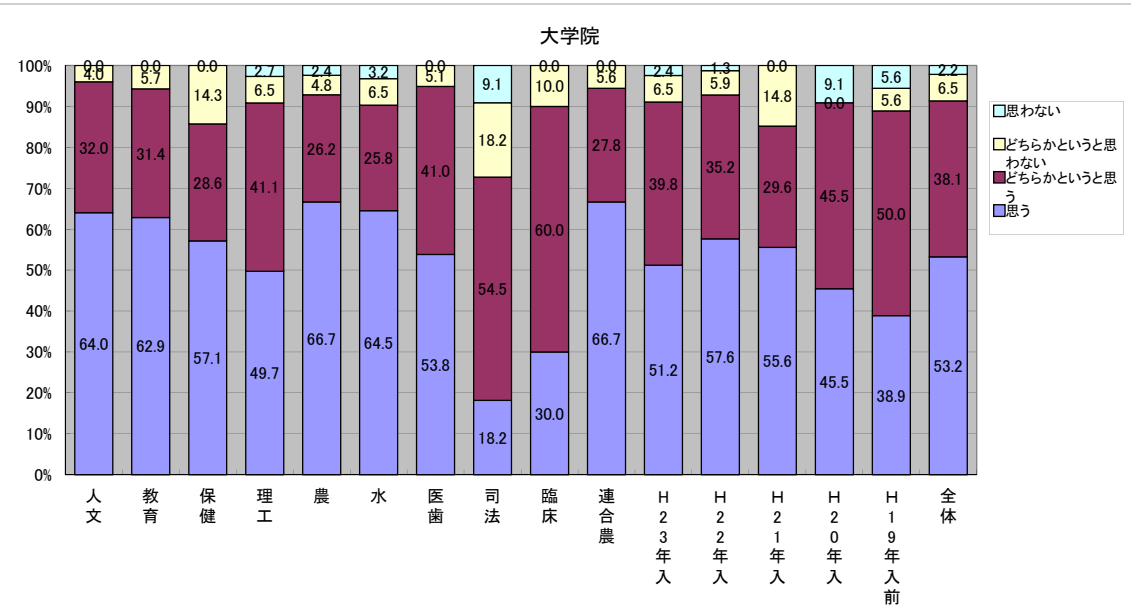
図Ⅲ-10 進学理由



１１．研究科・専攻の適合（大学院のみ）

全体では、「思う」(53.2％) と「どちらかというと思う」(38.1％) であり、あわせると９割以上となる。研究科では、司法政策研究科で「思う」(18.2％) と「どちらかというと思う」(54.5％)となり他とは異なった傾向を示し、また、これらをあわせた値も72.7％と低い値を示した。

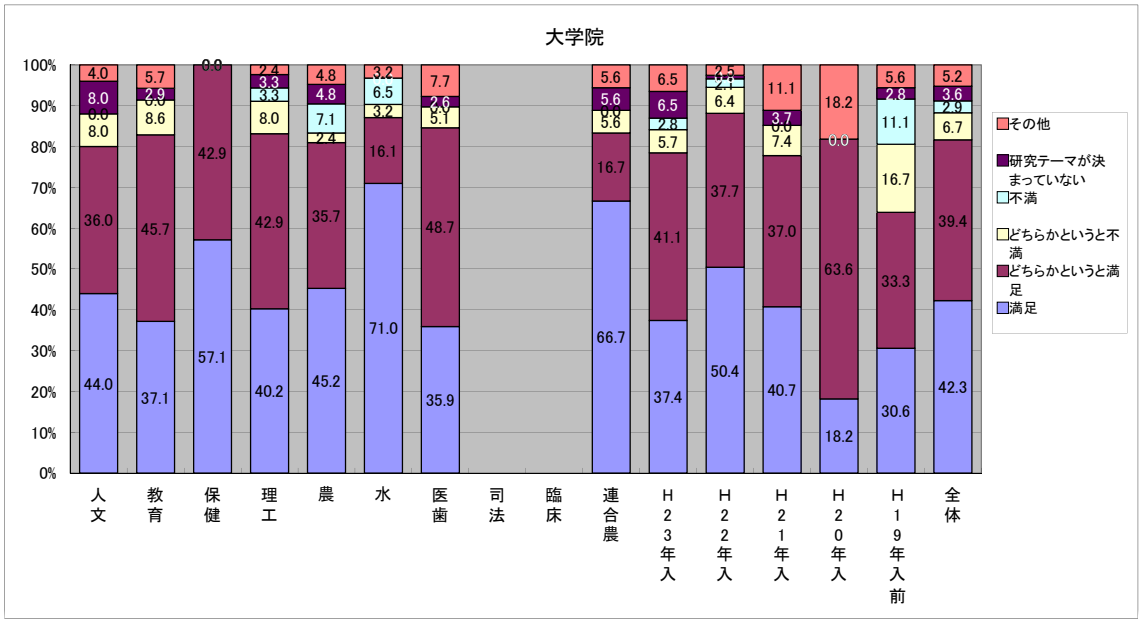
図Ⅲ-11 研究科・専攻の適合



１２．修士（博士）論文の研究テーマの満足度（大学院のみ）

全体では、「満足」（42.3％）、「どちらかというと満足」（39.4％）の回答があり、8割以上がほぼ満足しているとの回答である。「不満」は2.9％と少ないが、農学（7.1％）、水産学研究科（6.5％）で、やや高い値を示した。「テーマが決まっていない」が人文社会科学(8.0％)、連合農学研究科(5.6％)の回答である。（司法政策研究科及び臨床心理学研究科は専門職大学院のため、この設問からは除外。）

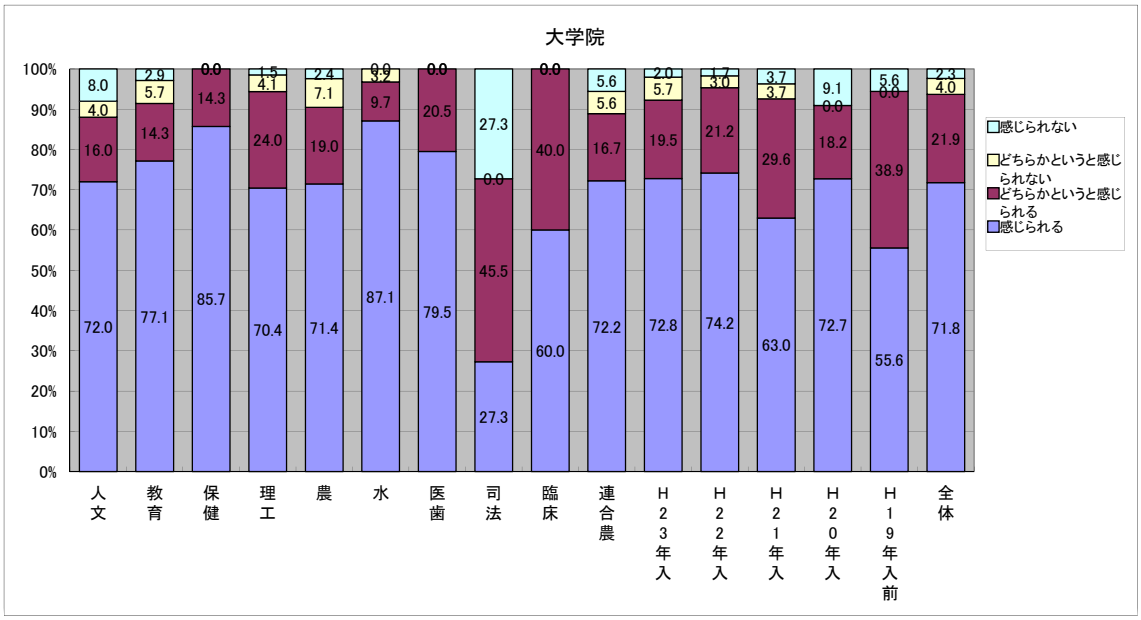
図Ⅲ-12 修士（博士）論文の研究テーマの満足度



１３．教員の教育・研究に対する熱意度（大学院のみ）

全体では、「感じられる」（71.8％）、「どちらかというと感じられる」（21.9％）であり、9割以上を占めている。「どちらかというと感じられない」、「感じられない」をあわせて1割を超えるのは、人文社会科学(12.0％)、司法政策（27.3％）、連合農学研究科(11.2％)である。

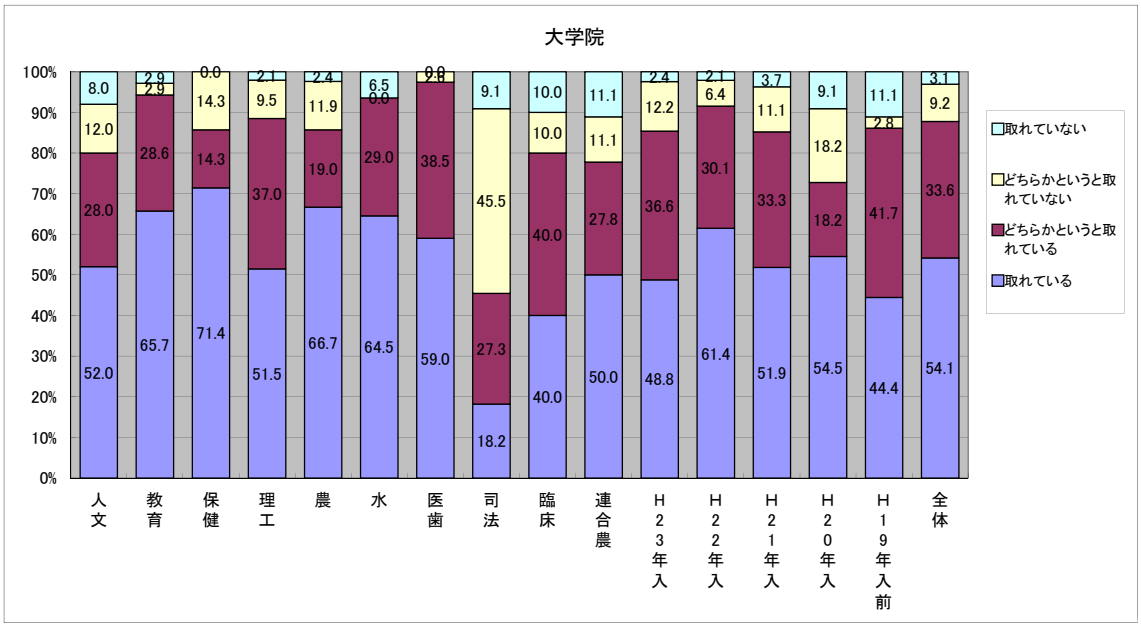
図Ⅲ-13　教員の教育・研究に対する熱意度



１４．指導教員とのコミュニケーション（大学院のみ）

全体としては、指導教員とのコミュニケーションについて「取れている」(54.1 %)、「どちらかというと取れている」(33.6 %) で、約 88 %を占め、おおむね良好である。一方、司法政策研究科では「どちらかというと取れていない」(45.5 %)、「取れていない」(9.1 %)で高い回答であった。

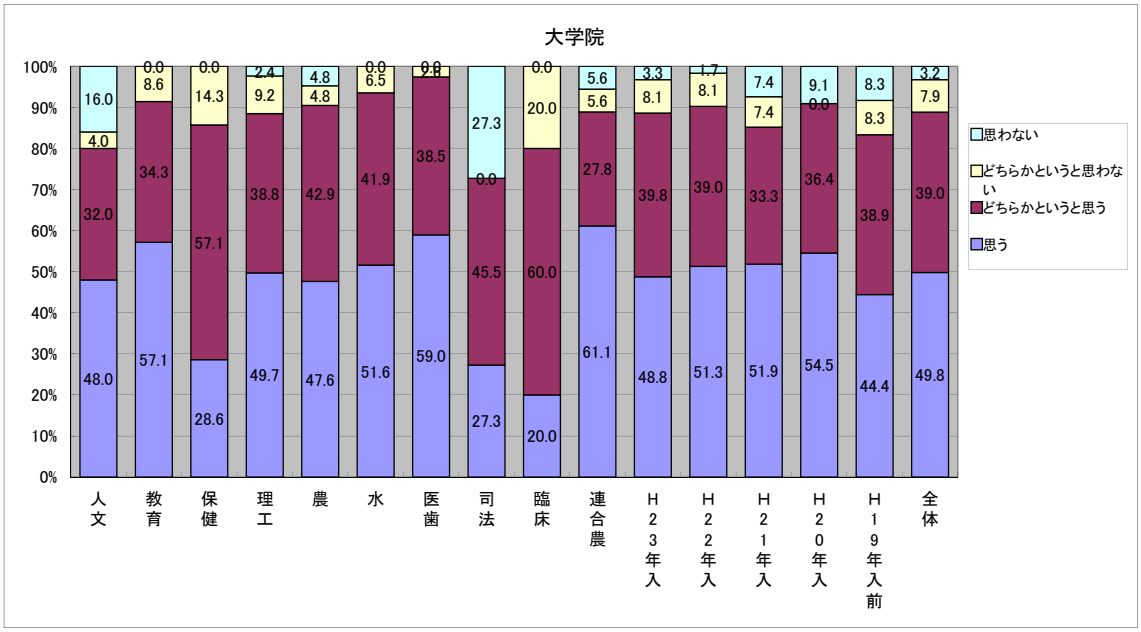
図Ⅲ-14　指導教員とのコミュニケーション



１５．大学院のレベルでの教育の実施度（大学院のみ）

大学院にふさわしいレベルでの教育が行われているかについて、全体では「思う」(49.8 %)、「どちらかというと思う」(39.0%)が 8 割以上を占め、大半がふさわしいレベルの教育が行われているとの回答である。「どちらかというと思わない」については臨床心理学研究科で 20.0 %、「思わない」について、人文社会科学（16.0 %）、司法政策研究科（27.3 %）で高い回答があった。

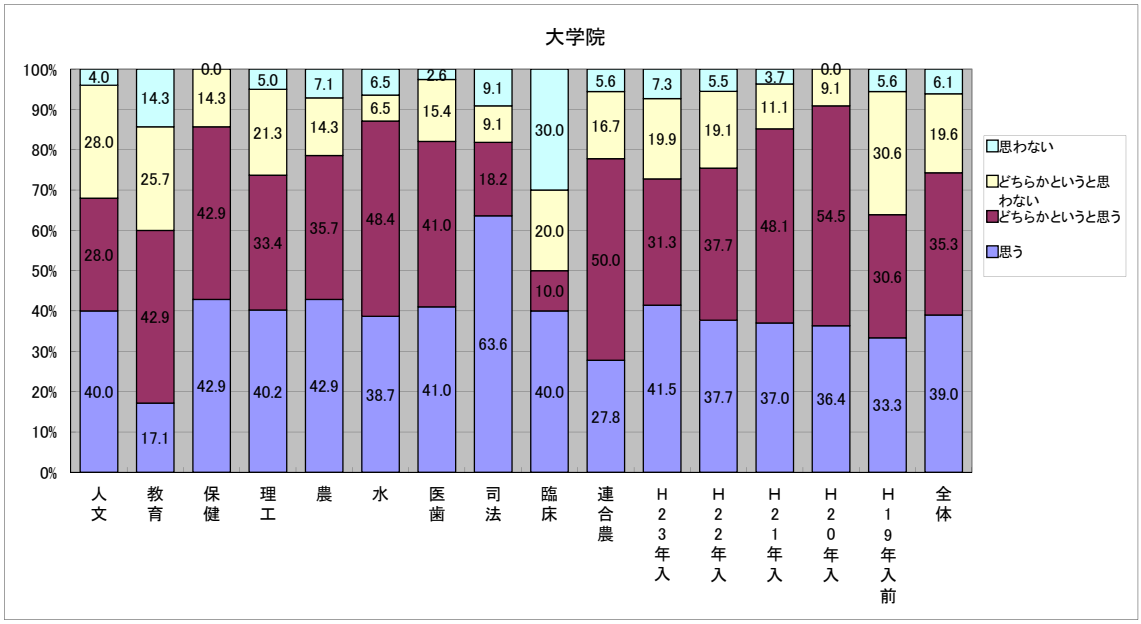
図Ⅲ-15　大学院のレベルでの教育の実施度



１６．研究設備・資料等の充実度（大学院のみ）

保健学、理工学、農学、水産学、医歯学総合、司法政策、連合農学研究科において、研究設備・資料等が整っていると「思う」、「どちらかというと思う」が7～8割であるのに対して、教育学、臨床心理学研究科では5～6割であり満足度が低い傾向にあった。

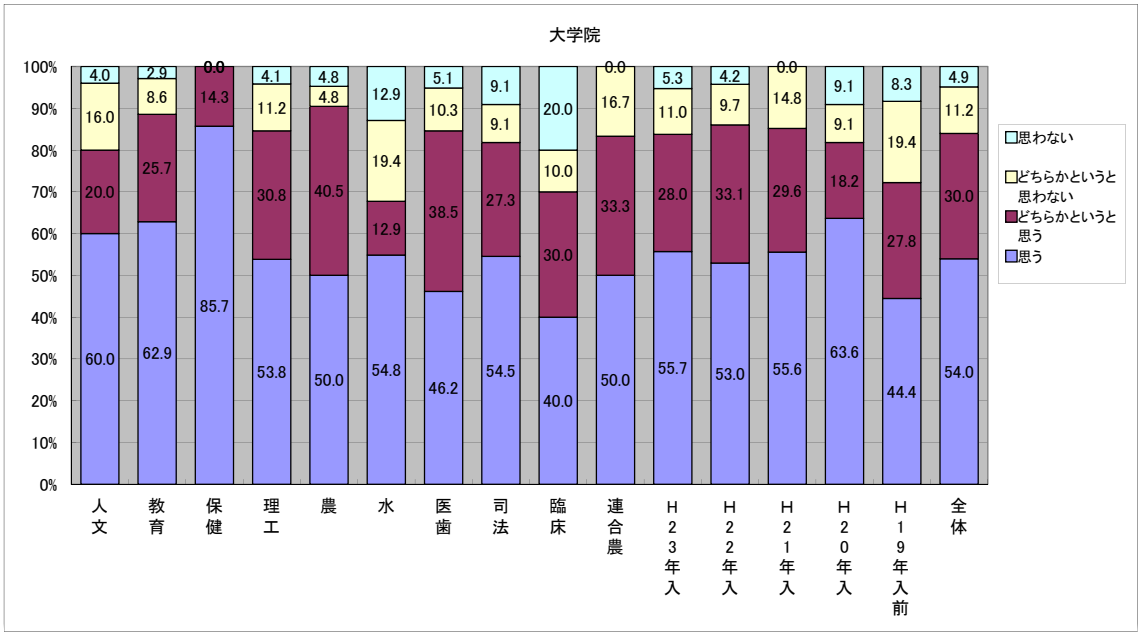
図Ⅲ-16　研究設備・資料等の充実度



１７．研究スペースの確保（大学院のみ）

研究スペースの確保については、全体では「思う」(54％)と「どちらかというと思う」(30％)が8割であり満足度はおおむね高いと評価しているが、水産学と臨床心理学研究科で「どちらかというと思わない」と「思わない」で3割であり、研究スペースに対する満足度が低い傾向にある。

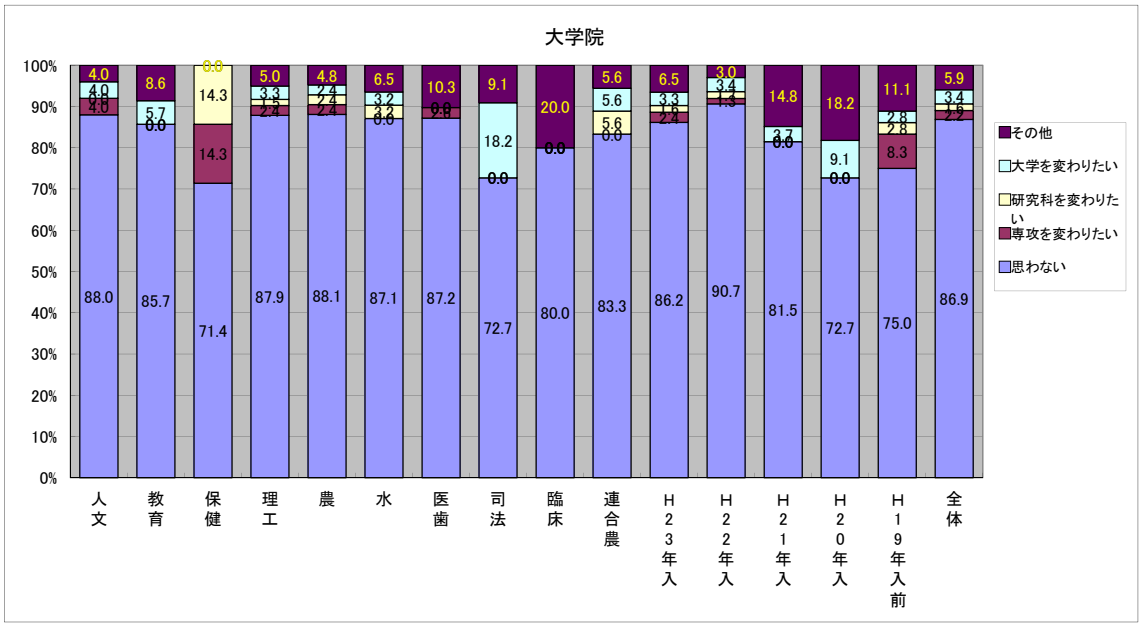
図Ⅲ-17　研究スペースの確保



１８．所属研究科・専攻の変更希望（大学院のみ）

全体では、所属研究科・専攻の変更を「思わない」が 86.9 %で高いが、保健学研究科で「専攻を変わりたい」、「研究科を変わりたい」をあわせると 28.6 %、司法政策研究科で「大学を変わりたい」が 18.2 %と高い変更希望を示した。

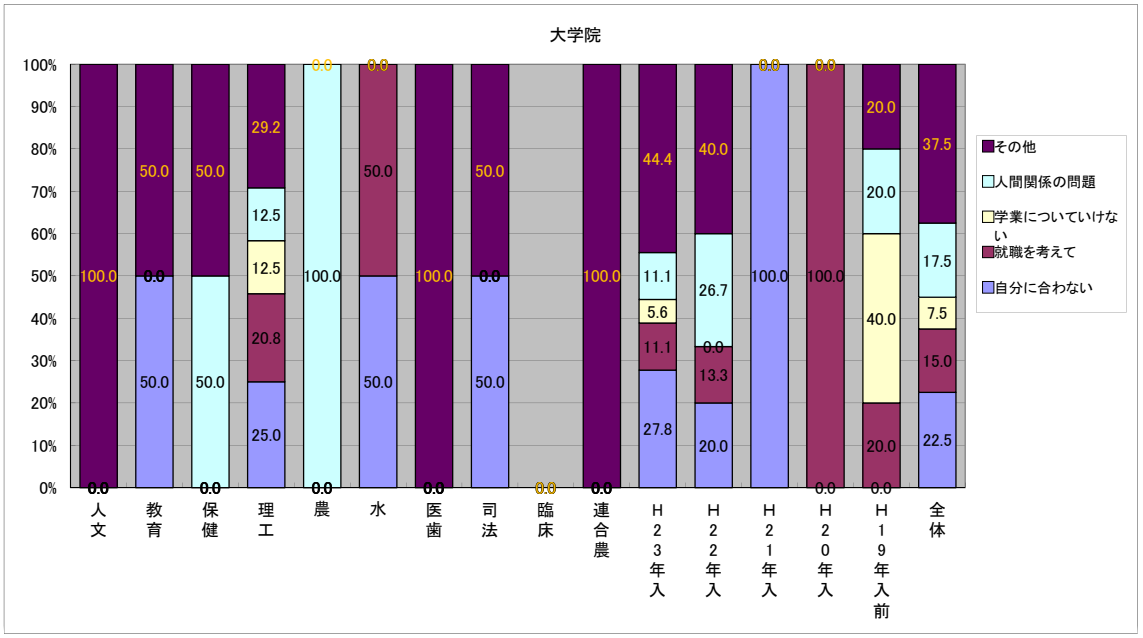
図Ⅲ-18　所属研究科・専攻の変更希望



１９．所属研究科・専攻の変更希望の理由（大学院のみ）

回答人数が少ないので、傾向を確認できない。種々理由が認められる。

図Ⅲ-19　所属研究科・専攻の変更希望の理由

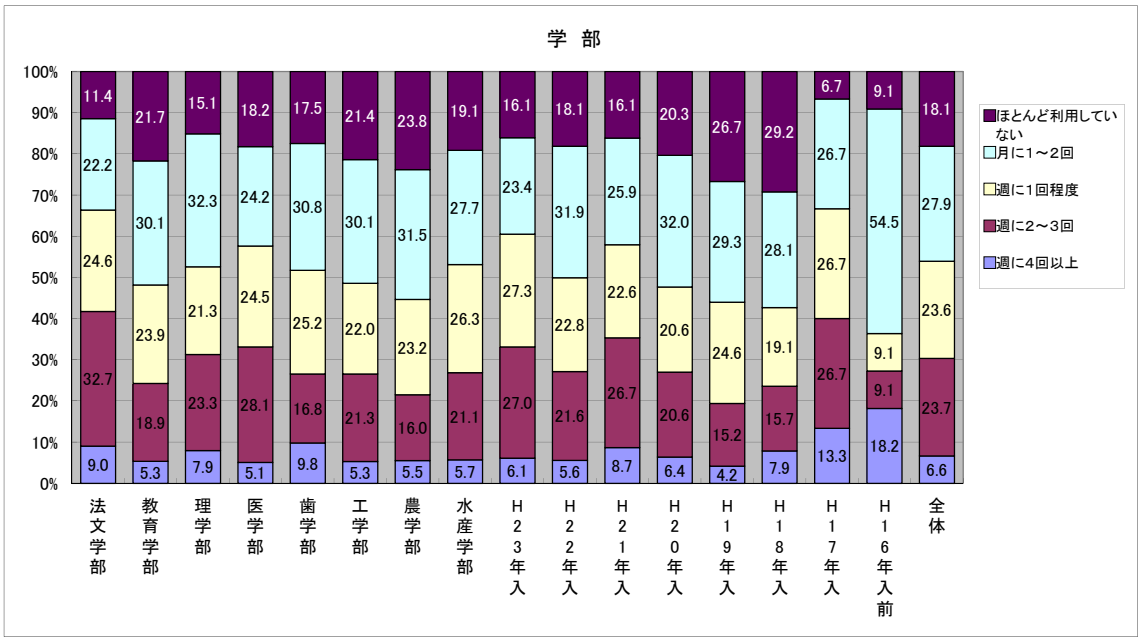


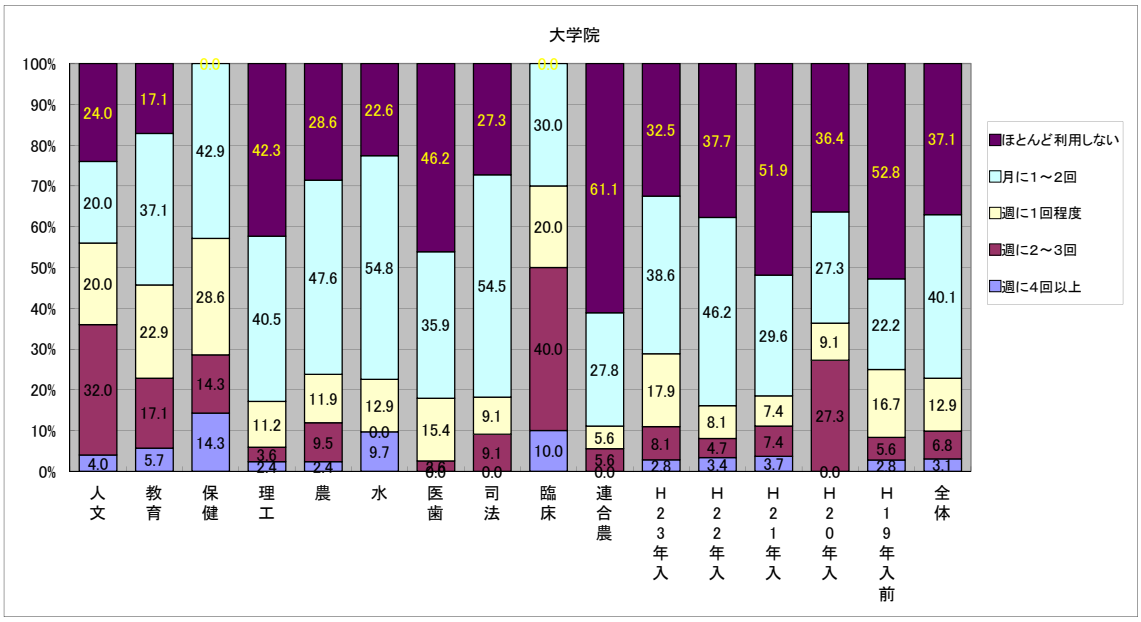
２０．附属図書館の利用頻度

「月に１～2回」、「ほとんど利用していない」をあわせると全体で46%であり、5割を超える学部もある。

院生全体では、「月に1～2回」と「ほとんど利用しない」で77.2 %と利用頻度は高いとはいえない。週に1回以上でみると、人文社会科学(56.0 %)、保健学(57.2 %)、臨床心理学研究科(70.0%)で利用頻度は高い。

図Ⅲ-20　附属図書館の利用頻度



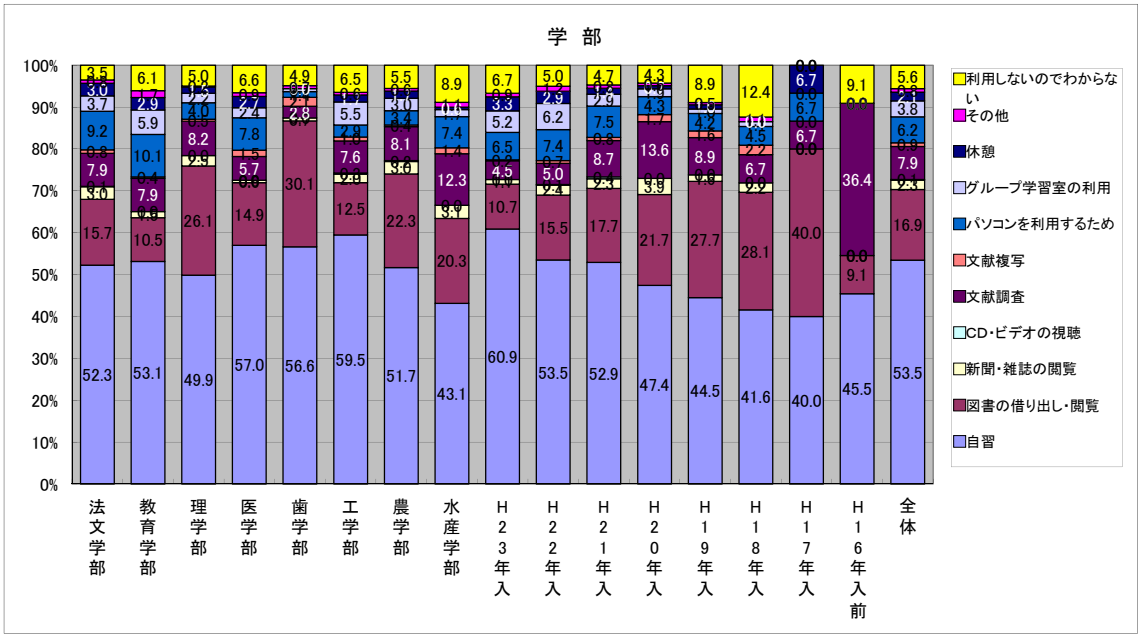


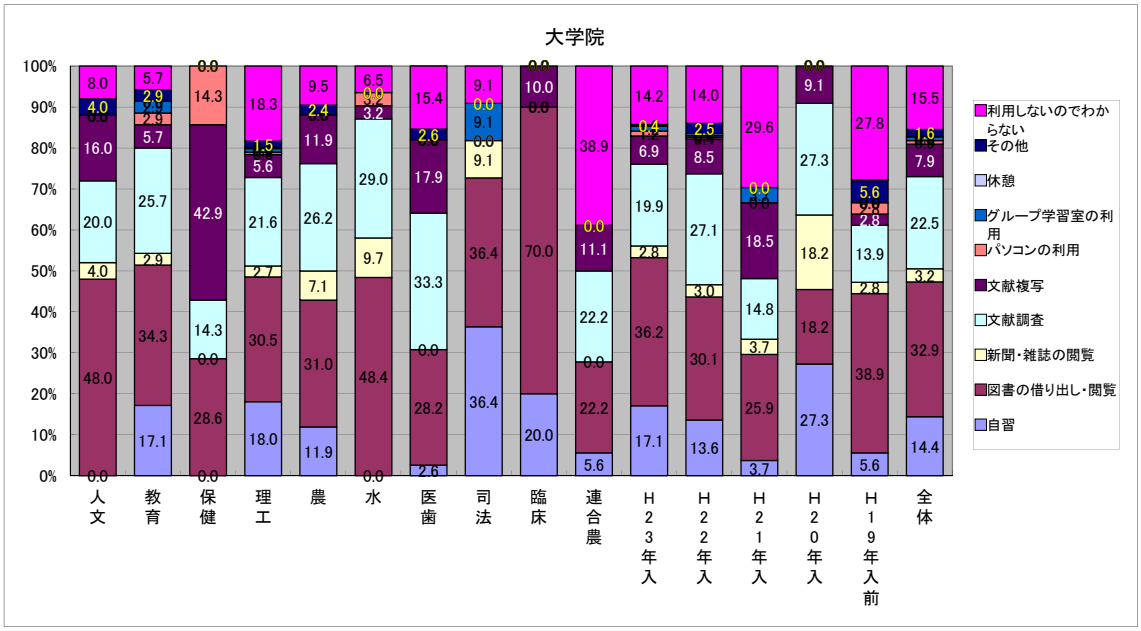
２１．附属図書館の利用目的

「自習」が回答の５割を超え、「図書の借し出し・閲覧」（16.９％）、「文献調査」（7.９％）、「パソコンを利用する」（6.２％）が多い。

院生全体では、「図書の借し出し・閲覧」（32.９％）、「文献調査」（22.５％）、「自習」（14.４％）が主な利用目的である。研究科で特色がみられるのは、保健学研究科で「文献複写」（42.９％）、「パソコン利用」(14.３%)が高い値であり、「図書の借し出し・閲覧」については、臨床心理学(70.０%)、水産学(48.４%)、人文社会科学研究科（48.０％）で高い値であった。

図Ⅲ-21　附属図書館の利用目的



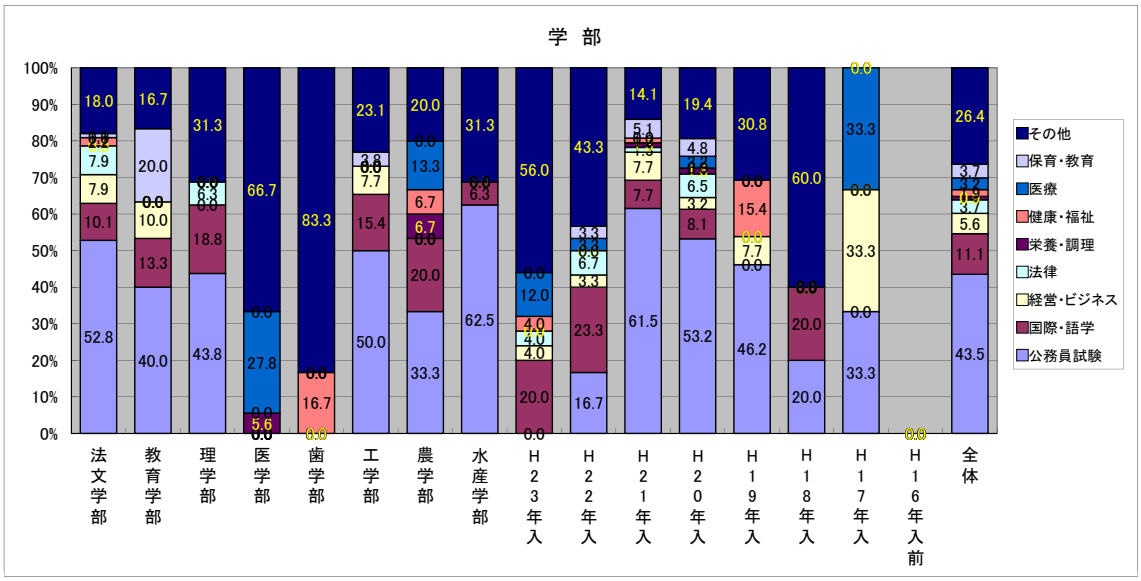


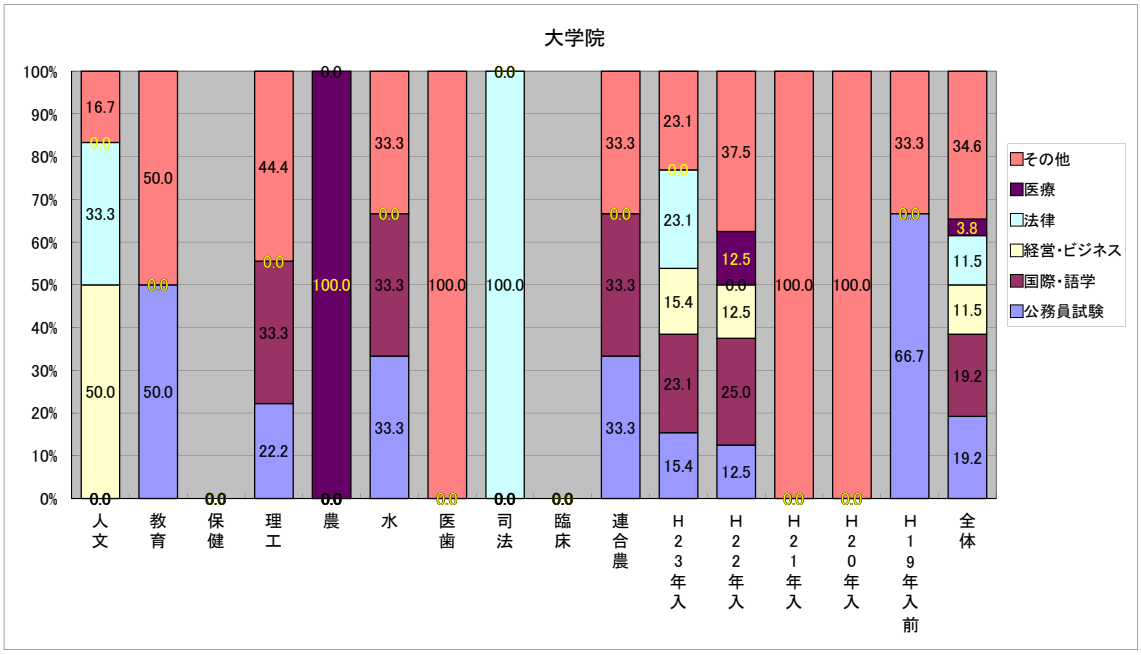
２２．専門学校通学状況

ほとんどの学部生は専門学校に通っていないが、通っている学部生（全体の 5.2%）では「公務員試験」が最も多く、「国際・語学」、「医療」、「健康・福祉」などを勉強の対象としている。

院生全体では、「通っていない」が 95.3％であった。人数が少ないので傾向を確認できないが、通学内容は「公務員試験」、「国際・語学」、「法律」、「医療」などである。

図Ⅲ-22　専門学校通学状況



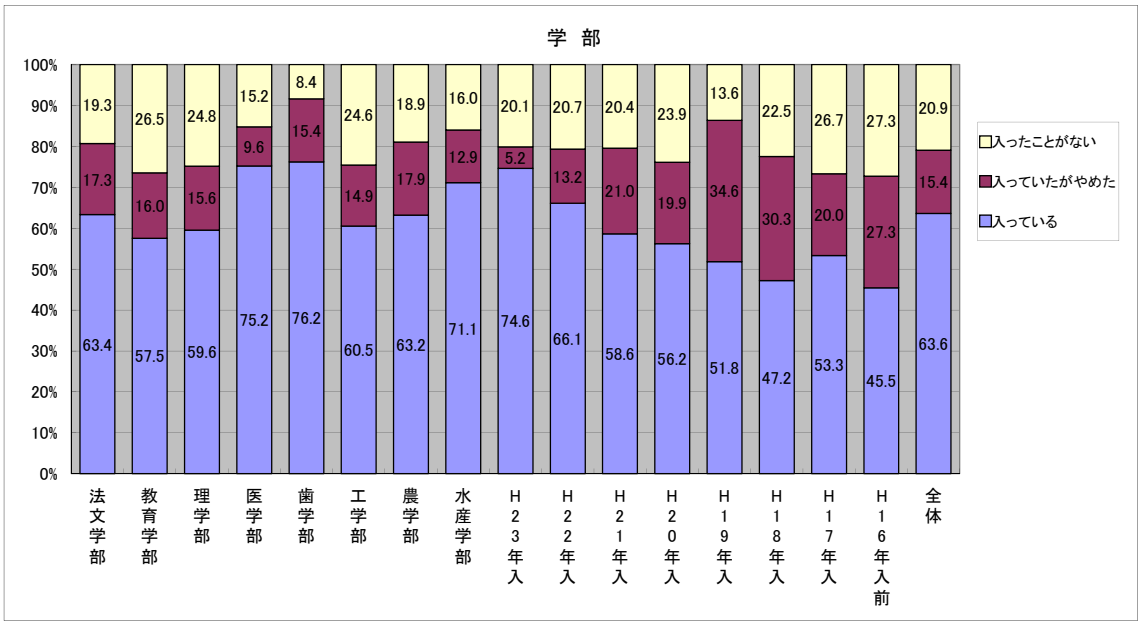


第４章　課外活動について

１．サークルへの加入状況（学部のみ）

サークルへの加入状況は、全体で約６割である。医学部、歯学部、水産学部で７割を超える高い加入状況である。

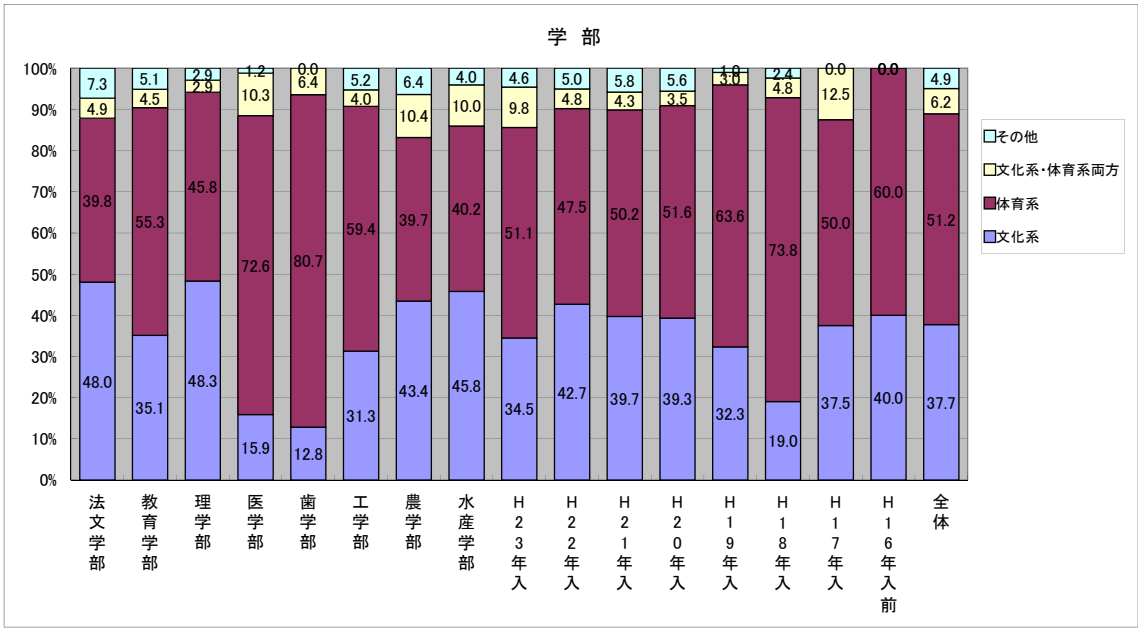
図Ⅳ-1　サークルへの加入状況



２．加入サークルの種類（学部のみ）

全体では約４割（37.7%）が文化系、５割（51.2%）が体育系である。歯学部の８割(80.7%)、医学部の７割（72.6%）は、体育系サークルに加入している。

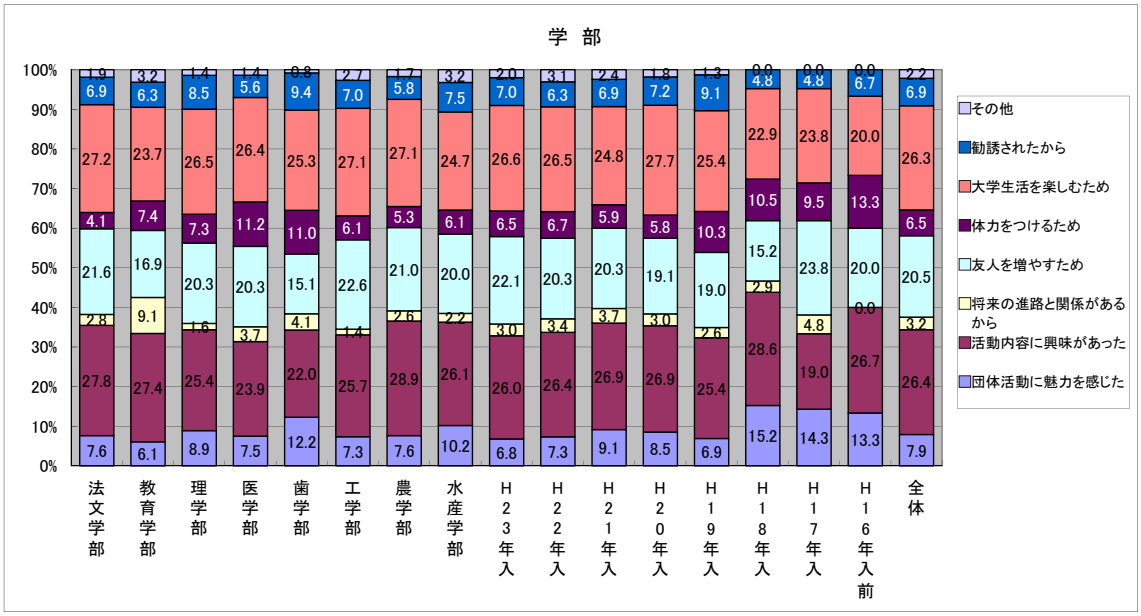
図Ⅳ-2　加入サークルの種類



３．サークルへの加入動機（学部のみ）

サークルへの加入動機は、「活動内容に興味があった」（26.4％）、「大学生活を楽しむため」（26.3%）が多く、次に「友人を増やすため」（20.5％）が比較的多い理由であった。

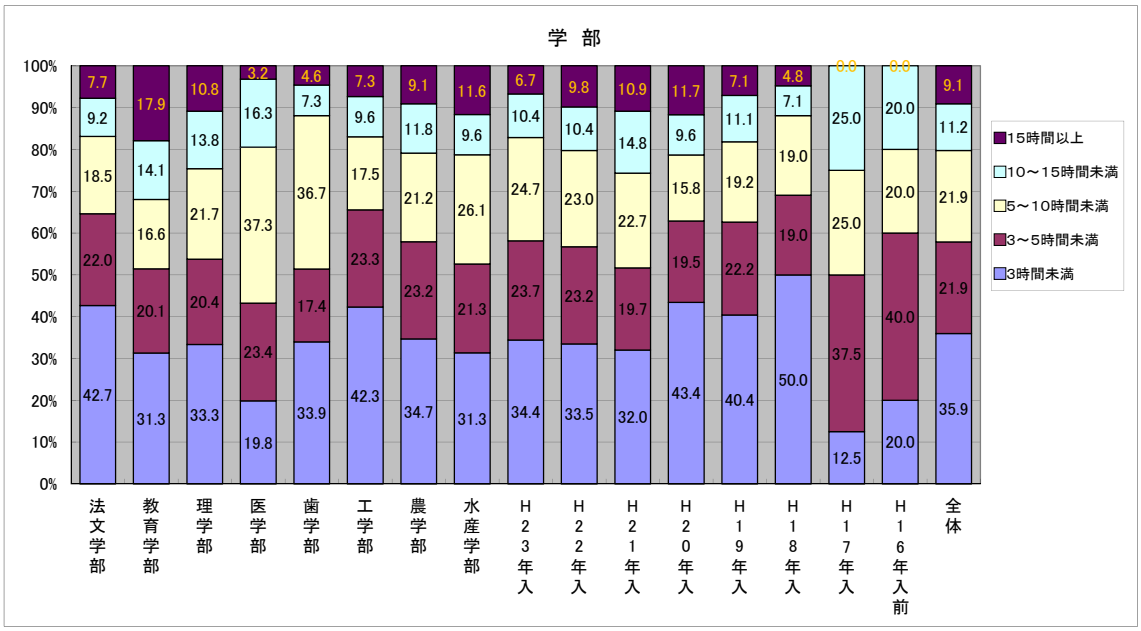
図Ⅳ-3　サークルへの加入動機（3つまで回答可）



４．サークル活動１週間あたりの平均時間数（学部のみ）

サークル活動の１週間あたりの平均時間数は「3時間未満」が35.9%と最も多く、次いで「3～5時間未満」（21.9％），「5～10時間未満」（21.9％）であった。

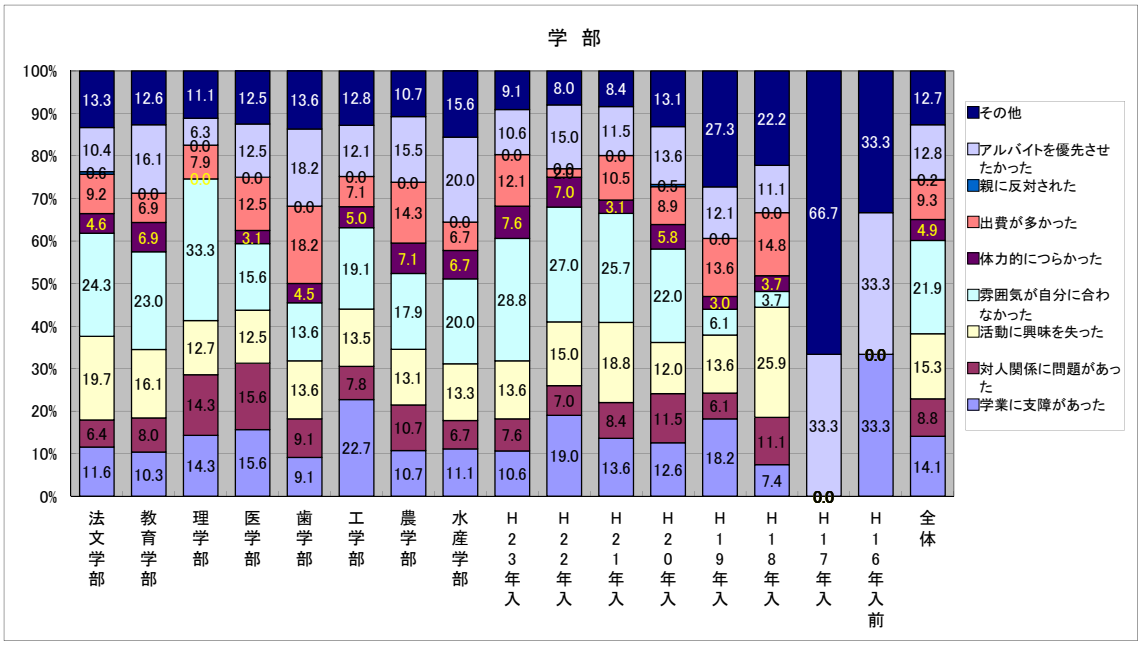
図Ⅳ-4　サークル活動１週間あたりの平均時間数



５．サークル活動をやめた理由（学部のみ）

サークル活動をやめた理由は、「雰囲気が自分に合わなかった」（21.9 %）、「活動に興味を失った」（15.3 %）、「学業に支障があった」（14.1 %）、「アルバイトを優先させたかった」（12.8 %）が比較的高い数値を示した。

図Ⅳ-5　サークル活動をやめた理由



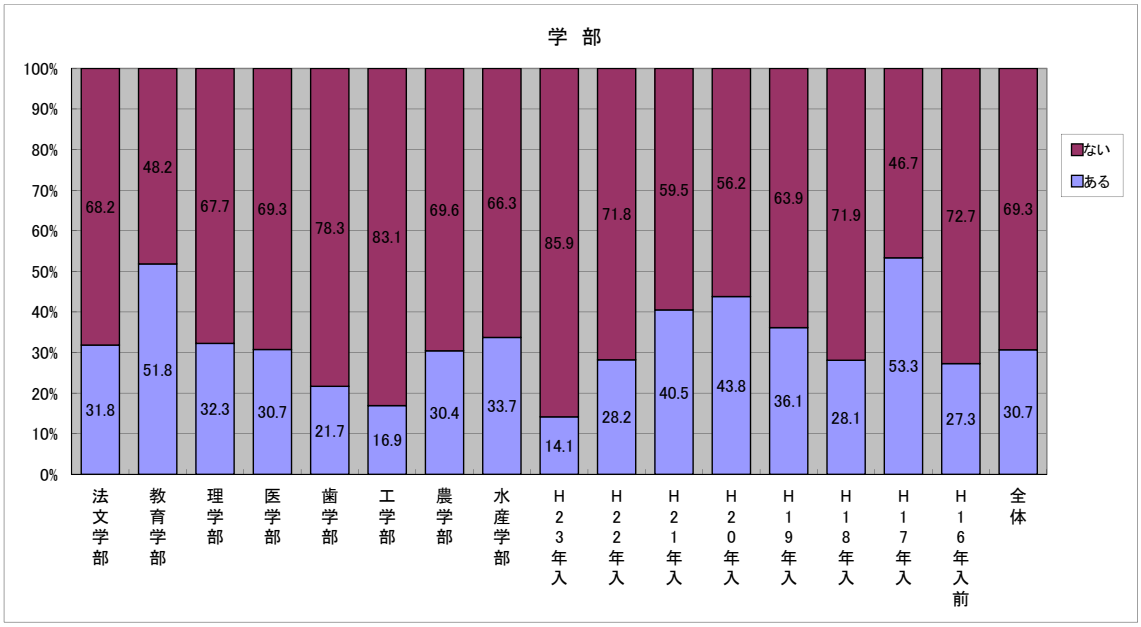
第５章　ボランティア活動について

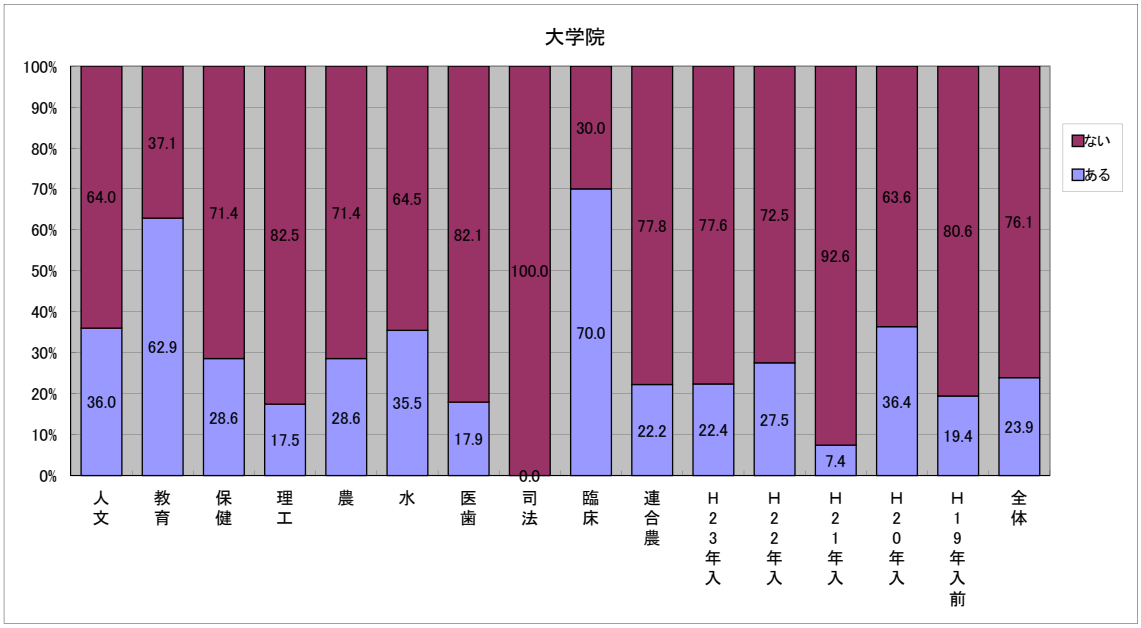
１．ボランティア活動の経験

ボランティア活動を経験した学部生は、全体の３割（30.7％）である。学部別では、教育学部で51.8％の高い参加比率であった。

大学院に入学した後のボランティア活動の経験は、全体で23.9％である。高い経験を示した研究科は臨床心理学（70.0％）、教育学（62.9％）、人文社会科学（36.0％）、水産学研究科（35.5％）である。理工学（17. 5%）、医歯学総合研究科（17.9％）は相対的に低かった。

図V-1　ボランティア活動の経験



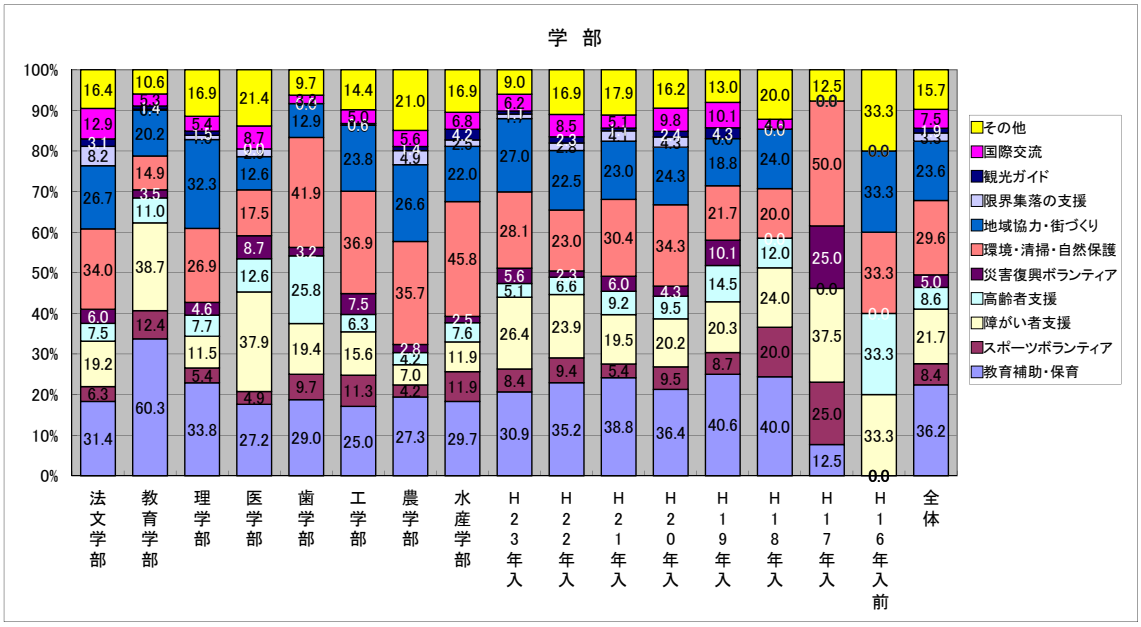


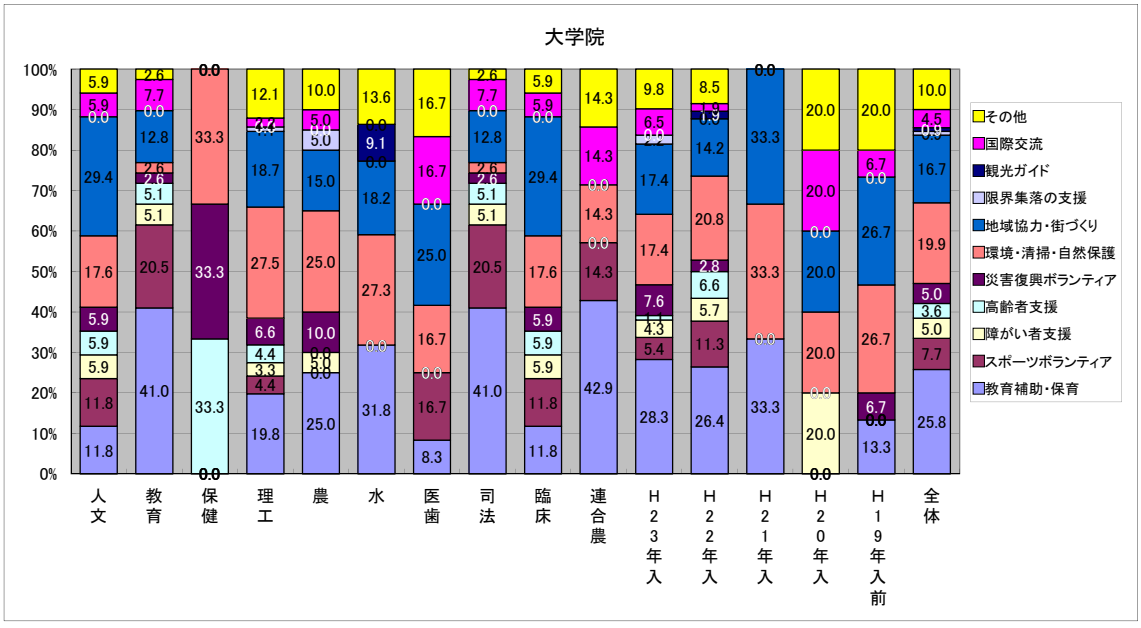
２．ボランティア活動の内容

ボランティア活動の内容としては、全体では「教育補助・保育」(36.2％)、「環境・清掃・自然保護」(29.6％)、「地域協力・街づくり」(23.6％)、「障がい者支援」(21.7％)が比率が高い。ボランティア活動内容と学部との関係では、「教育補助・保育」教育学部(60.3％)、「障がい者支援」教育学部（38.7％)、医学部(37.9％)、「環境・清掃・自然保護」水産学部(45.8％)、歯学部（41.9％)、「高齢者支援」歯学部（25.8％)、「国際交流」法文学部（12.9％）と高い値を示した。

院生全体では、「教育補助・保育」(25.8％)、「環境・清掃・自然保護」(19.9％)、「地域協力・街づくり」(16.7％）が主要な内容である。研究科で特色がみられるのは、保健学研究科で「高齢者支援」、「災害復興ボランティア」、「環境・清掃・自然保護」がそれぞれ33.3%と高く、医歯学総合と連合農学研究科では「国際交流」で、16.7％、14.3％とそれぞれ高い傾向を示した。

図Ⅴ-2　ボランティア活動の内容（複数回答可）



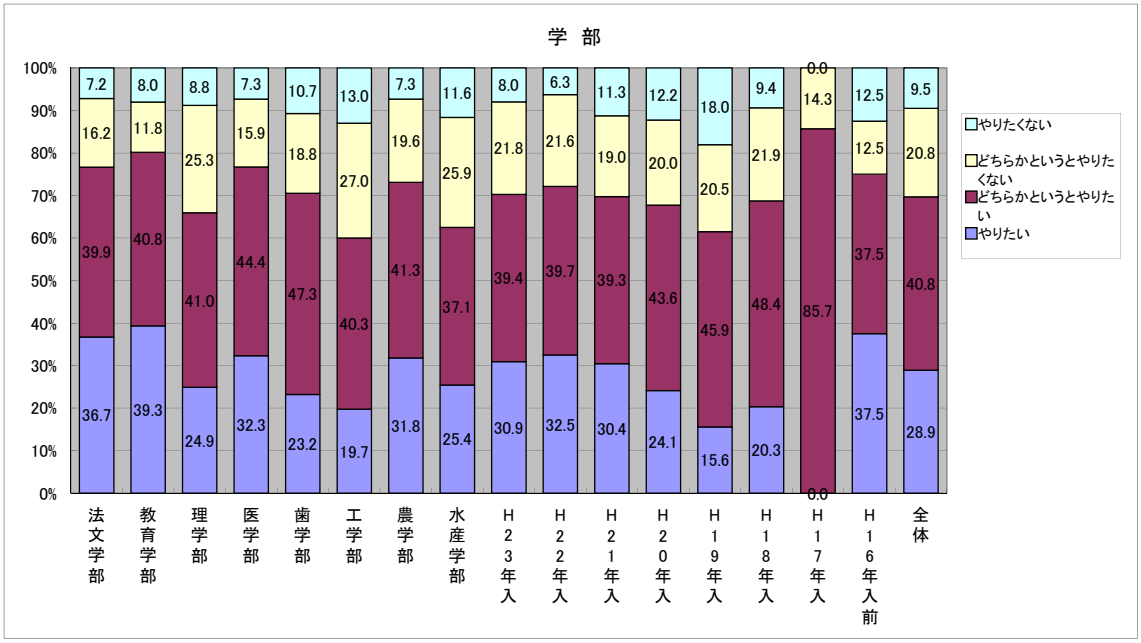


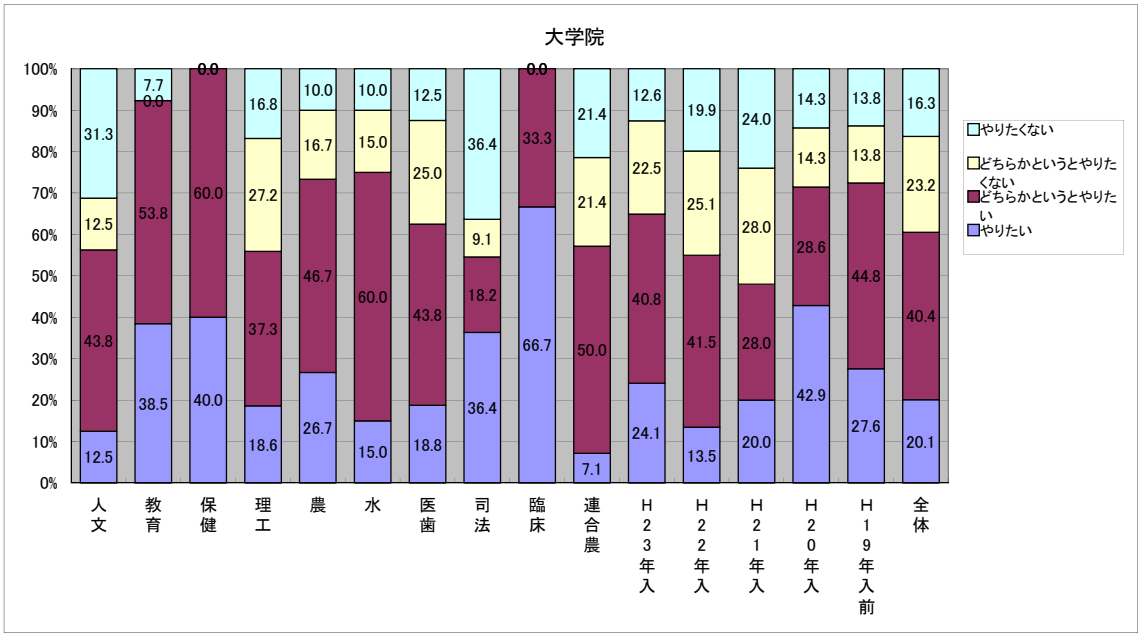
３．ボランティア活動希望の有無

今までボランティア活動に参加していない学部生の参加希望について、「やりたい」(28.9%)、「どちらかというとやりたい」(40.8 %) の積極的な姿勢を示す学部生は、約７割であった。

院生全体でのボランティア活動の希望については、「やりたい」、「どちらかというとやりたい」という積極的な希望は、あわせて６割を超えている。一方、「どちらかというとやりたくない」(23.2 %)、「やりたくない」(16.3 %) と消極的な意見もある。積極的な意見の多い研究科は、教育学、保健学、農学、水産学、臨床心理学研究科であり、消極的な意見は、人文社会科学、理工学、医歯学総合、司法政策、連合農学研究科に多くみられる。

図Ⅴ-3　ボランティア活動希望の有無





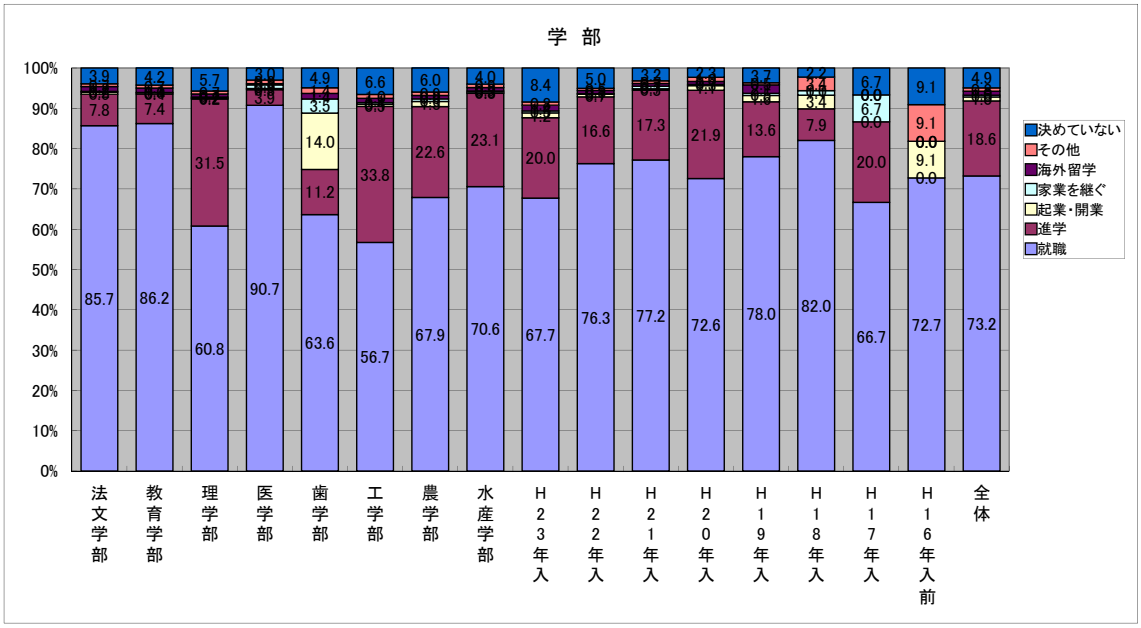
第６章　就職について

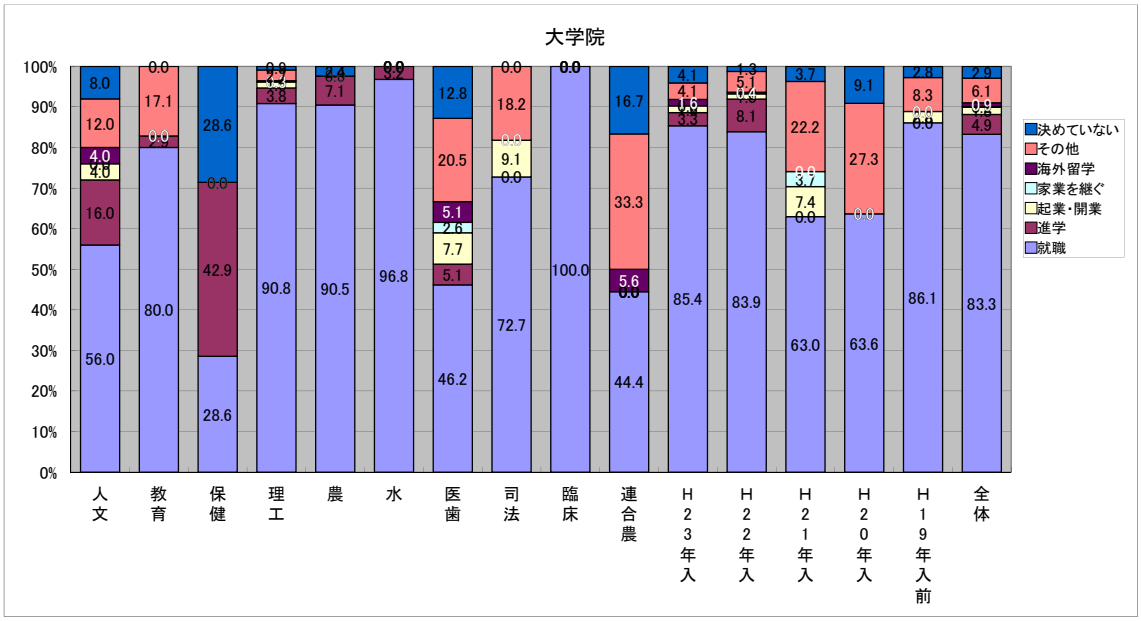
１．卒業（修了）後の進路希望

卒業後の進路の第１希望を、「就職」と考えている学部生が最も多く、73.2%であった。次に多かったのは「進学」を考えている学部生であり、18.6%だった。

修了後の進路の第１希望について、院生全体の 83.3%が「就職」を希望している。保健学研究科の約半数が進学を希望していることが特徴的である。

図Ⅵ-1　卒業（修了）後の進路希望



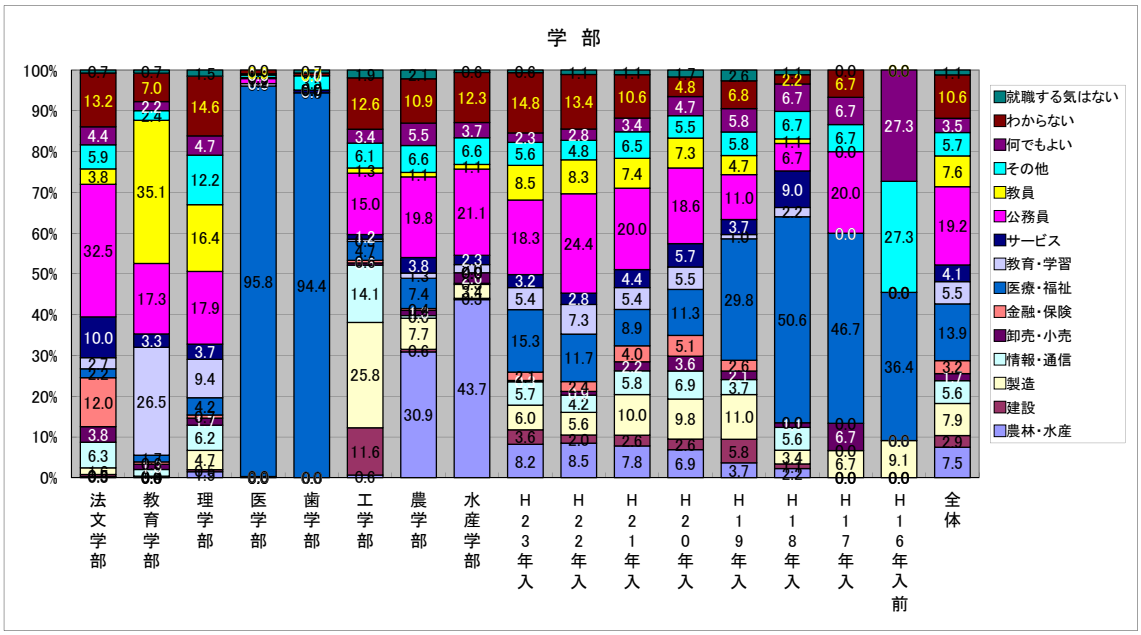


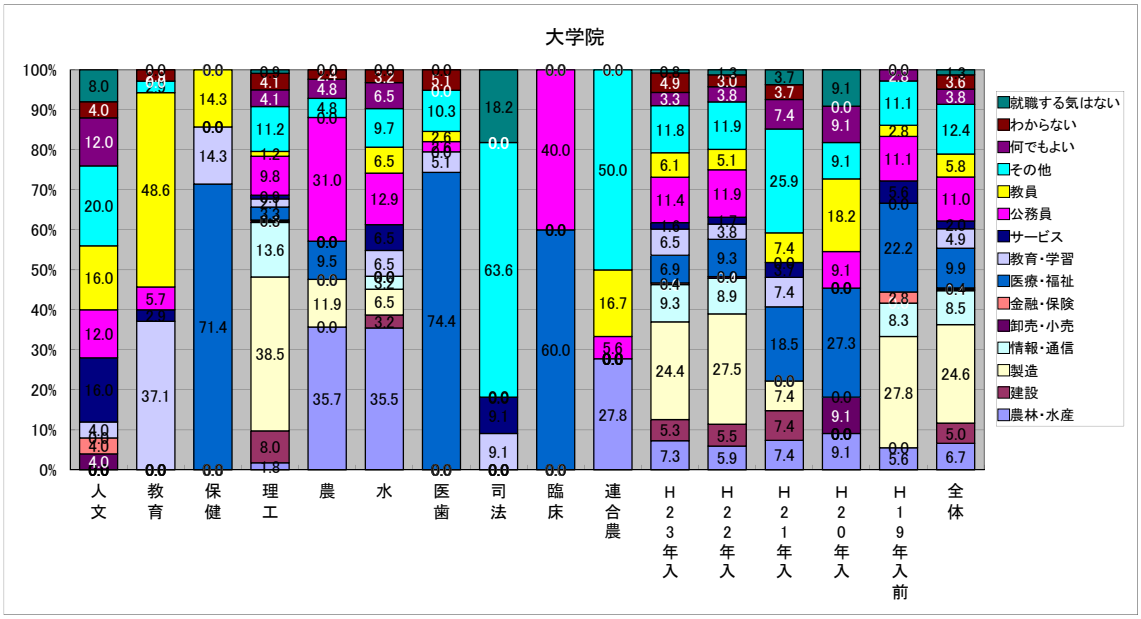
２．就職の希望職種（分野）

希望の高かった職種についてみると、各学部の特性を生かす職種を希望していることがわかる。また、医学部と歯学部を除き、「公務員」希望者の最も少なかった工学部が 15.0％であり、全体平均でも 19.2％と、平成 18 年の調査（12.8％）を上回る結果となった。

院生の希望の高かった職種については、教育学研究科では「教員」、保健学および医歯学総合、臨床心理学研究科では「医療・福祉」、理工学研究科では「製造」、農学および水産学研究科では、「農林・水産」、人文社会科学および司法政策、連合農学研究科では「その他」であった。

図Ⅵ-2　就職の希望職種（分野）



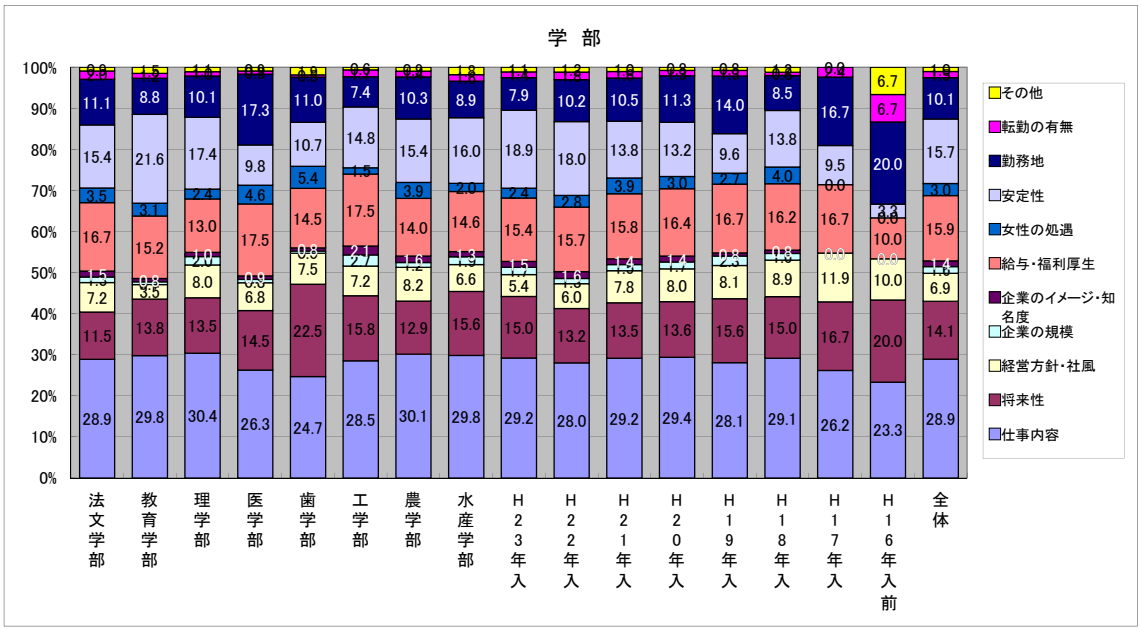


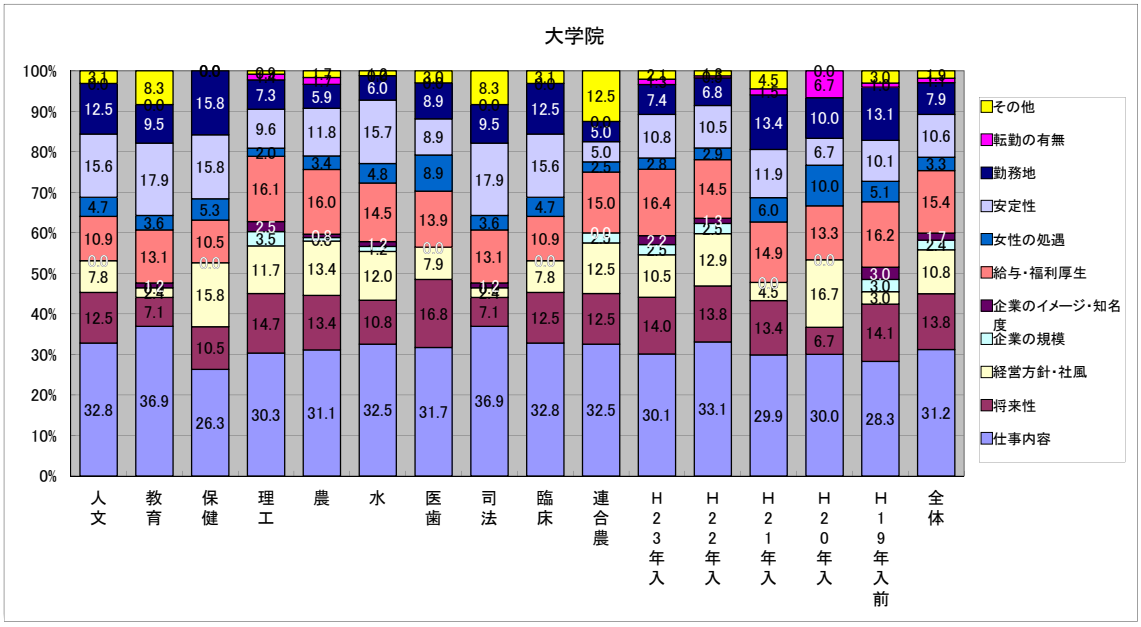
３．就職する場合の重要事項

就職先の選択において、「仕事内容」（28.9%）を最も重要視する傾向が見受けられた。次いで「給与・福利厚生」、「安定性」、「将来性」に対する関心が高かった。

院生の就職する際の重要事項は、「仕事内容」と回答した者が全体の約３割を占めており、「給与・福利厚生」（15.4%）、「将来性」（13.8%）の順に続いて高い比率を示している。

図Ⅵ-3　就職する場合の重要事項（３つまで回答可）



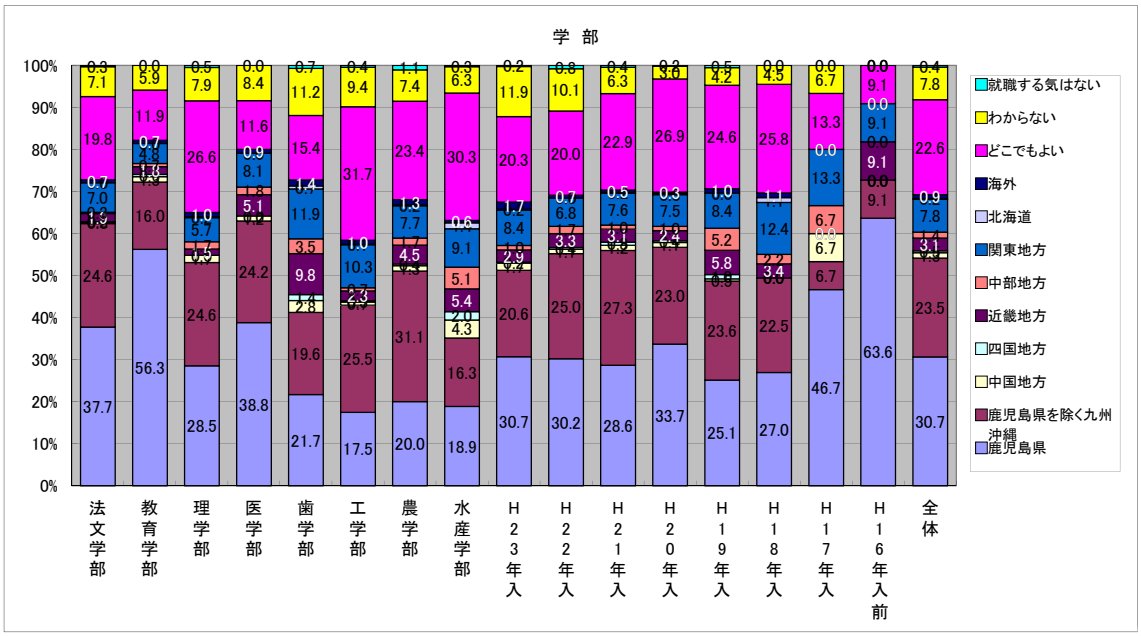


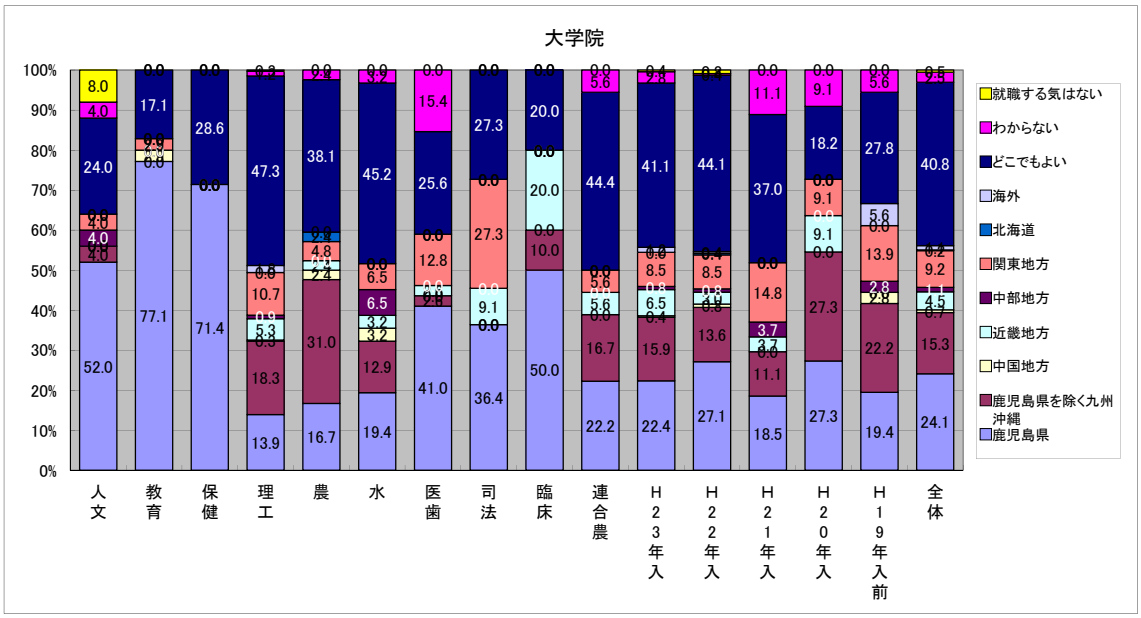
４．就職の希望地域

就職について、学部生の半数以上が九州地方への就職を希望していた。次に多かったのは就職する地域にはこだわらないという回答であった。教育学部生は、半数以上が「鹿児島県」への就職を希望していた。

院生の就職する際の希望地域について、人文社会科学、教育学、保健学、医歯学総合、司法政策および臨床心理学研究科において鹿児島県が高い比率を示した。一方、理工学、農学および水産学研究科は就職する地域にはこだわらないという回答が最も多かった。

図Ⅵ-4　就職の希望地域



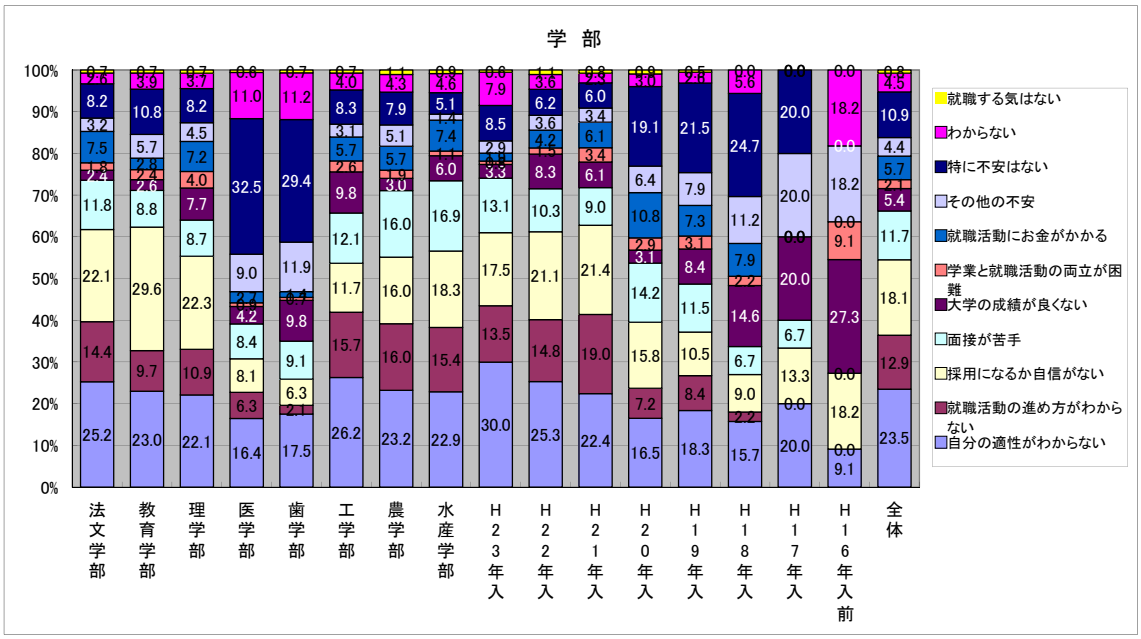


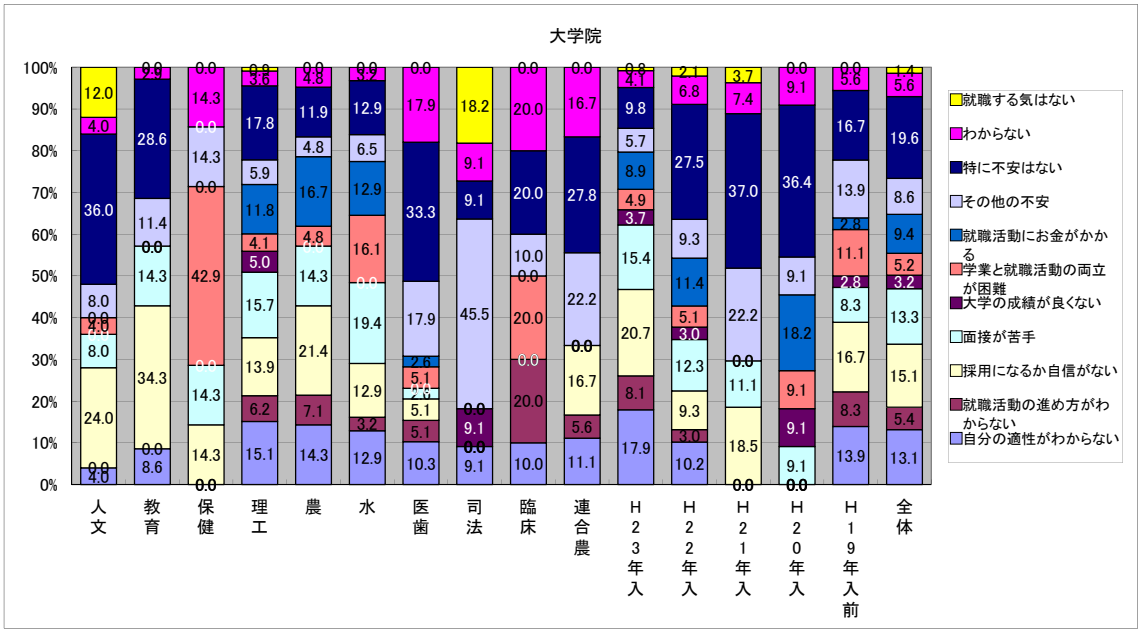
５．就職に関する不安

就職に対して抱いている不安について、医学部と歯学部を除いた学部生が、「自分の適性がわからない」、「採用になるか自信がない」と不安を抱いている。

院生全体では「特に不安はない」（19.6%）が最も多かった。研究科別では、保健学研究科では「学業と就職活動の両立が困難」が最も多く、教育学および農学研究科では「採用になるか自信がない」が最も多かった。

図Ⅵ-5　就職に関する不安



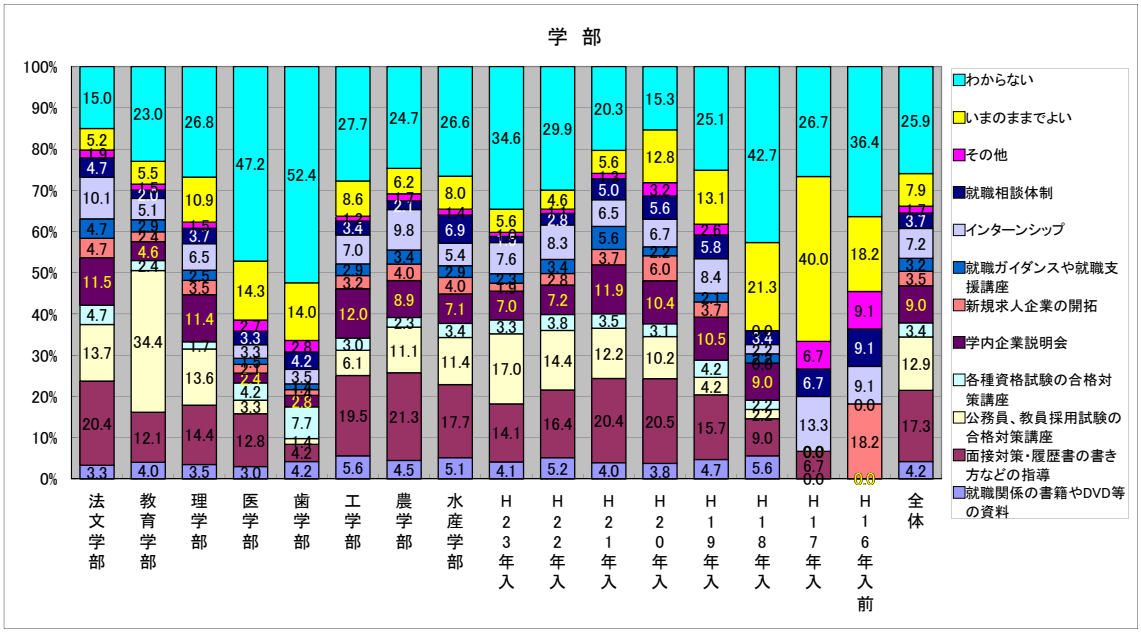


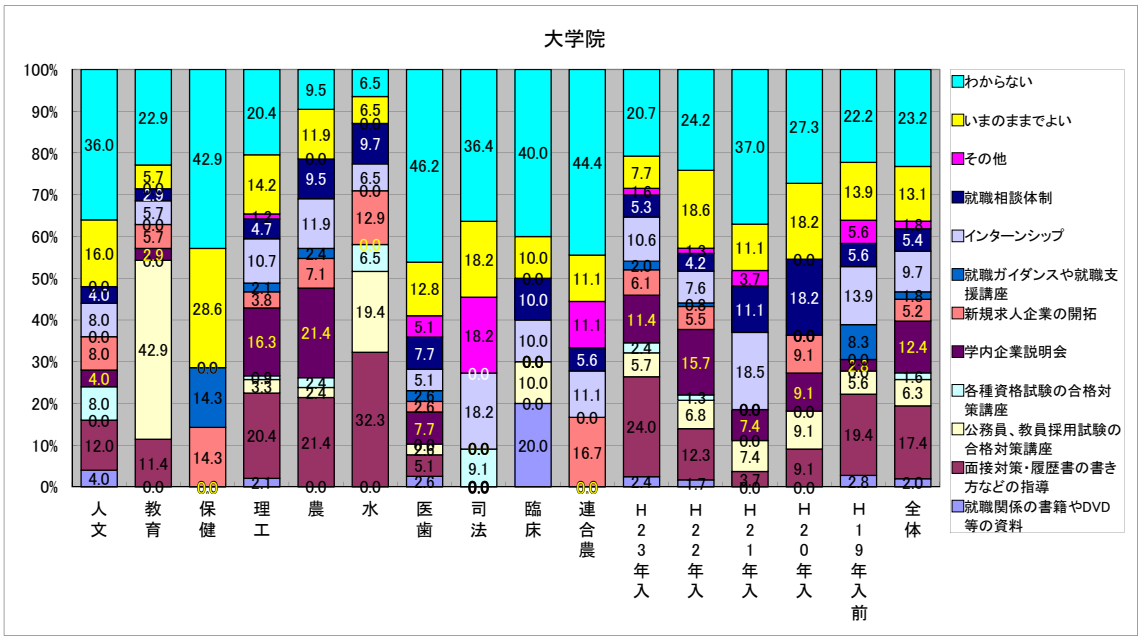
６．就職に関する大学への要望

就職に関する大学への要望として、教育学部だけが「公務員・教員採用試験の合格対策講座の充実」が最も多く、他学部と比べて特徴的である。その他の学部は、「わからない」という回答が最も多かった。

教育学研究科では「公務員・教員採用試験の合格対策講座の充実」に対しての要望が最も多かった。理工学、農学および水産学研究科では「面接対策・履歴書の書き方などの指導」が最も多く、その他の研究科では「わからない」が最も多かった。

図Ⅵ-6　就職に関する大学への要望



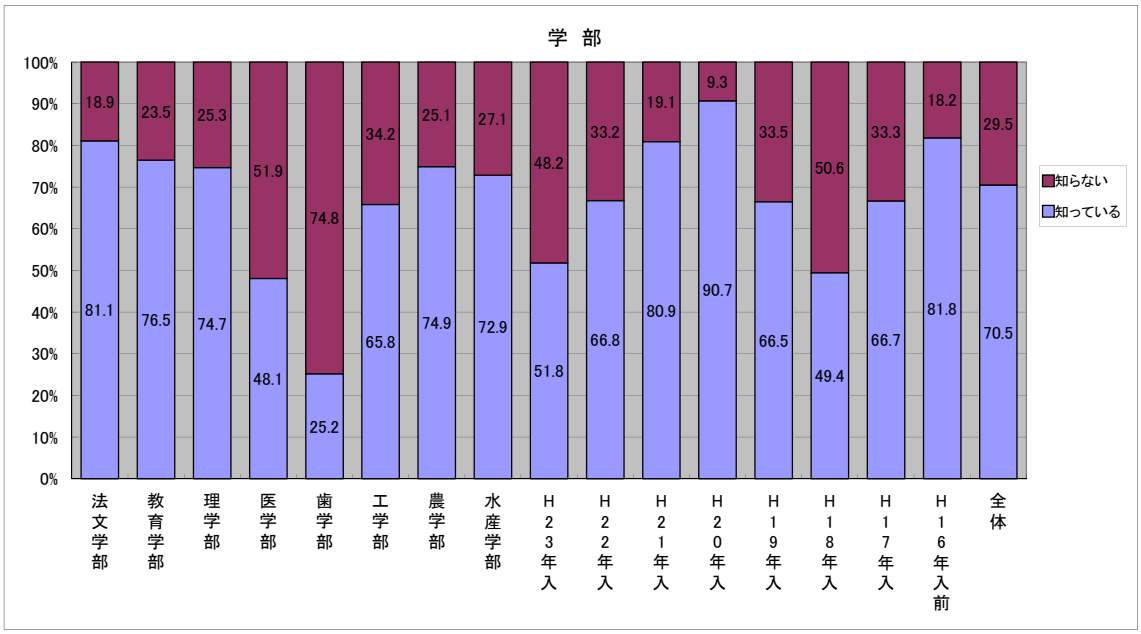


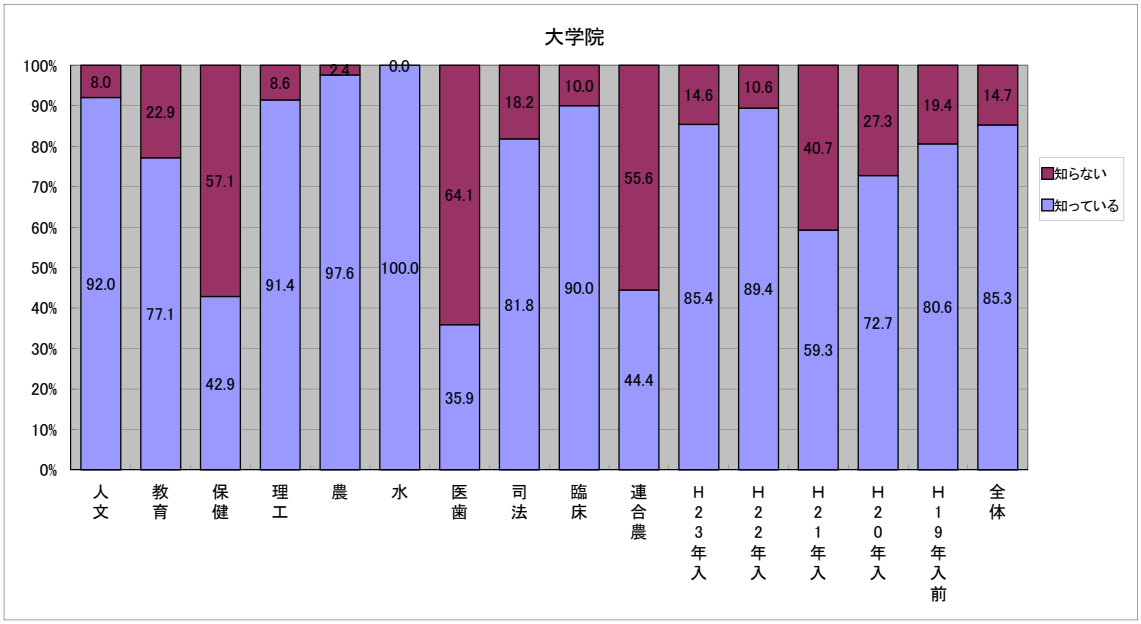
７．就職支援センターの認識度

就職支援センターについて、学部生全体の 70.5%が「知っている」と回答した。しかし、桜ケ丘キャンパスで学ぶ医学部および歯学部の学生は、半数以上が「知らない」と回答した。

全体の 85.3%の院生が「知っている」と回答しているのに対し、医歯学総合、保健学および連合農学研究科の約半数以上が「知らない」と回答している。

図Ⅵ-7　就職支援センターの認識度





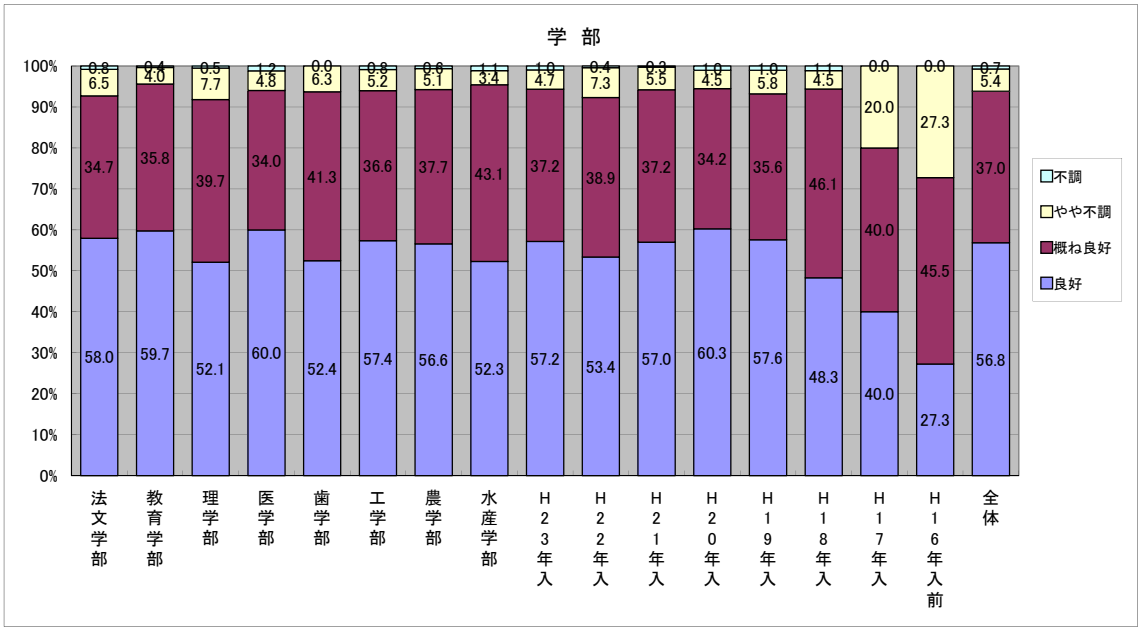
第７章　健康状態について

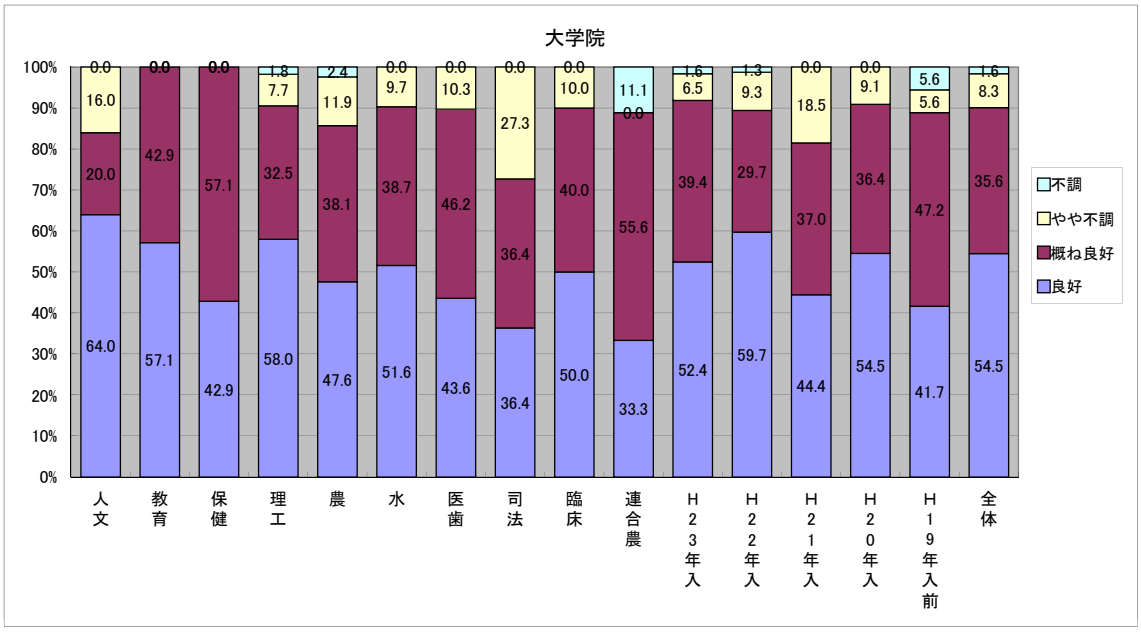
１．健康状態

学部生全体の 93.8%が「良好」、「概ね良好」と回答しているのに対し、残りの 6.1%の学部生は「やや不調」、「不調」と回答しているので、若干の懸念が残る。

院生全体の 90.1%が「良好」、「概ね良好」と回答しているが、残りの 9.9%は「やや不調」、「不調」と回答してことに対して若干の懸念が残る。特に、司法政策研究科の学生は 27.3%と高い値を示している。

図Ⅶ-1　健康状態



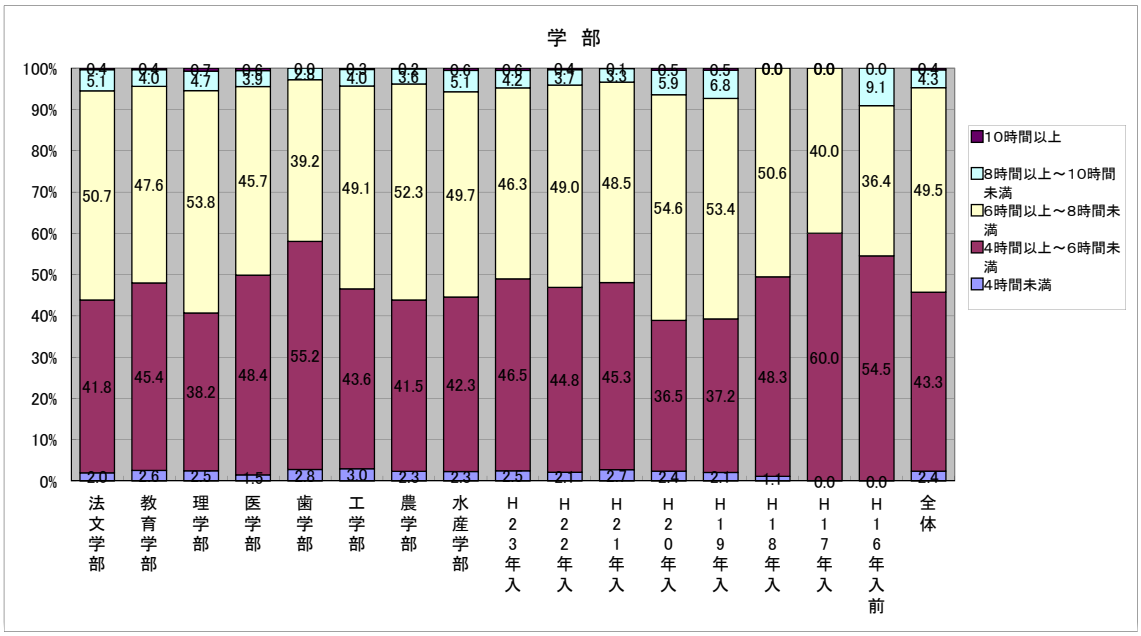


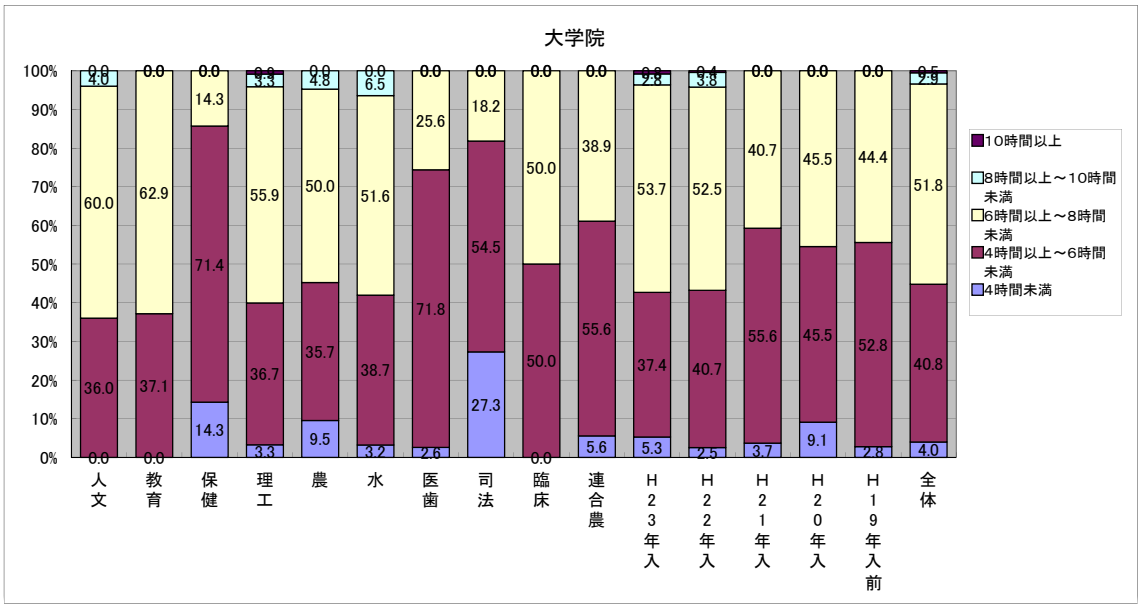
２．平均睡眠時間

学部生の平均睡眠時間は、「6 時間以上～8 時間未満」が最も多く、次いで「4 時間以上～6 時間未満」の回答が多かった。

院生の平均睡眠時間は、「6 時間以上～8 時間未満」の回答が最も多く、次いで「4 時間以上～6 時間未満」の回答が多かった。しかし、司法政策および保健学研究科では、「4 時間未満」の回答はそれぞれ 27.3%および 14.3%であった。

図Ⅶ-2　平均睡眠時間



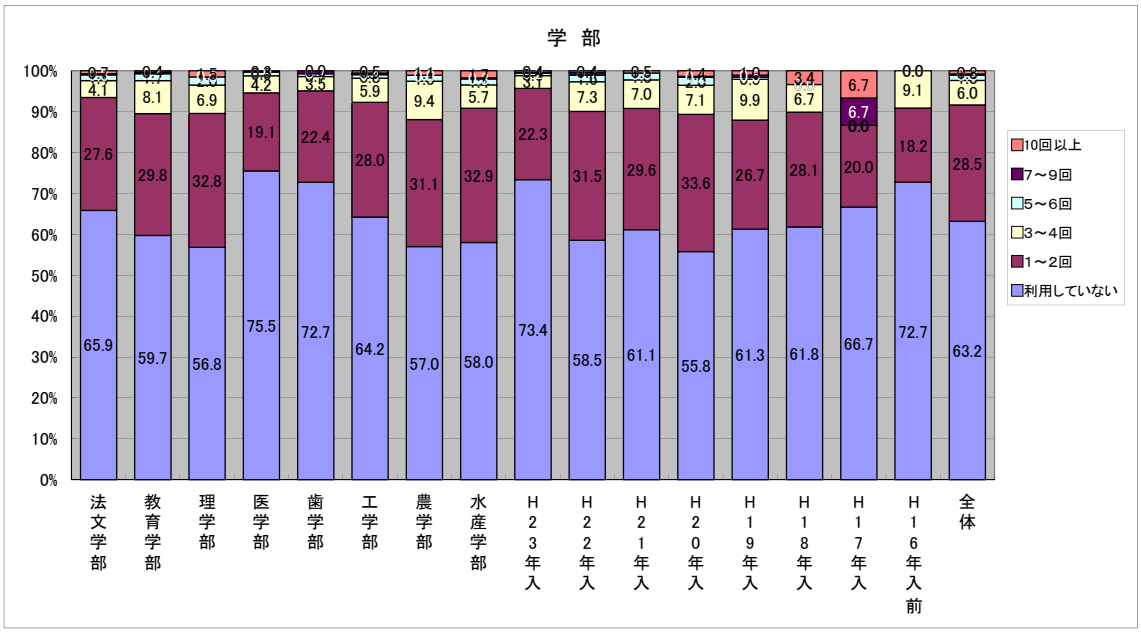


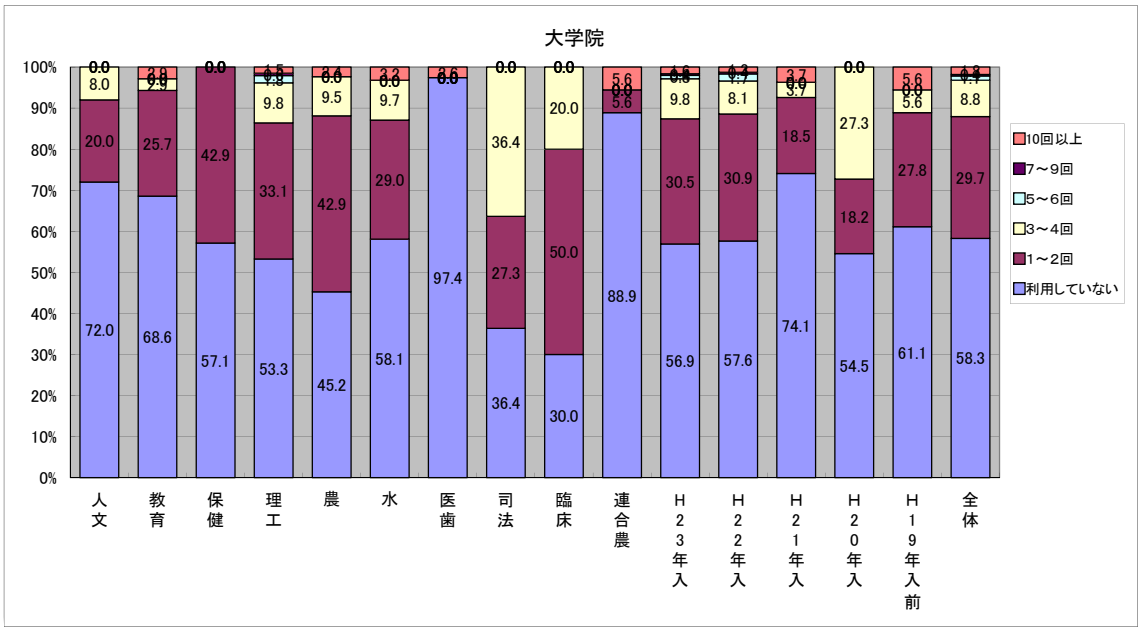
３．保健管理センターの利用回数

学部生全体では、一度も利用したことのない学生は 63.2%と最も多かった。特に医学部と歯学部の学生は、一度も利用したことのない学生が全体と比べて 10%以上多かった。

院生全体では、一度も利用したことのない学生は 58.3%で最も多かった。特に、医歯学総合研究科は、一度も利用したことのない学生は 97.4%であった。

図Ⅶ-3　保健管理センターの利用回数



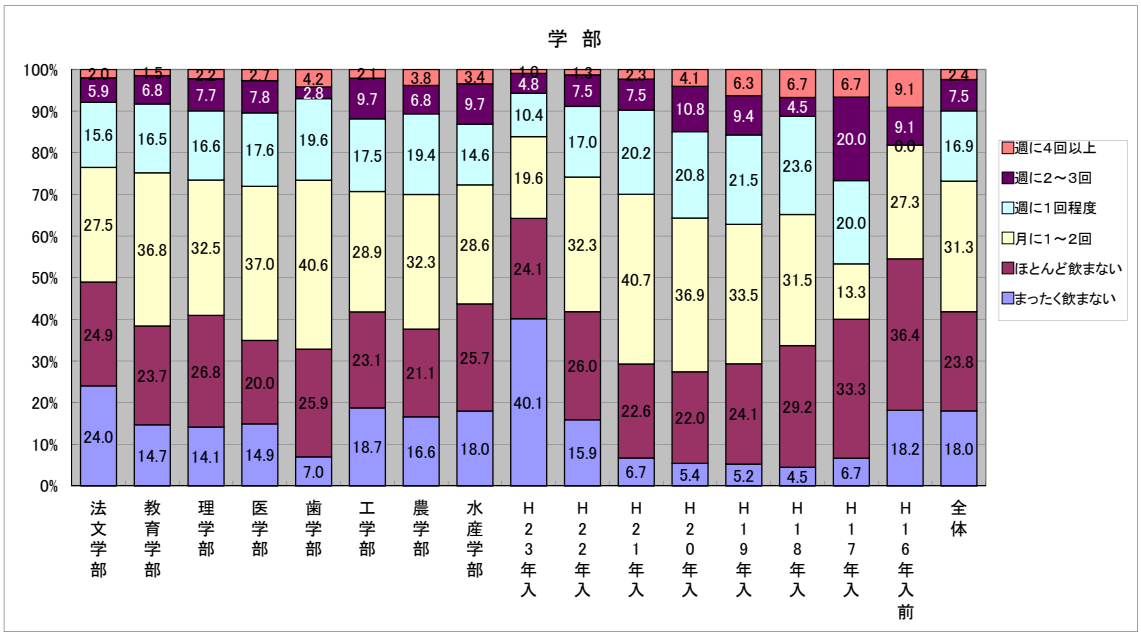


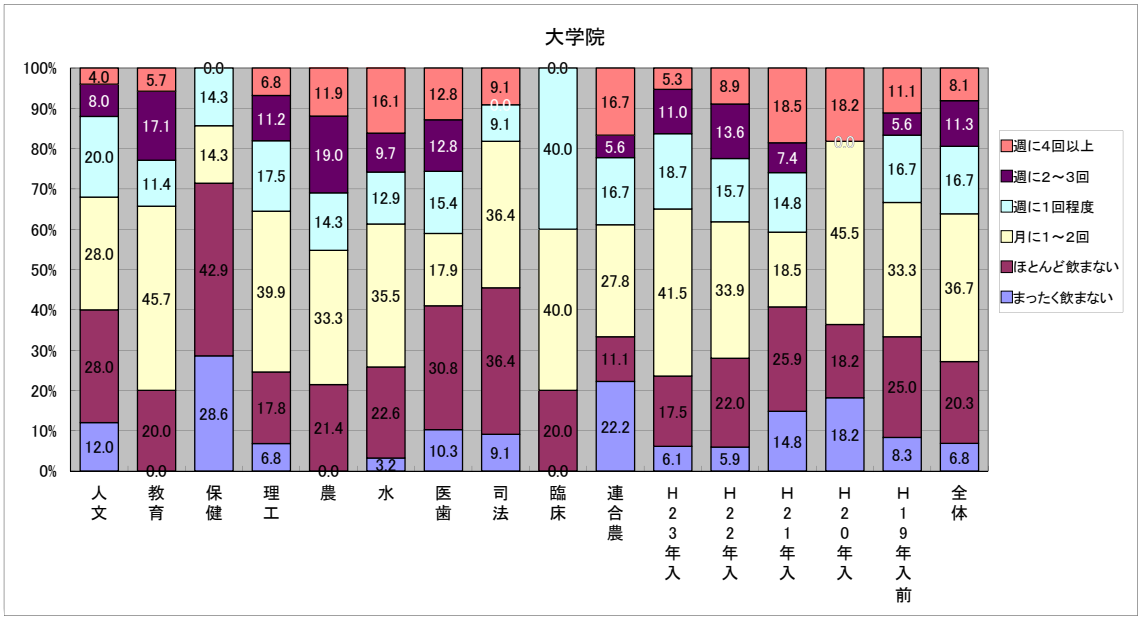
４．アルコール摂取頻度

アルコール摂取頻度は、学部生をみると、各学部とも似たような傾向を見せていて、「月に 1～2 回」のアルコール摂取が最も多かった。しかし、「週に 4 回以上」と回答した学生もいるので、アルコール中毒への心配がある。

院生全体では「月に 1～2 回」のアルコール摂取が最も多かった。しかし、保健学研究科をみると、「ほとんど飲まない」、もしくは「全く飲まない」が 71.5%で高い値を示している。

図Ⅶ-4　アルコール摂取頻度



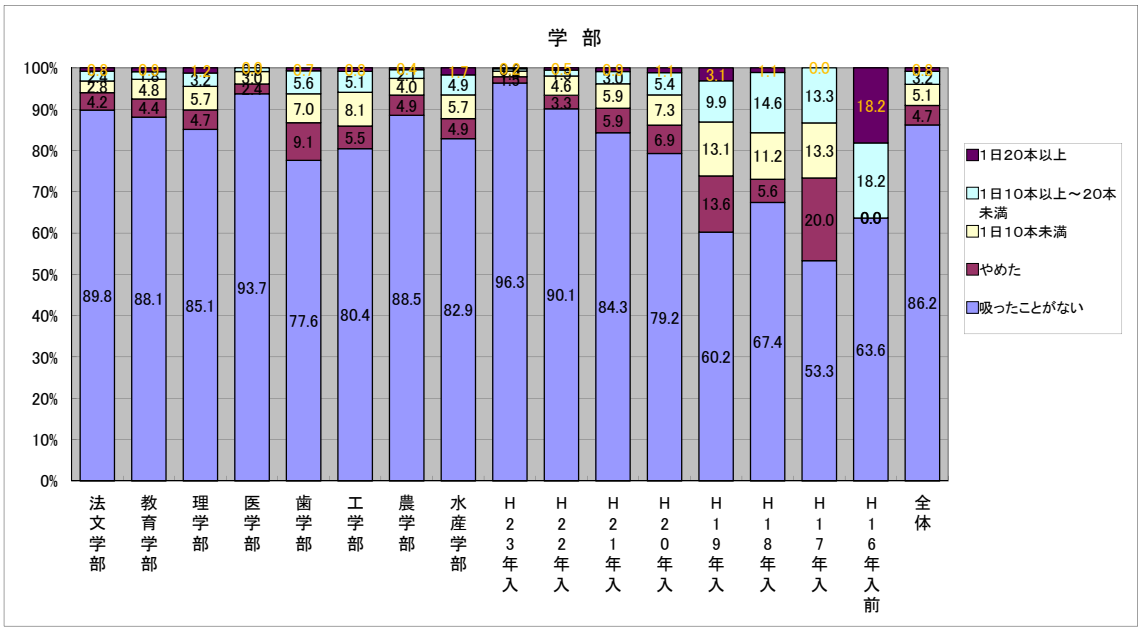


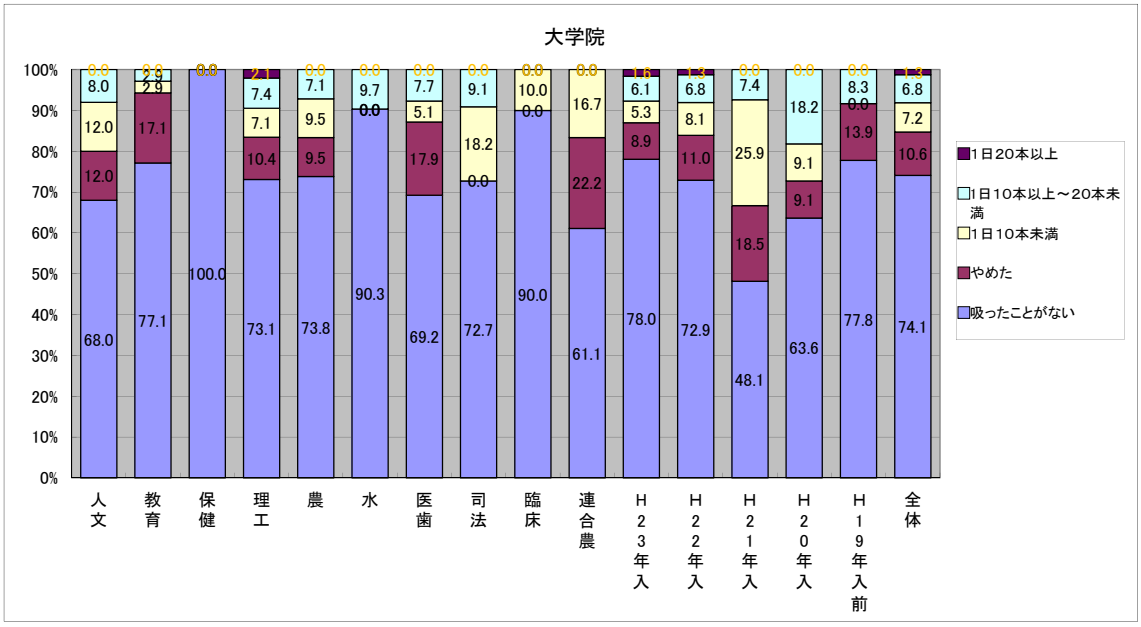
５．喫煙の状況

喫煙の状況は、学部生全体で「やめた」もしくは「吸ったことがない」と回答した非喫煙者の割合が 90.9%であった。特に、医学部の学生は、非喫煙者の割合が 96.1%と最も高かった。

院生全体では「やめた」もしくは「吸ったことがない」と回答した非喫煙者の割合が 84.7%であった。特に、保健学研究科の学生は 100%が「吸ったことがない」と回答している。

図Ⅶ-5　喫煙の状況



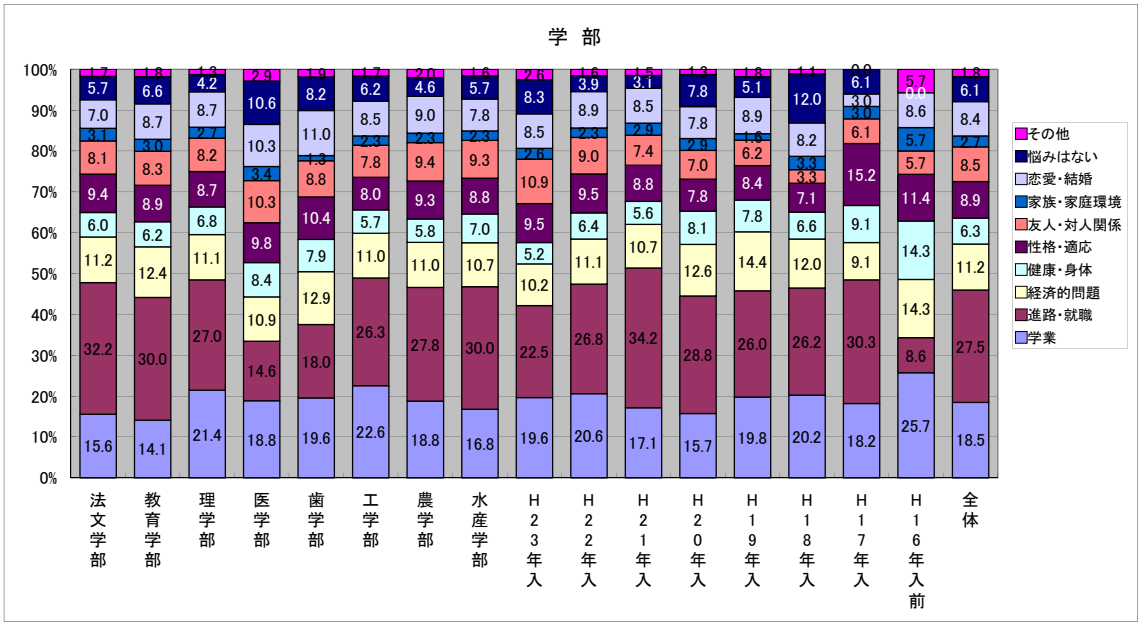


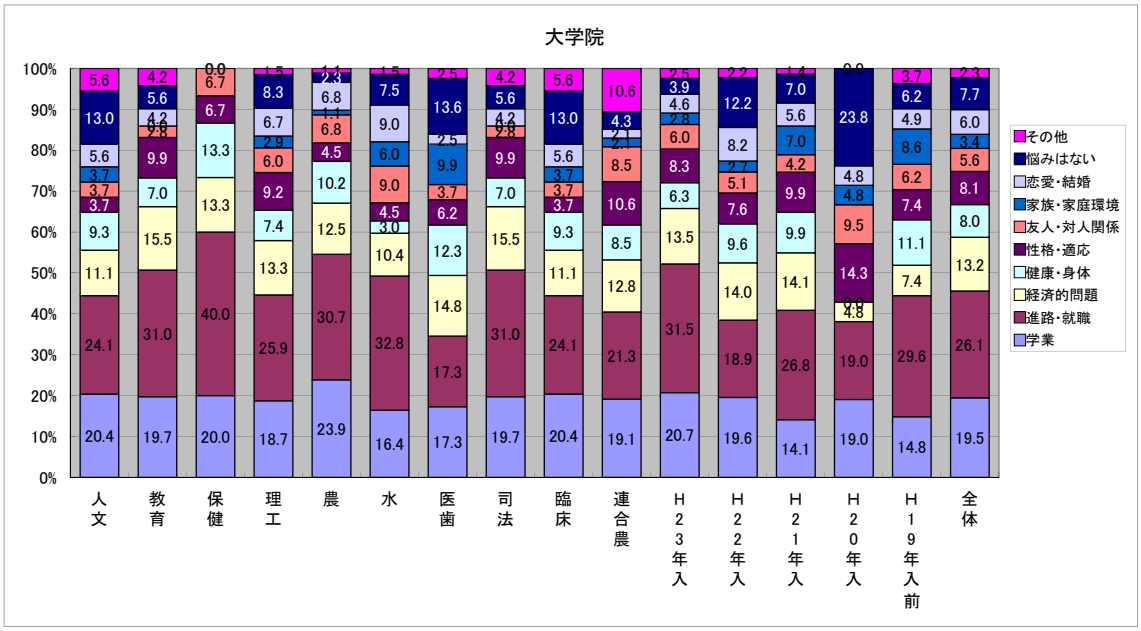
６．現在の悩み

学部生の現在抱えている悩みについては、「進路・就職」（27.5%）に対しての悩みが最も多く、つづいて「学業」（18.5%）、「経済的問題」（11.2%）の悩みが多くなっている。充実した学生生活を過ごす環境を作るためにも、具体的な悩みを把握し、悩みを解消する方法も考えなければならない。

院生では「進路・就職」（26.1%）が最も多く、つづいて「学業」（19.5%）、「経済的問題」（13.2%）の悩みが多くなっている。保健学研究科だけは「悩みはない」と回答した学生はいなかった。

図Ⅶ-6　現在の悩み（複数回答可）



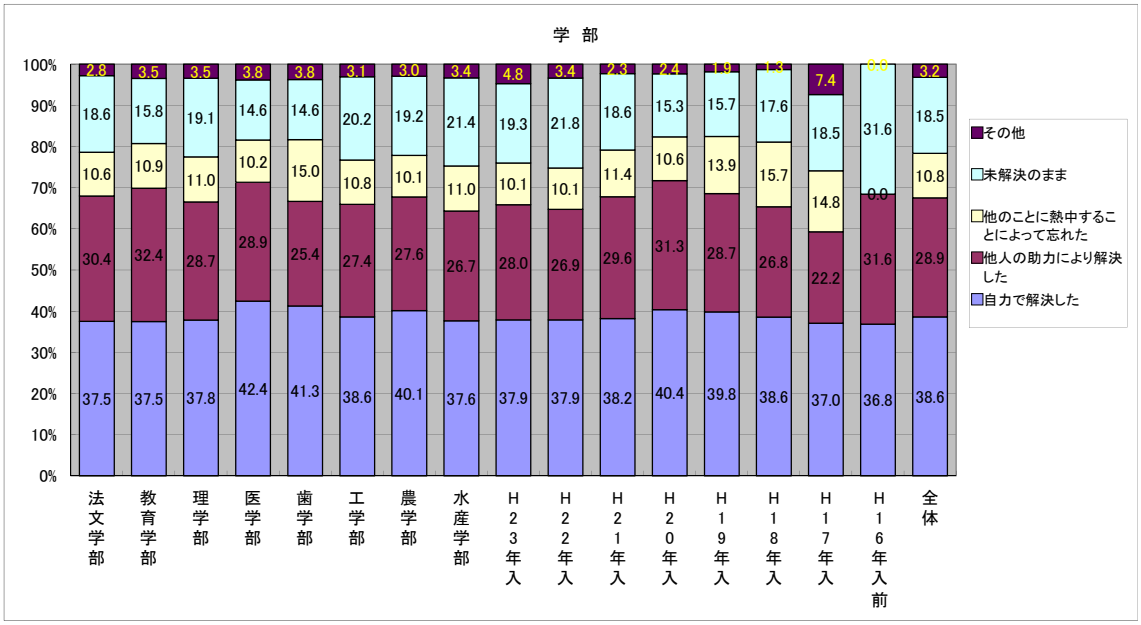


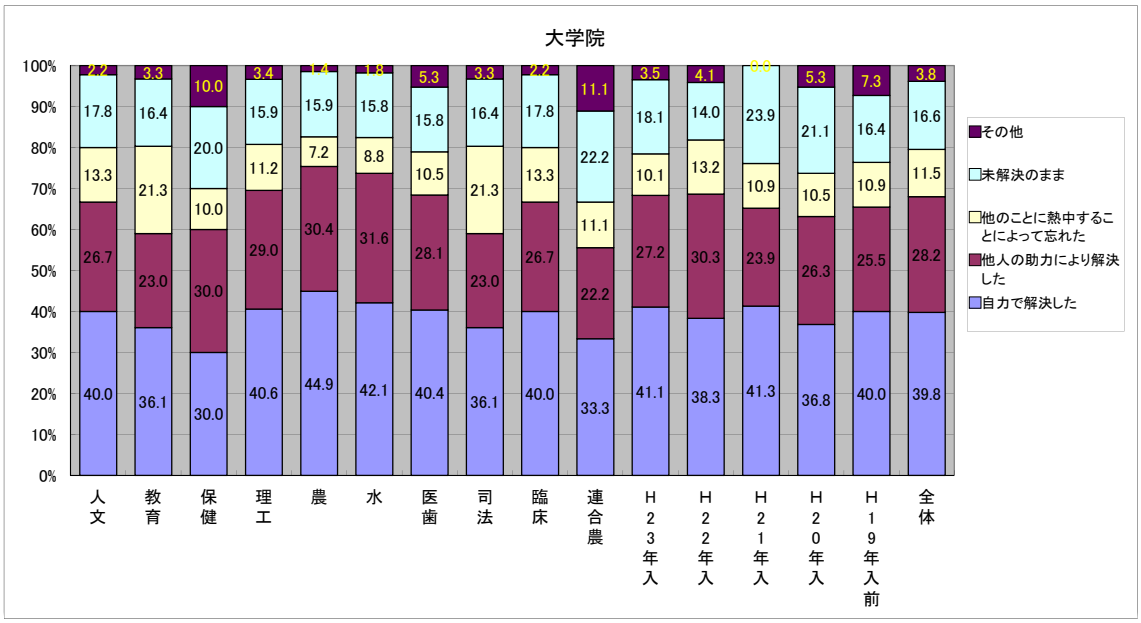
７．悩みへの対処方法

悩みへの対処方法として、学部生全体でみると、「自力で解決した」もしくは「他人の助力により解決した」と回答した学生が 67.5%であった。しかし、18.5%の学生が「未解決のまま」と回答しているので、何らかの対応が必要である。

院生全体では「自力で解決した」もしくは「他人の助力により解決した」と回答した学生が 68%であった。しかし、保健学および連合農学研究科の学生は、「未解決のまま」と回答した学生が 20%を超えていた。

図Ⅶ-7　悩みへの対処方法(複数回答可)



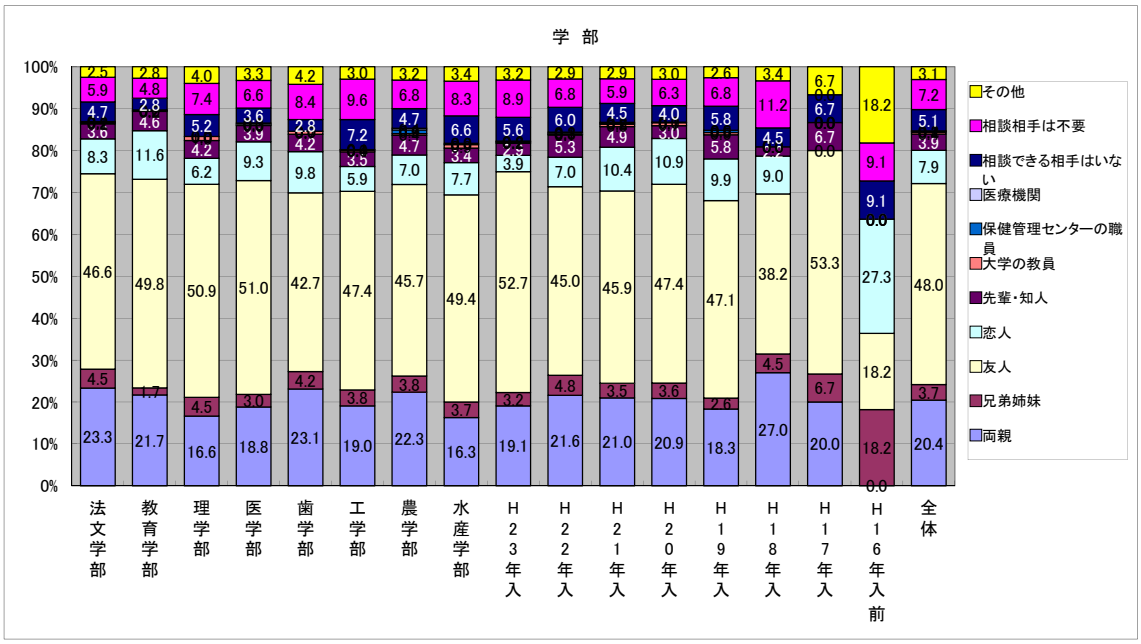


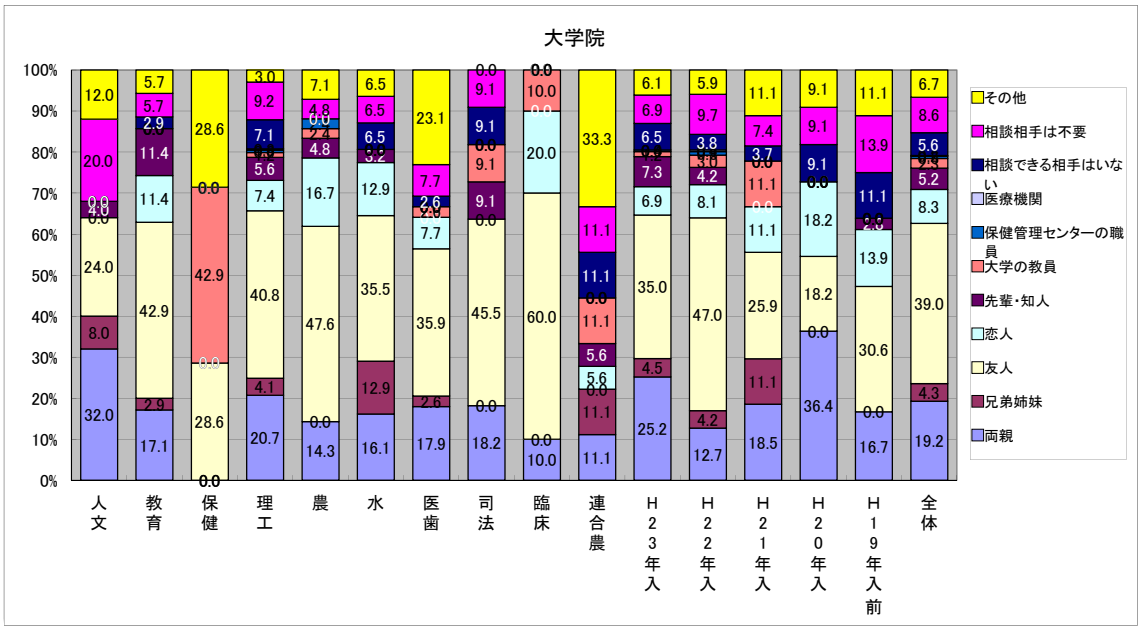
８．悩んだときに最初に相談する相手

悩んだときに最初に相談する相手として、「友人」に相談する割合が最も高い。次いで、「両親」の割合が高かった。「大学の教員」、「保健管理センターの職員」、「医療機関」に相談する割合は非常に少ない。また、「相談できる相手がいない」と回答している学生もいるので、対策が必要である。

院生全体では「友人」に相談する割合が最も高く、次いで「両親」が高かった。研究科別にみると、保健学研究科の学生は、「大学の教員」に相談する割合が 42.9%で最も高かった。

図Ⅶ-8　悩んだときに最初に相談する相手



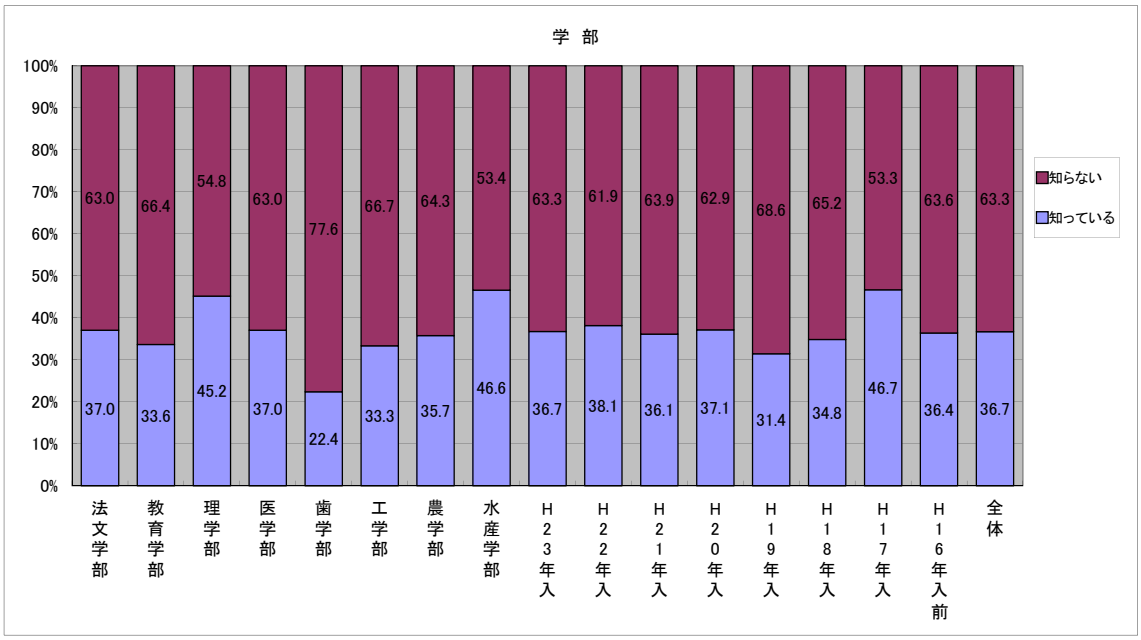


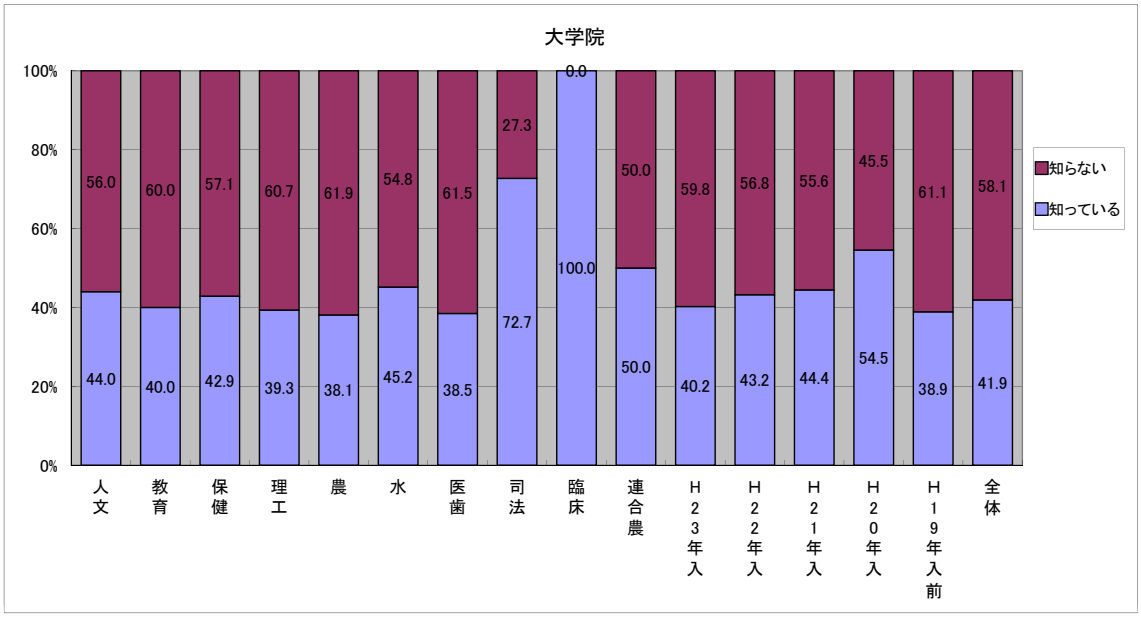
９．保健管理センターのカウンセラーの認識

保健管理センターのカウンセラーを「知っている」と答えた学生は、学部生全体の 36.7%であった。学部生全体の半数も満たしていないので、もっとカウンセラーの存在の認知度と、カウンセラーによって提供されるサービスについての広報の必要性がある。

院生全体では、41.9%であった。しかし、司法政策および臨床心理学研究科は、半数以上が「知っている」と回答し、特に臨床心理学研究科は 100%の学生が「知っている」と回答した。

図Ⅶ-9　保健管理センターのカウンセラーの認識



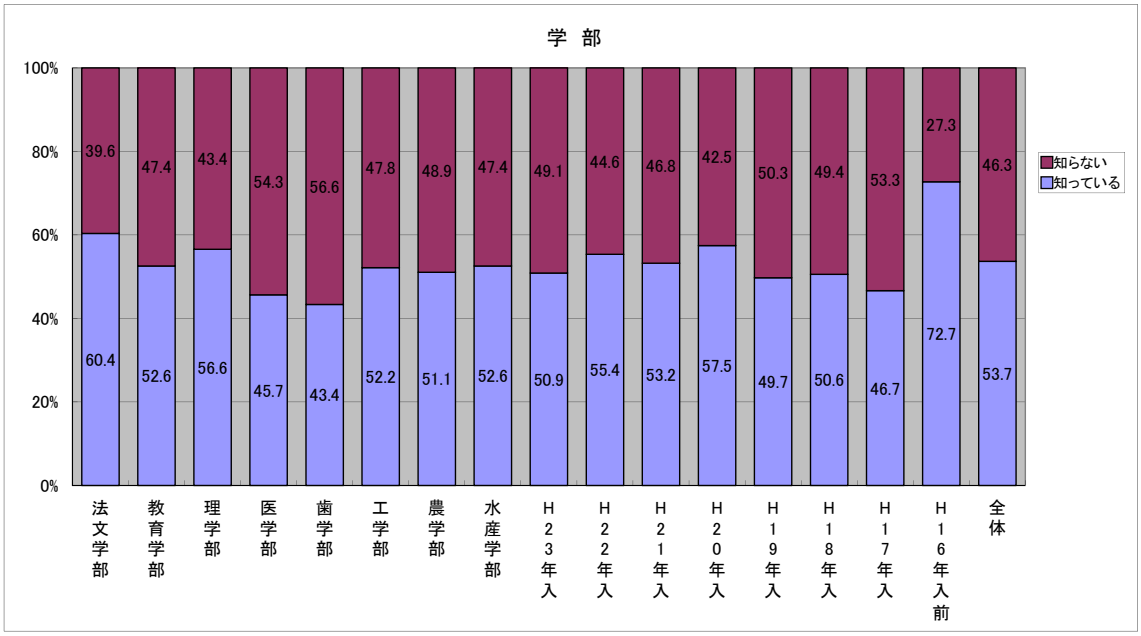


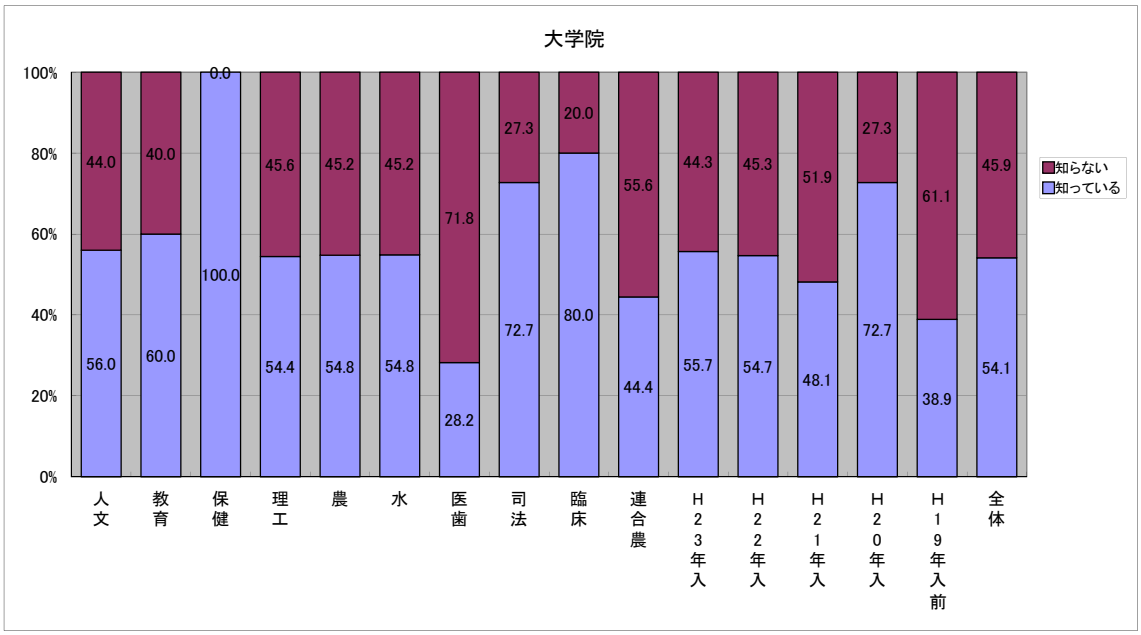
第８章　ハラスメント等について

１．学生何でも相談室の認識

全体として「知っている」が半数を超えているが、学部では医学部、歯学部がやや低く、大学院では医歯学総合研究科が低い認識度となっている。

図Ⅷ-1　学生何でも相談室の認識

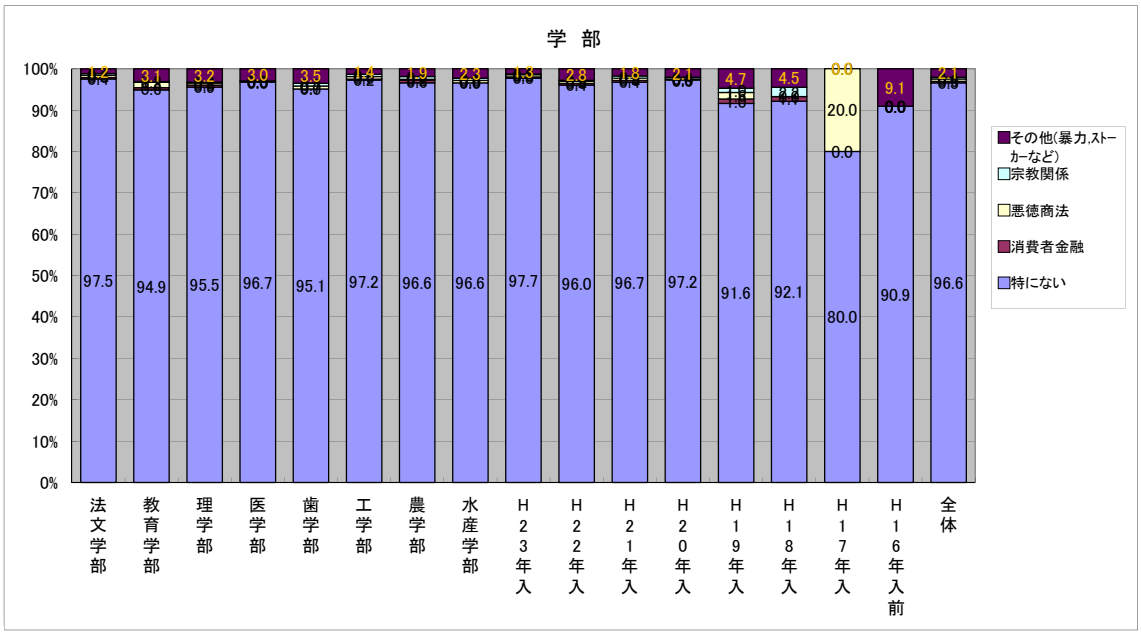


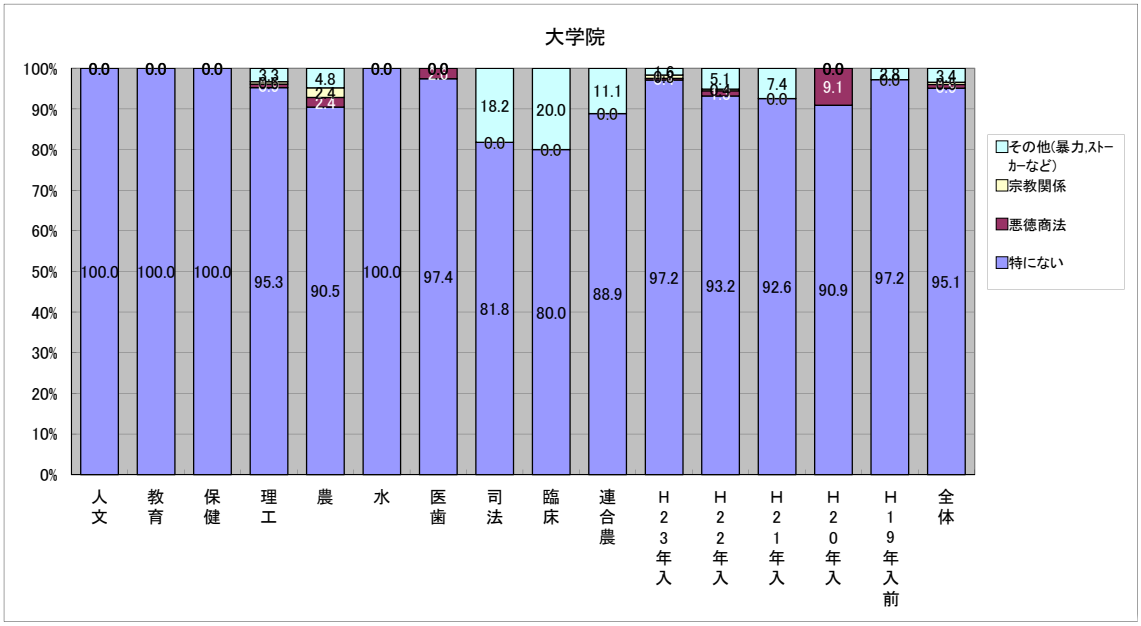


２．トラブルの有無

トラブルに巻き込まれた学生は5%未満であるが、そのトラブルの内訳は「その他(暴力, ストーカーなど)」が過半数となっている。

図Ⅷ-2　トラブルの有無



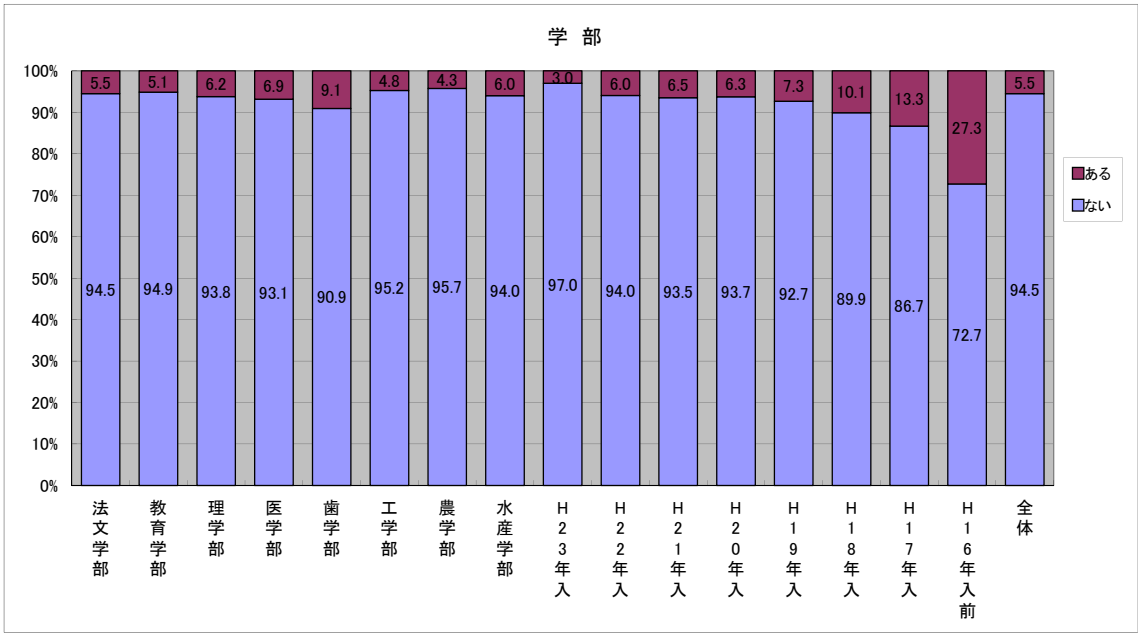


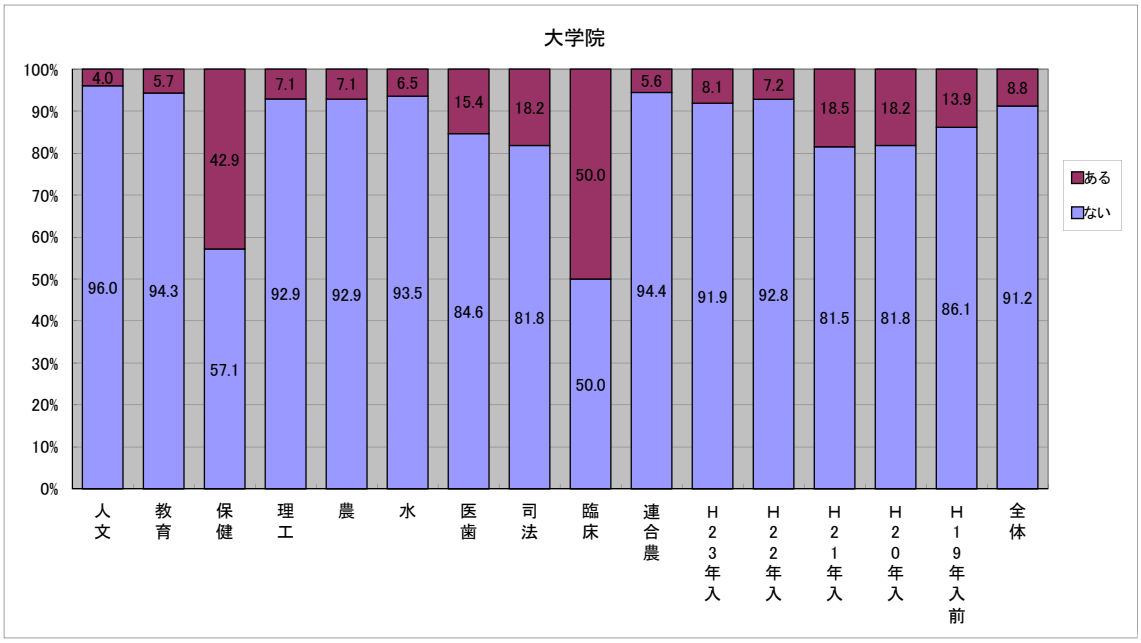
３．ハラスメントについて

（1）ハラスメントの有無

「ない」が学部全体で 94.5%、大学院全体で 91.2%という値であったが、大学院では母数の小さい保健学研究科と臨床心理学研究科の値が低くなっている。

図Ⅷ-3-1　ハラスメントの有無

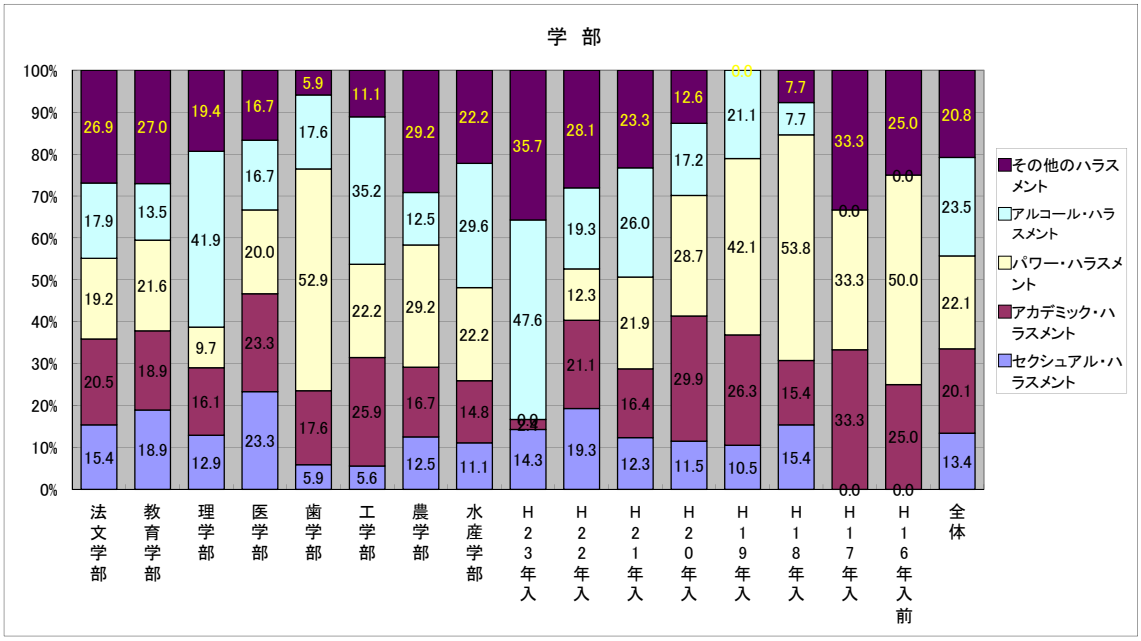


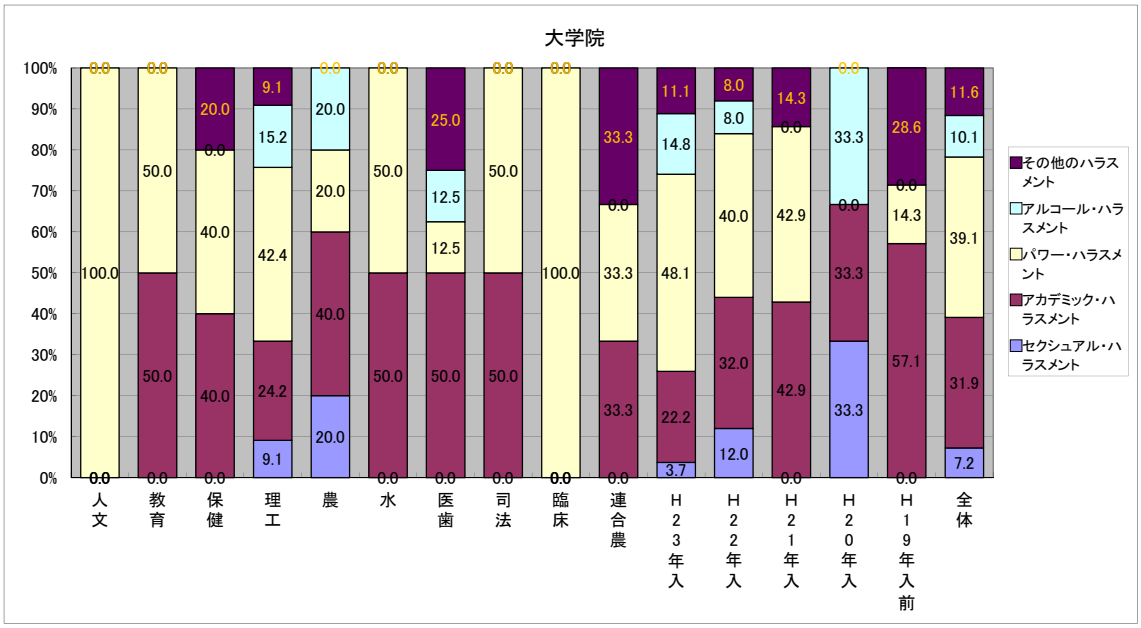


（2）ハラスメントの内容

学部生全体では「アルコール・ハラスメント」、「パワー・ハラスメント」、「アカデミック・ハラスメント」の３つの値が高い。院生全体では「パワー・ハラスメント」、「アカデミック・ハラスメント」の２つが最も高い値となっている。

図Ⅷ-3-2　ハラスメントの内容（複数回答可）

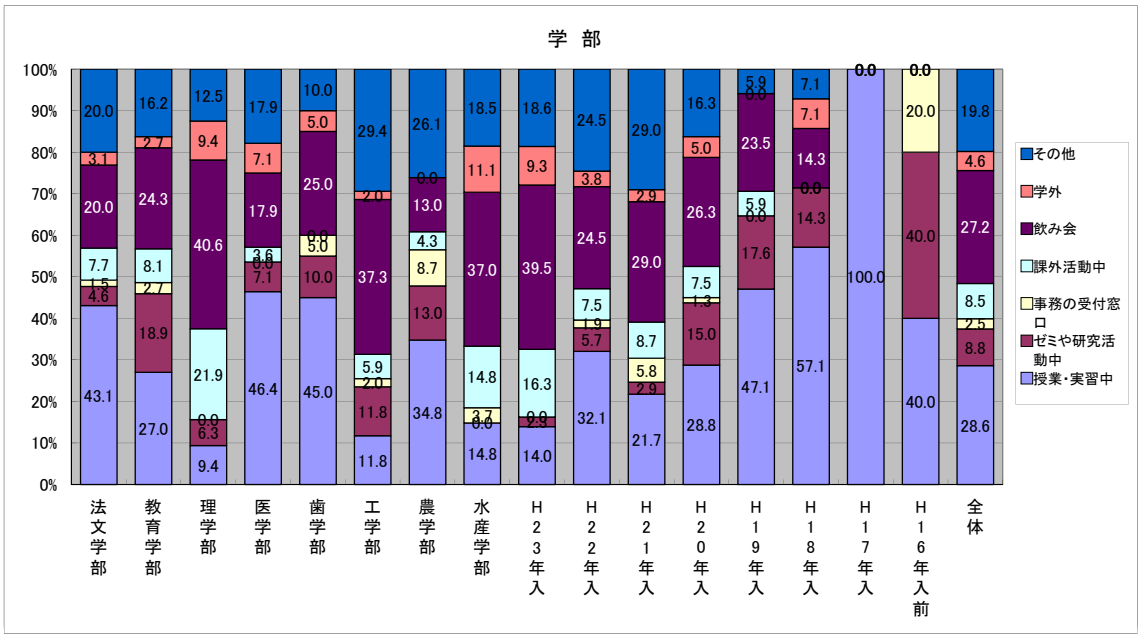


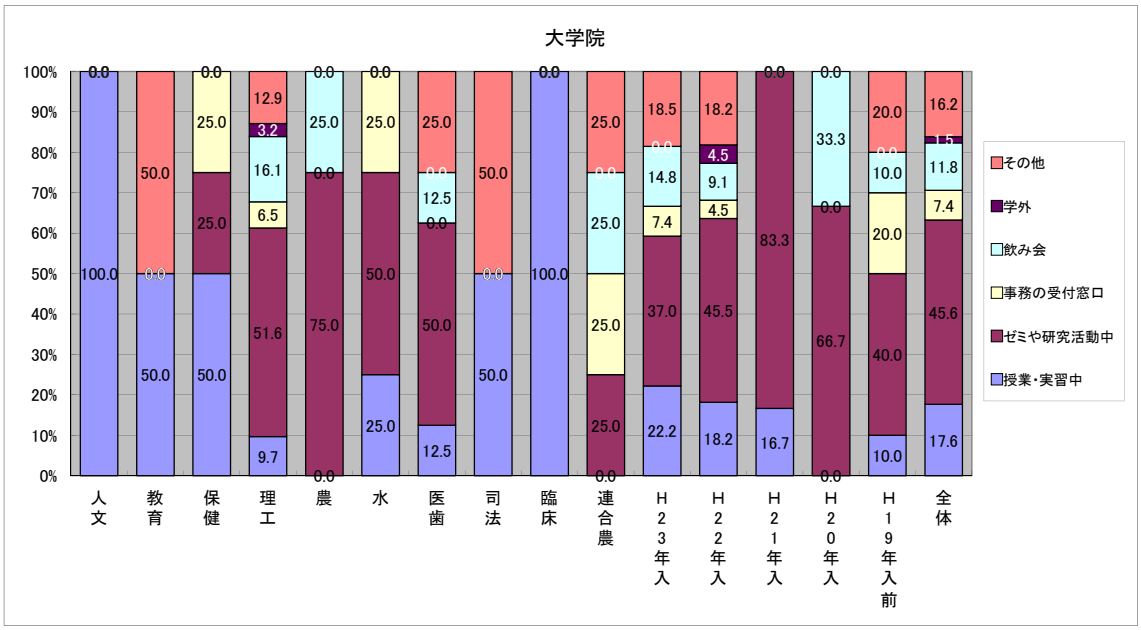


（3）ハラスメントの場所

学部生全体では「授業・実習中」と「飲み会」が高い値となっている。院生全体では「ゼミや研究活動中」の値が突出している。

図Ⅷ-3-3　ハラスメントの場所（複数回答可）

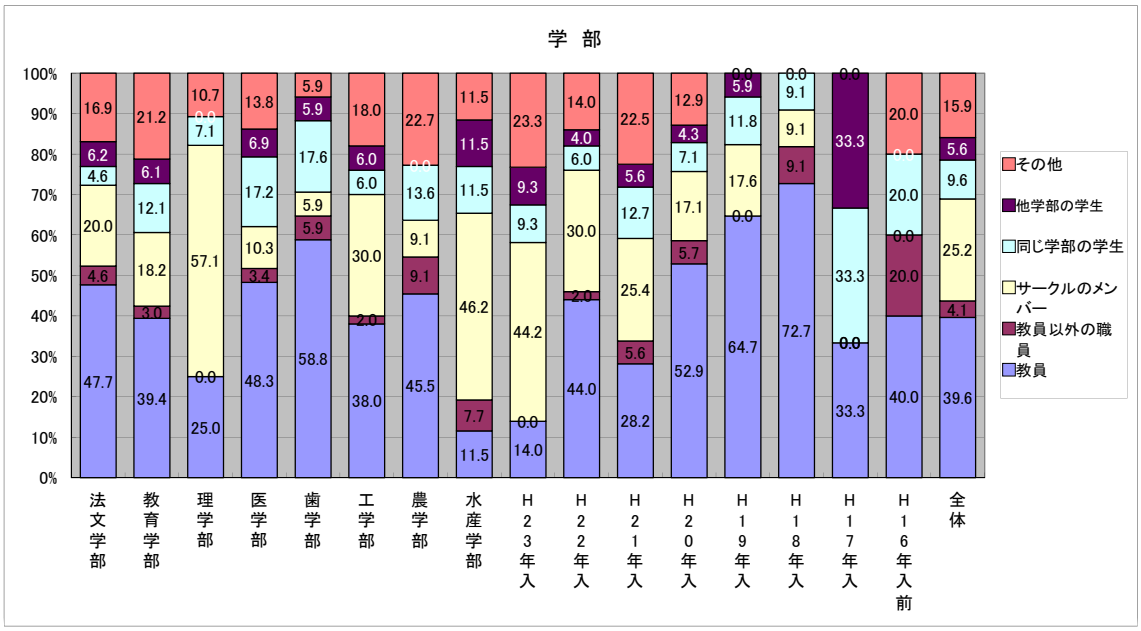


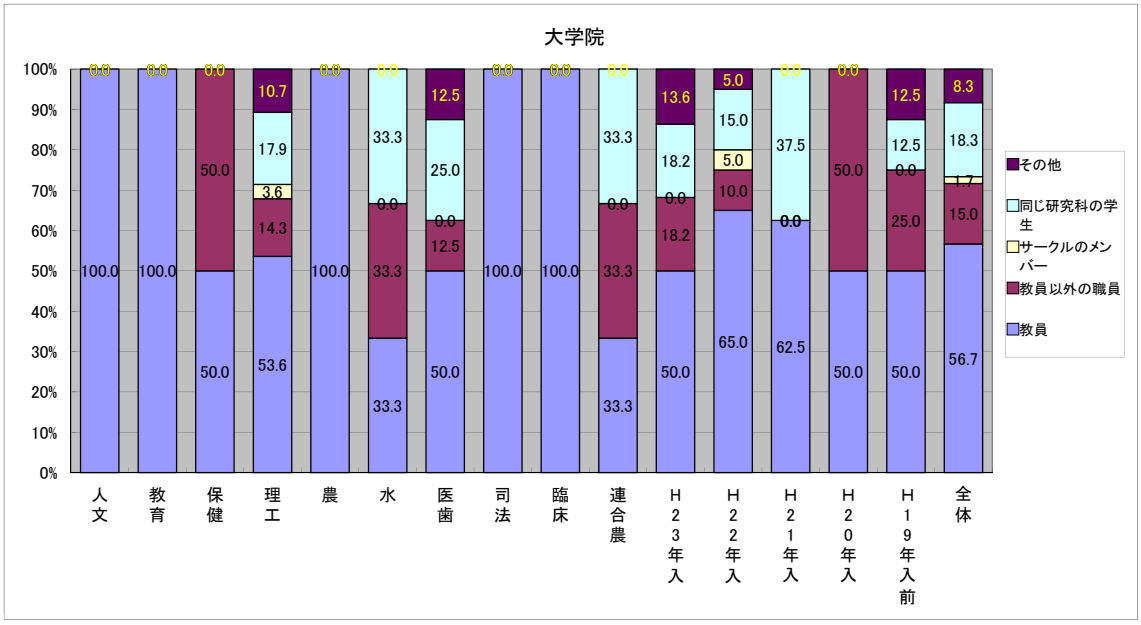


（4）ハラスメントの行為者

「教員」が学部生、院生ともに最も高く、次いで学部生では「サークルのメンバー」、院生では「同じ研究科の学生」の割合が高い。

図Ⅷ-3-4　ハラスメントの行為者（複数回答可）

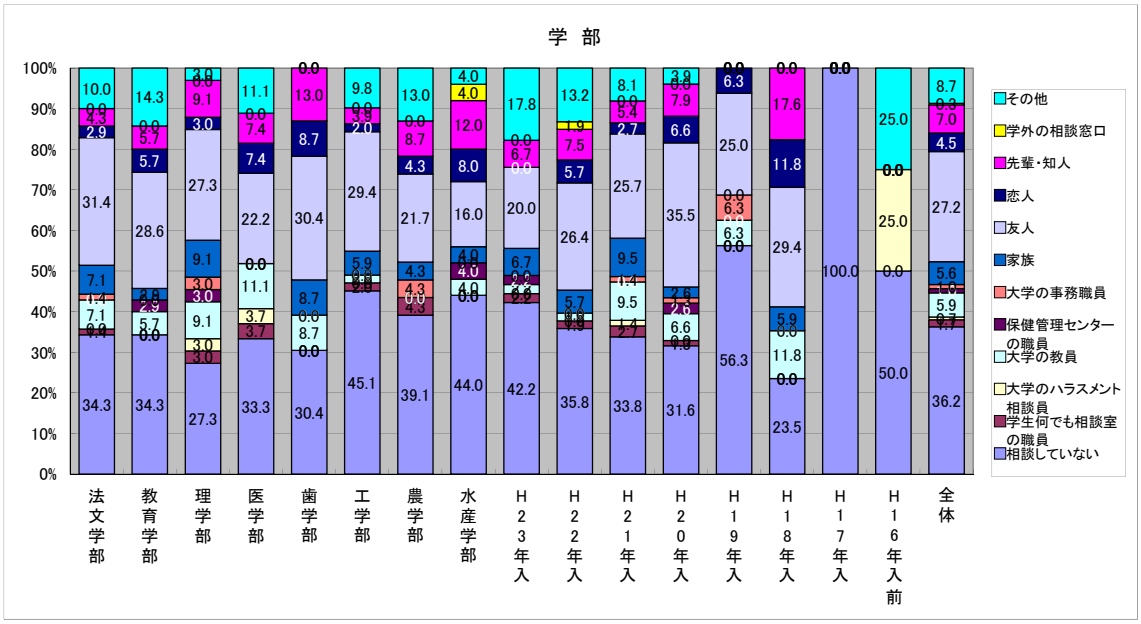


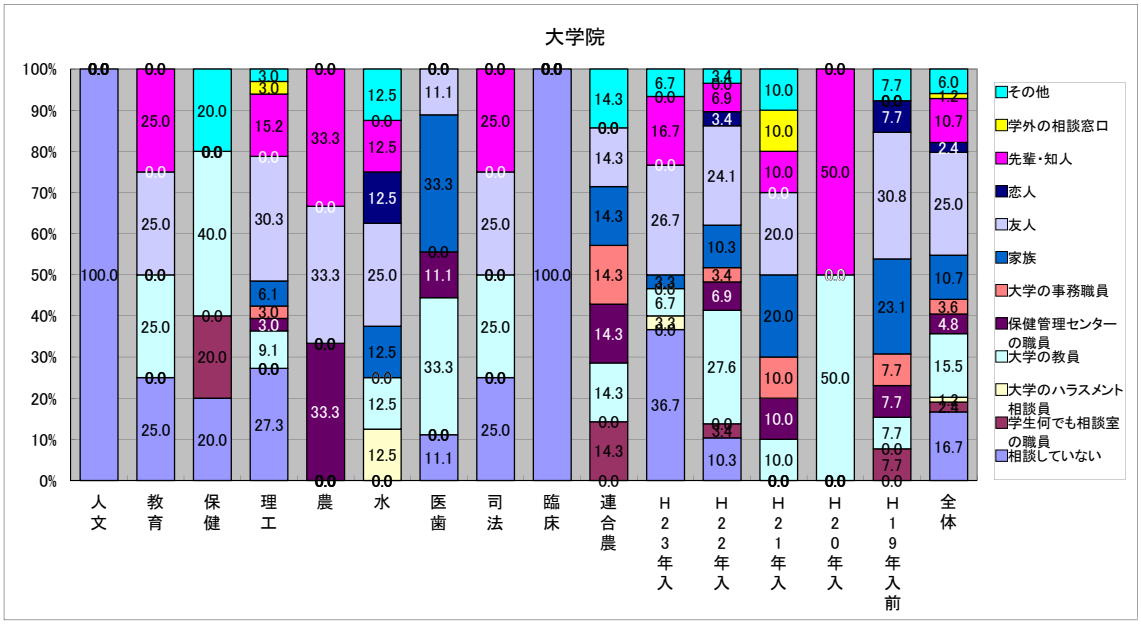


（5）ハラスメントの相談者

「相談していない」割合は学部生全体で 36.2%、院生全体で 16.7%となっている。学部生、院生ともに「友人」への相談の割合が高い。

図Ⅷ-3-5　ハラスメントの相談者（複数回答可）

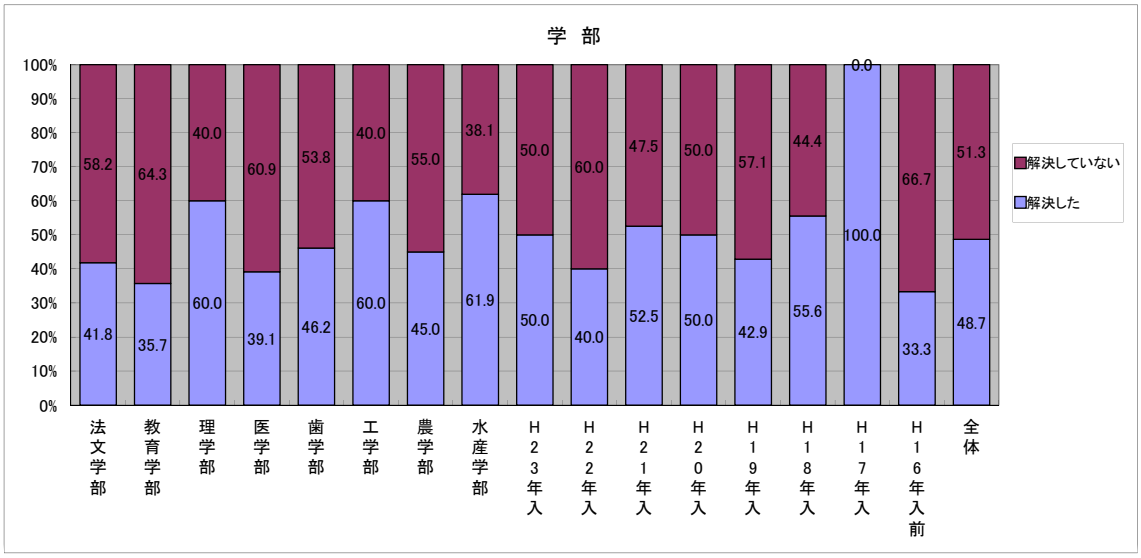


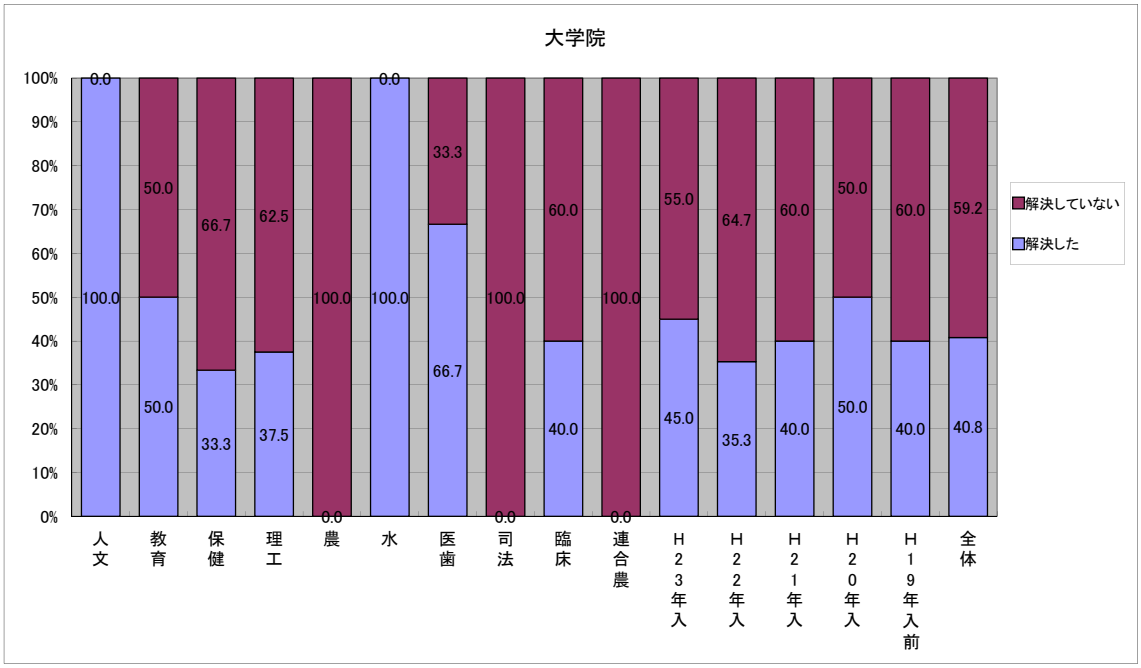


（6）ハラスメントの解決

「解決していない」が学部生、院生ともに過半数となっている。

図Ⅷ-3-6　ハラスメントの解決



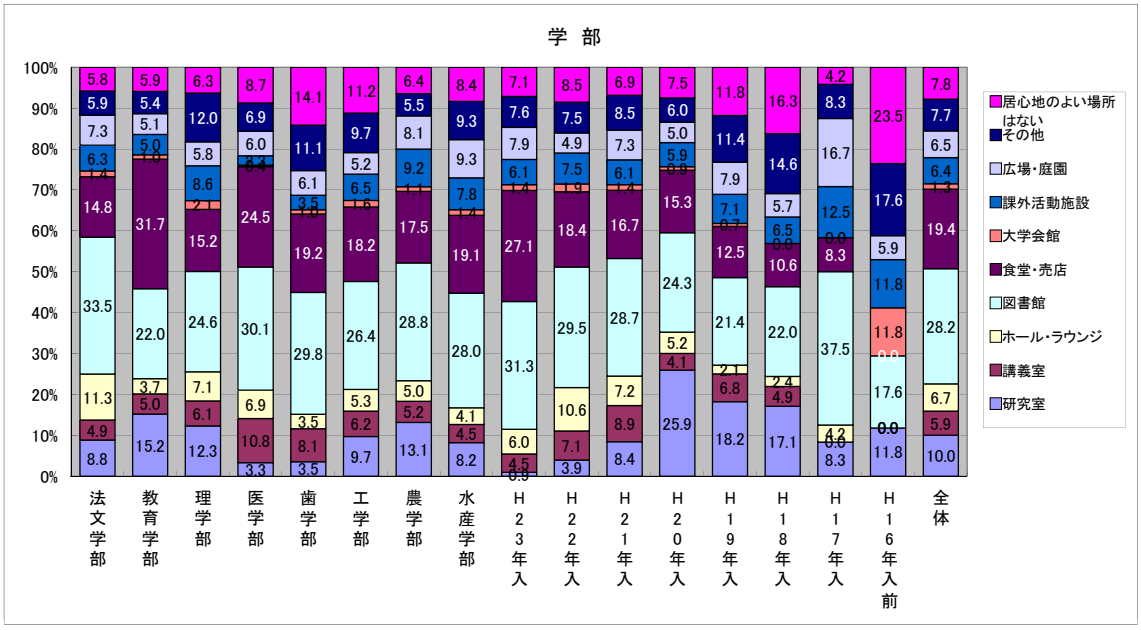


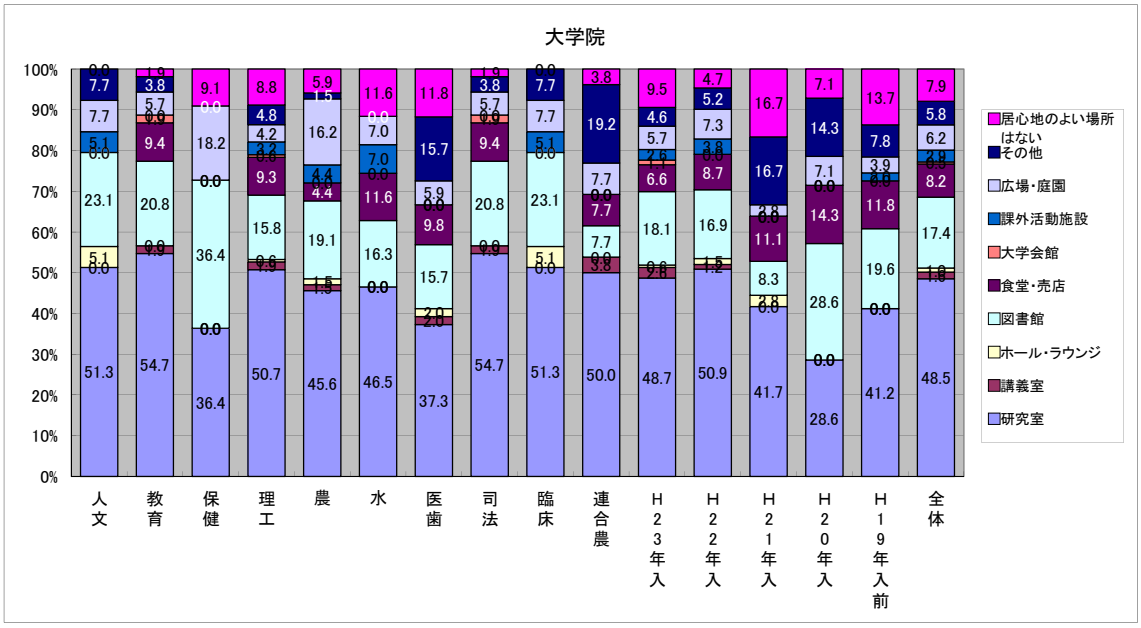
第９章　施設とキャンパス環境について

１．快適な施設

学部生全体では「図書館」が 28.2%と最も高く、次いで「食堂・売店」19.4%、「研究室」10.0%となっている。院生では「研究室」が 48.5%と半数近くを占め、次が「図書館」17.4%という結果であった。

図Ⅸ-1　快適な施設（２つまで回答可）

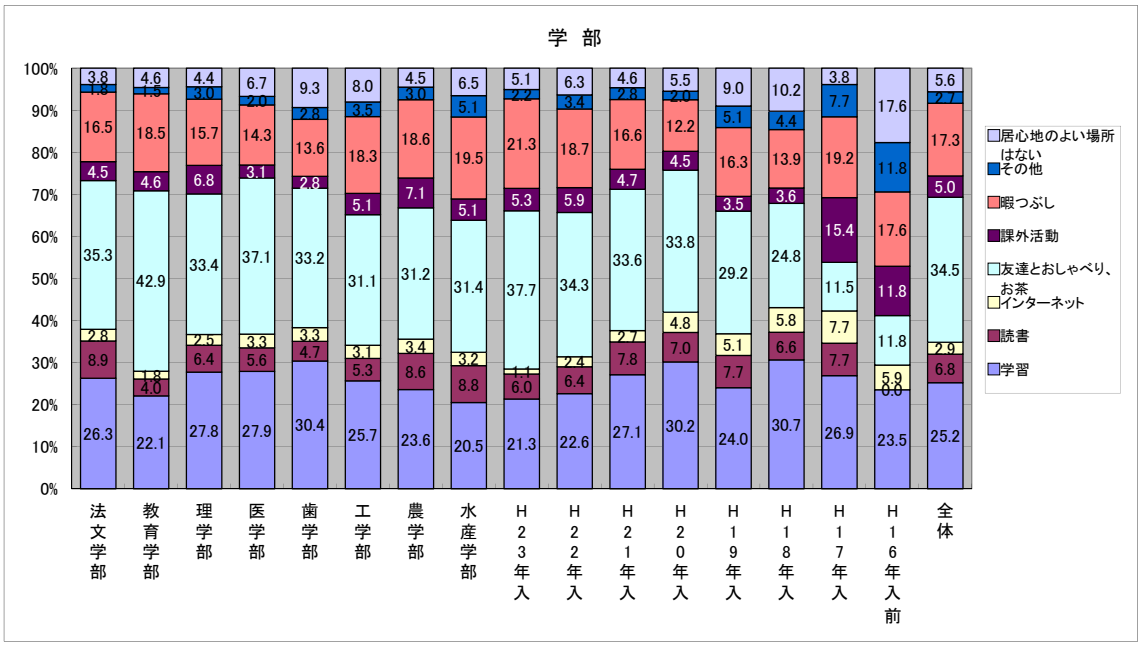


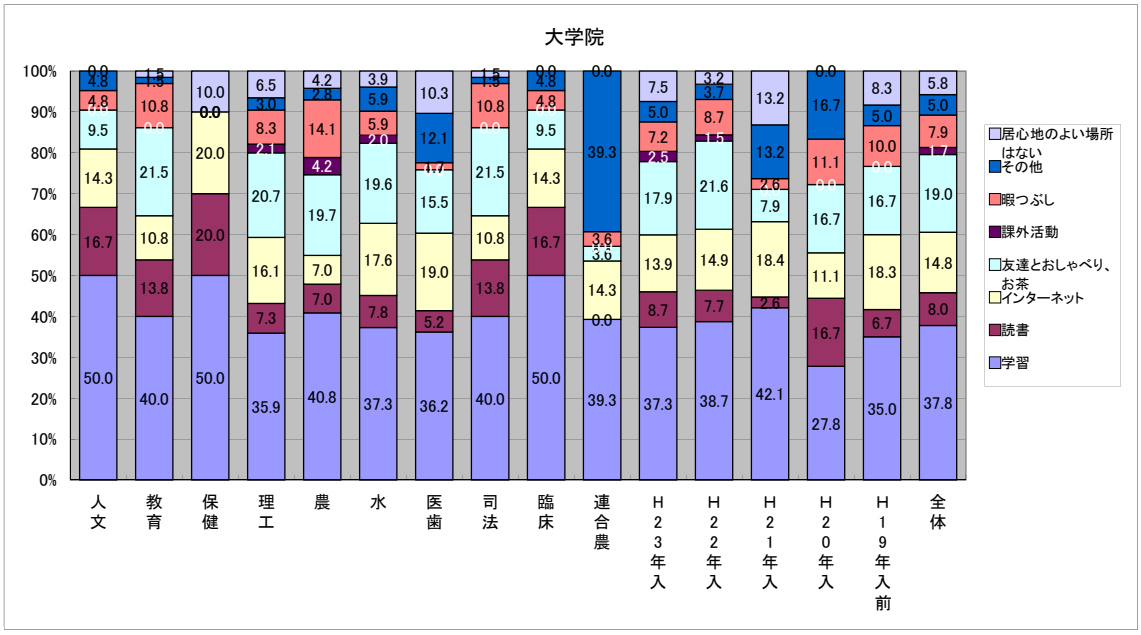


２．快適な施設での行為

学部生全体では「友達とおしゃべり、お茶」の 34.5%が最も高く、次いで「学習」25.2%、「暇つぶし」17.3%であった。院生では「学習」37.8%、「友達とおしゃべり、お茶」19.0%、「インターネット」14.8%の順であった。

図IX-2　快適な施設での行為（２つまで回答可）

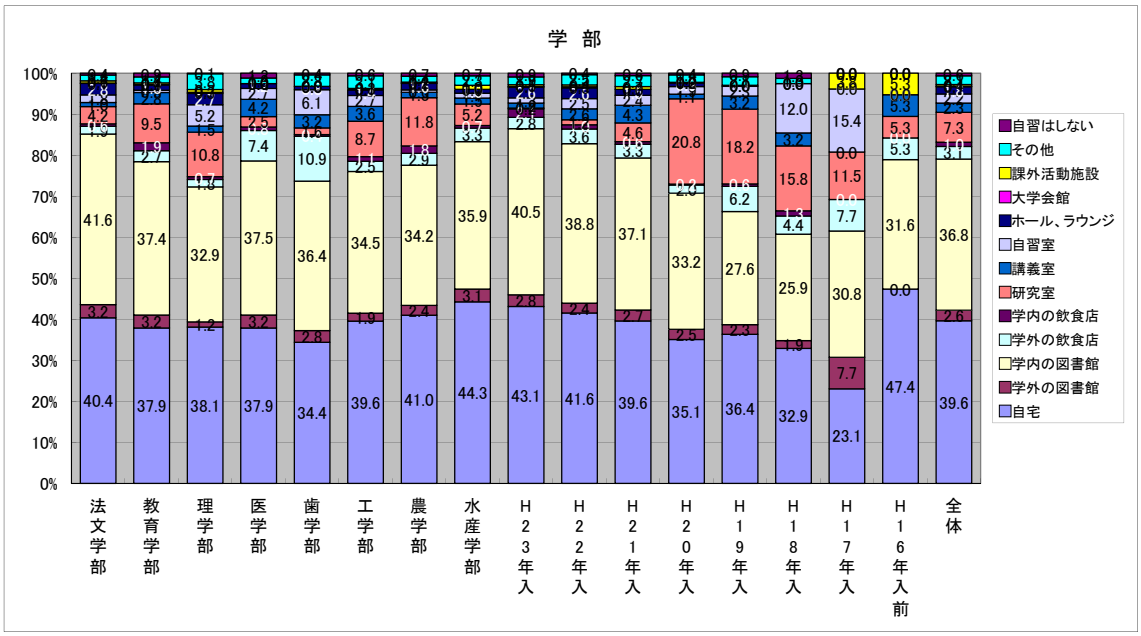


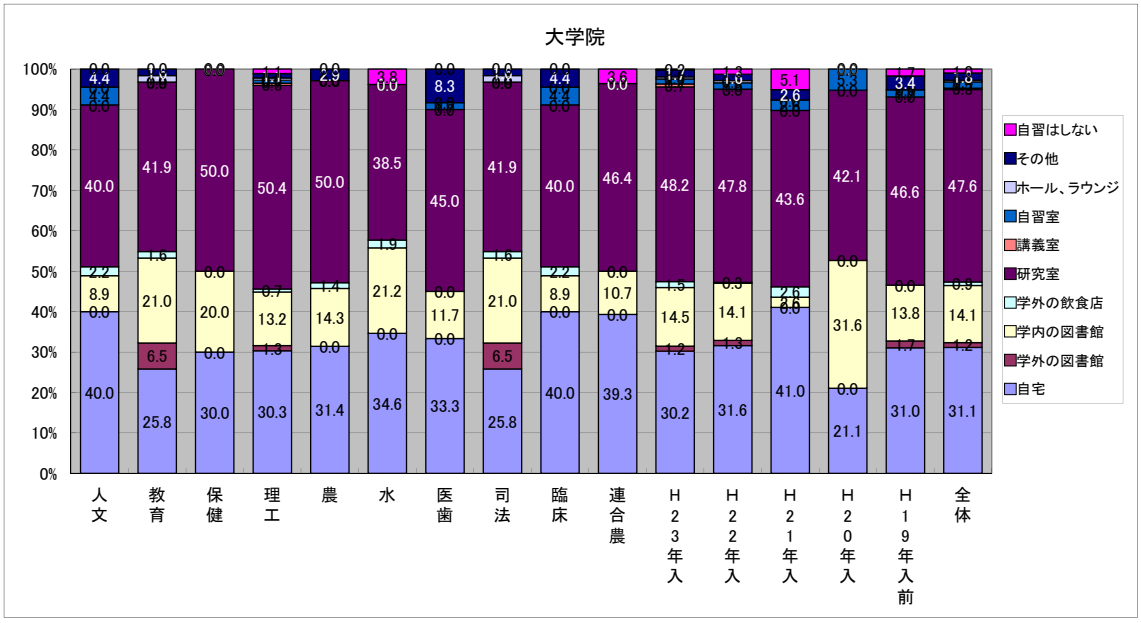


３．自習に利用する施設

学部生全体では「自宅」39.6%、「学内の図書館」36.8%の２項目で75%を超えている。院生では「研究室」47.6%と半数近くを占め、次いで「自宅」31.1%という結果であった。

図IX-3 自習に利用する施設（２つまで回答可）

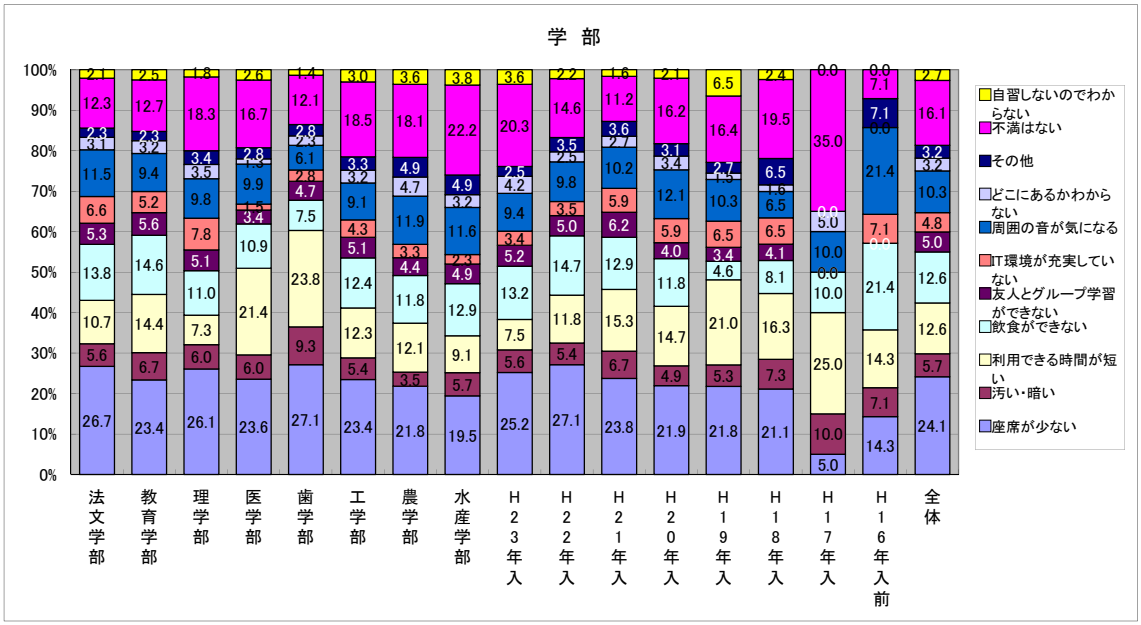


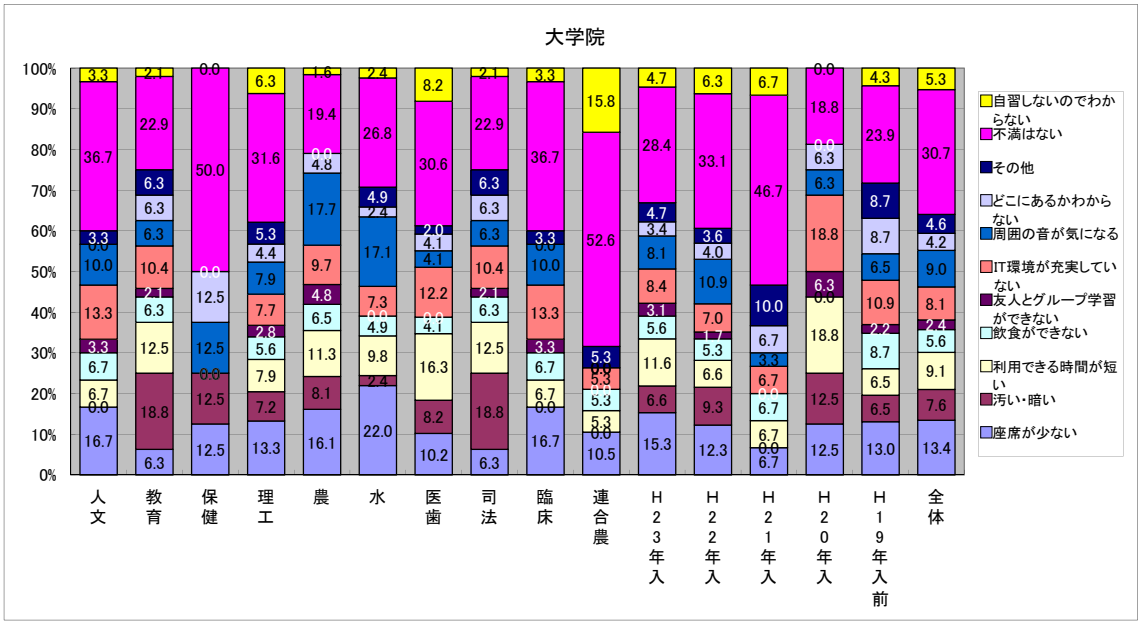


４．自習に利用する施設への改善要望

「座席が少ない」が学部生全体で 24.1%、院生全体で 13.4%と、ともに最も高い値であった。なお「不満はない」は学部生全体で 16.1%、院生全体で 30.7%という結果となっている。

図Ⅸ-4　自習に利用する施設への改善要望（２つまで回答可）

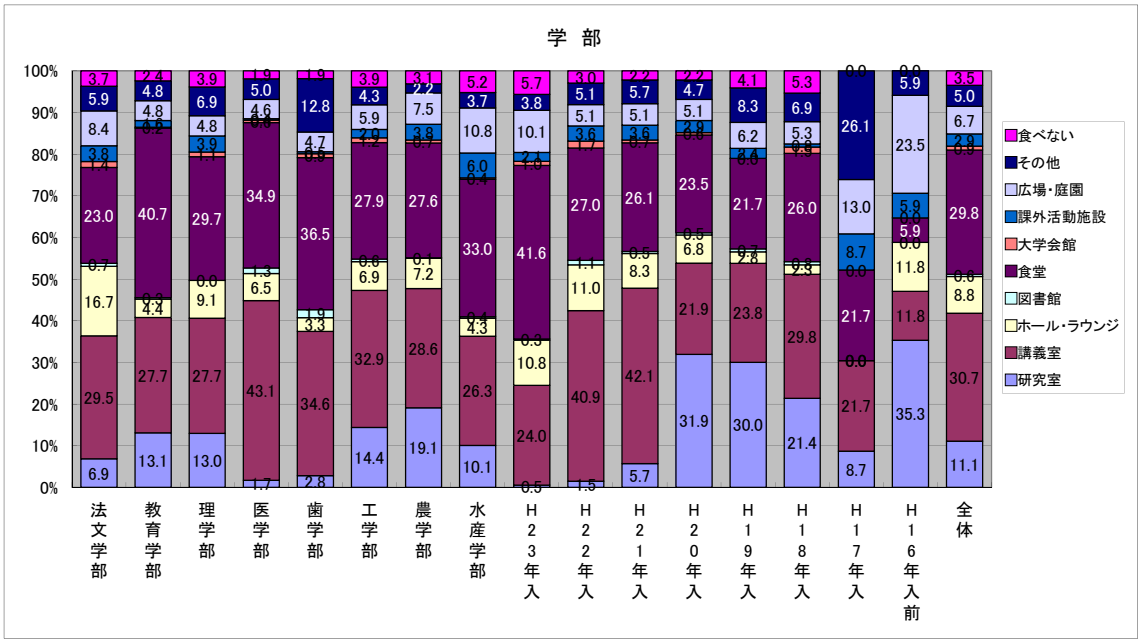


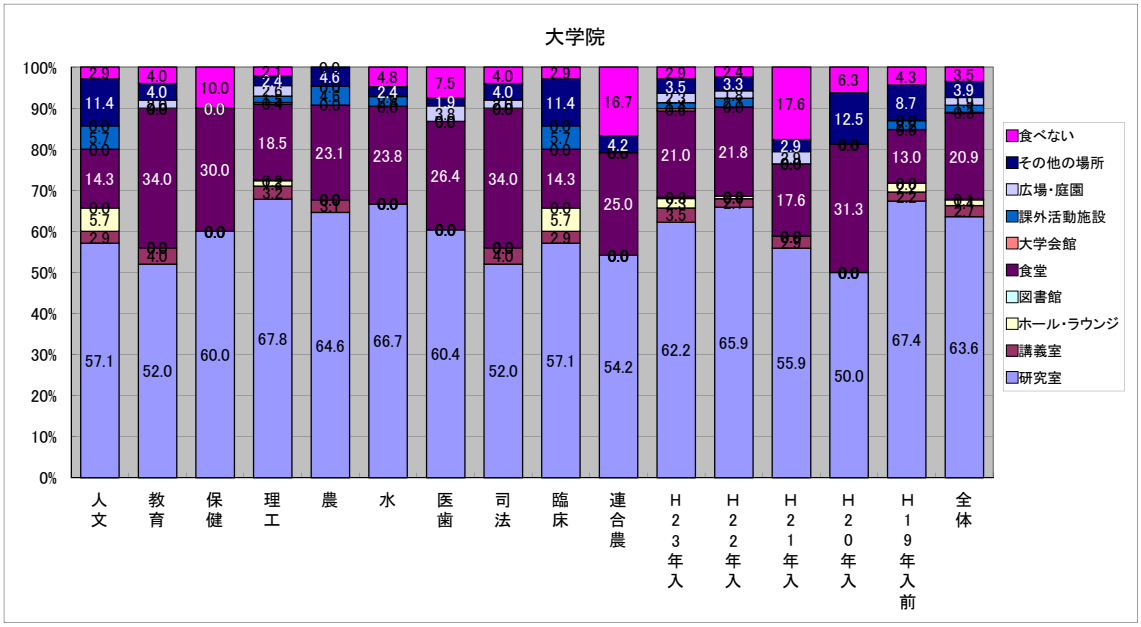


５．弁当等を食べるために利用する施設

学部生全体では「講義室」30.7%、「食堂」29.8%で60%を超えている。院生では「研究室」が63.6%と高く、次いで「食堂」20.9%の順であった。

図Ⅸ-5　弁当等を食べるために利用する施設（２つまで回答可）

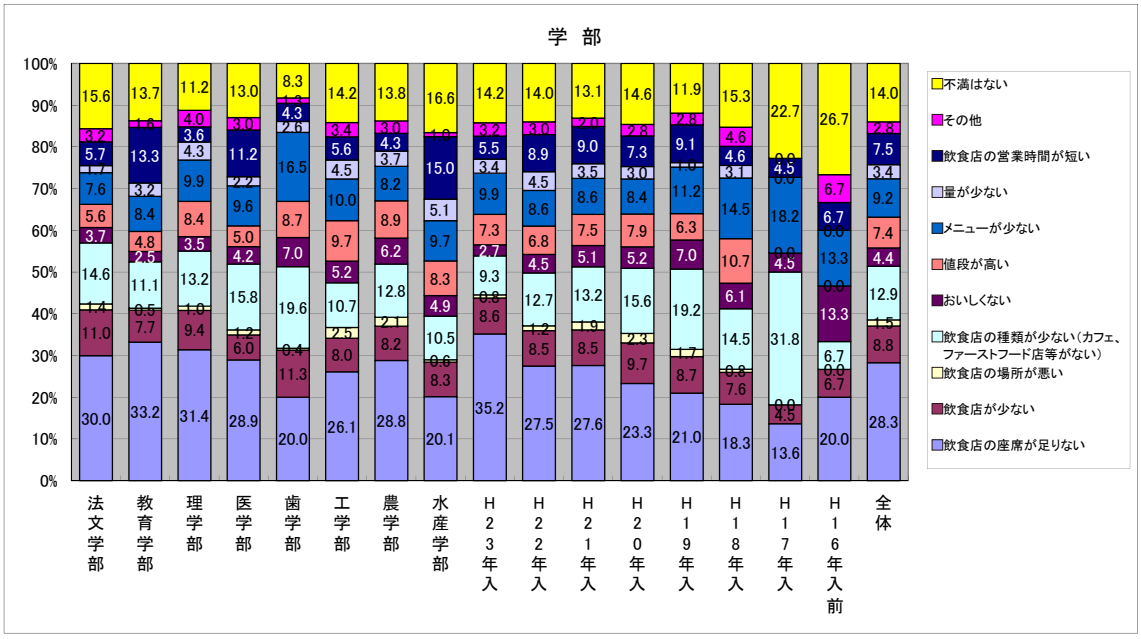


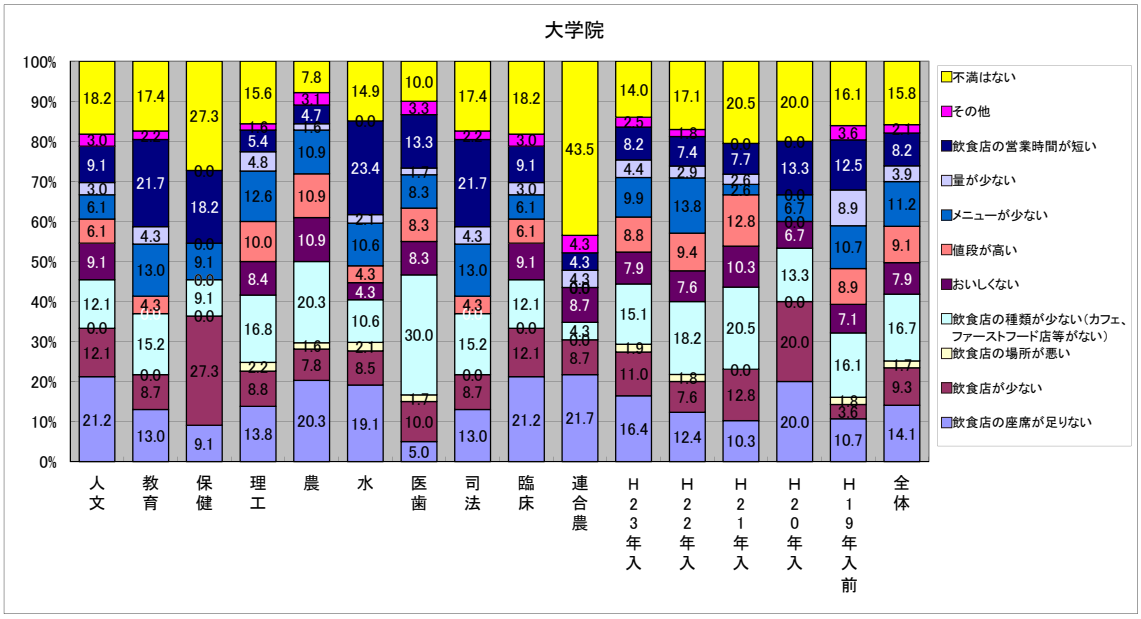


６．飲食施設への改善要望

学部生全体では「飲食店の座席が足りない」28.3%が最も高く、次いで「飲食店の種類が少ない」12.9%という結果であった。院生では「飲食店の種類が少ない」16.7%、「飲食店の座席が足りない」14.1%の順であった。なお「不満はない」は学部生で14.0%、院生が15.8%という値であった。

図IX-6　飲食施設への改善要望（２つまで回答可）

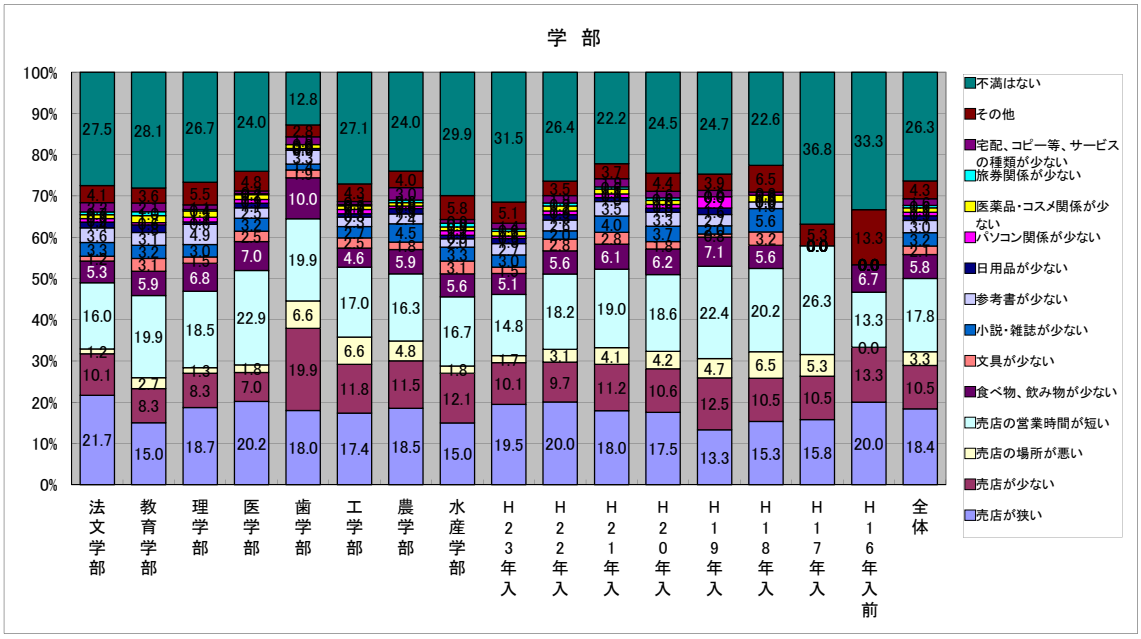


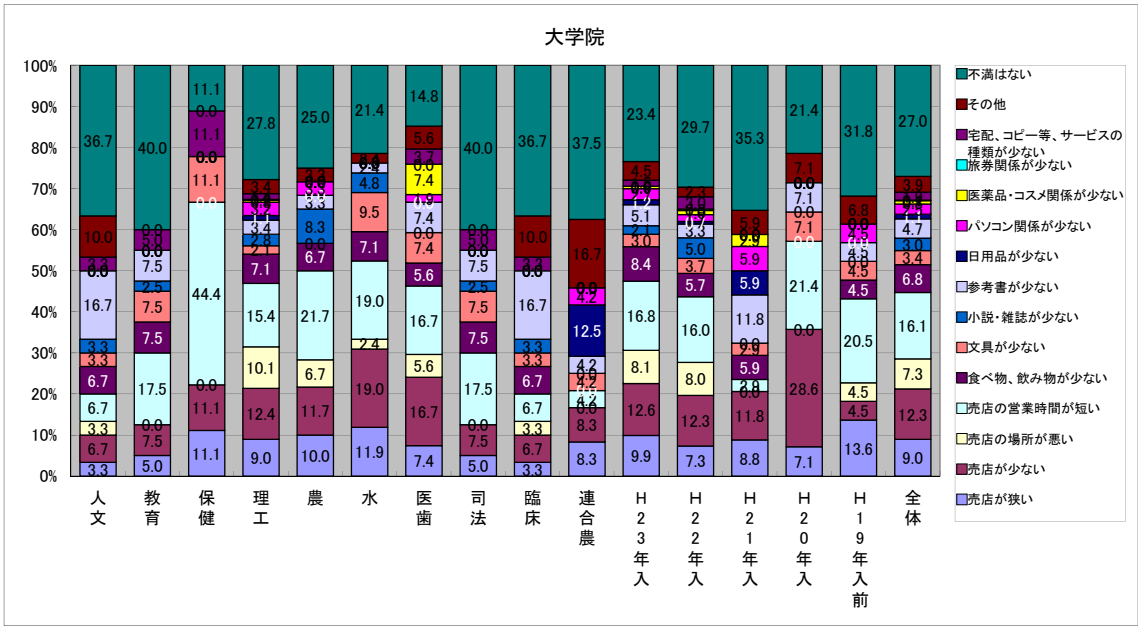


７．売店への改善要望

「不満はない」が最も高く、学部生全体で 26.3%、院生で 27.0%という結果であった。次いで学部生、院生ともに「売店が狭い」、「売店の営業時間が短い」、「売店が少ない」の値が高い。

図Ⅸ-7　売店への改善要望（２つまで回答可）

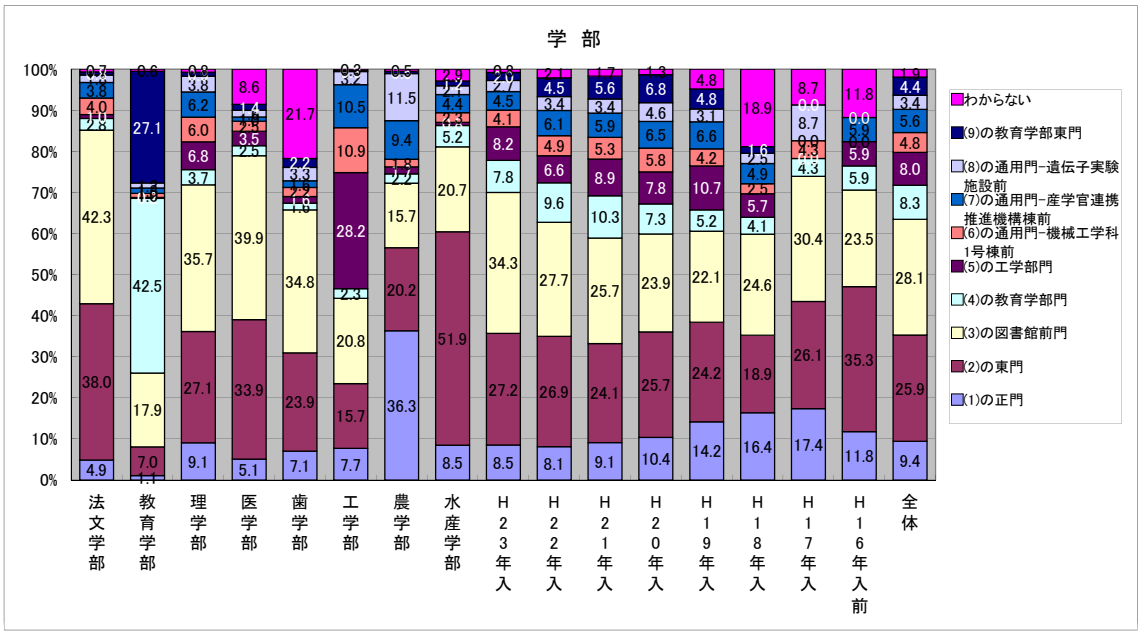


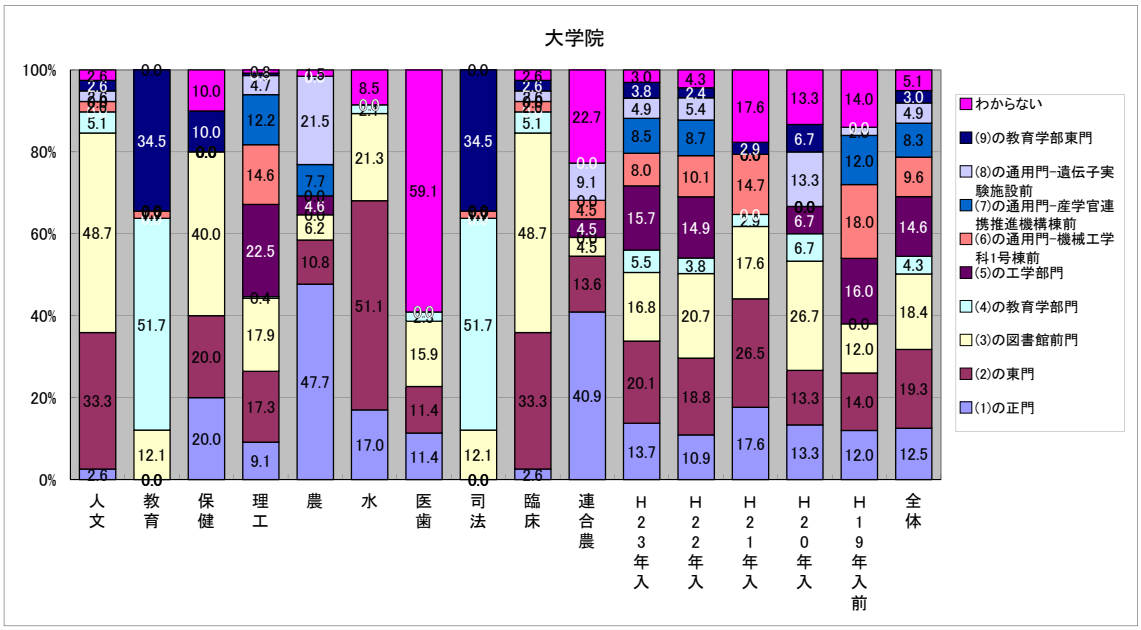


８．郡元キャンパスでよく利用する門

「(3)の図書館前門」と「(2)の東門」の値が学部生、院生ともに高い結果となっている。なお教育学部、教育学研究科学生は「(4)の教育学部門」、「(9)の教育学部東門」が高い値となっている。

図Ⅸ-8　郡元キャンパスでよく利用する門（２つまで回答可）

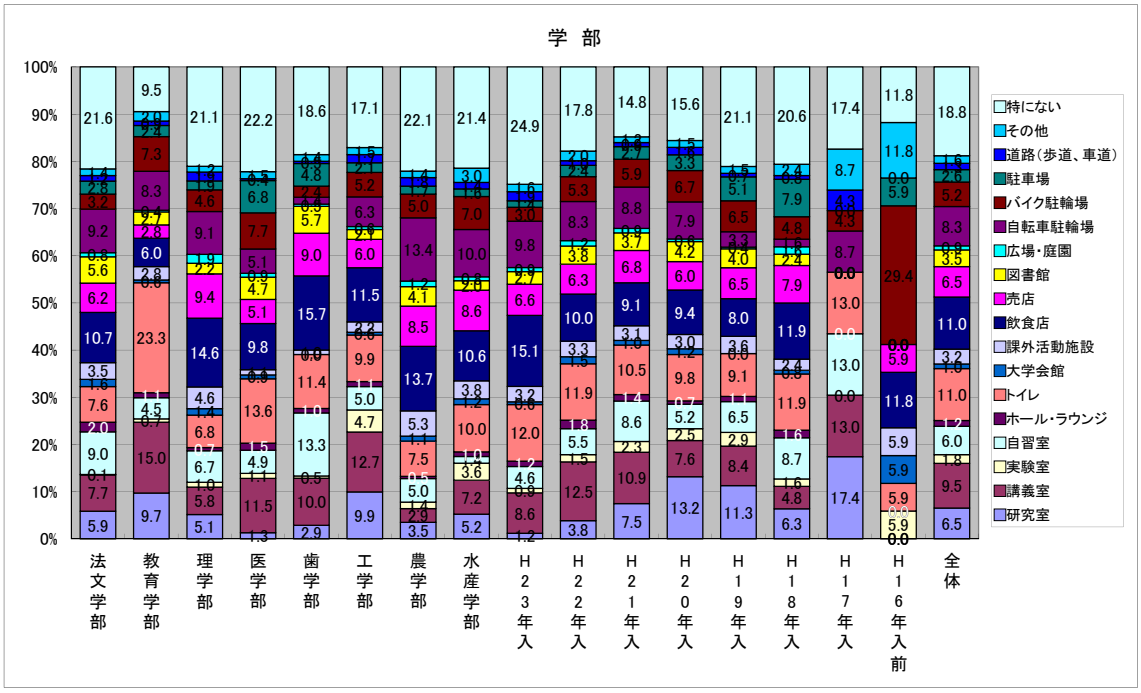


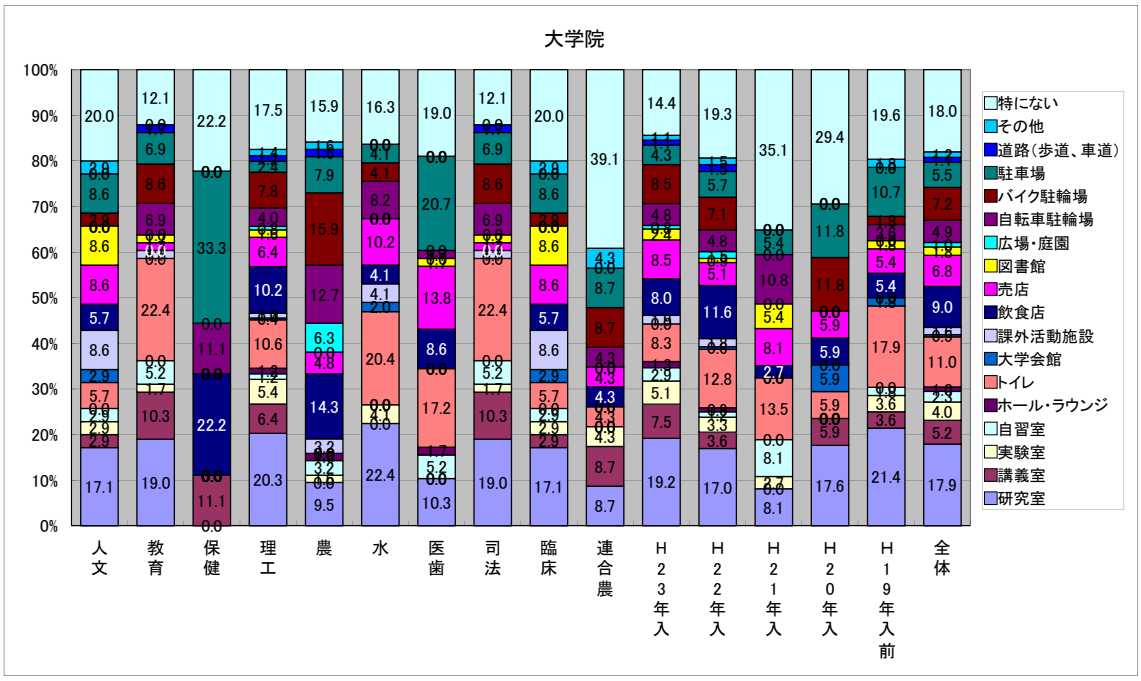


９．大学施設・環境への改善要望

学部生全体では「トイレ」と「飲食店」がともに11.0%と最も高かった。院生では「研究室」17.9%、「トイレ」11.0%の順であった。「特にない」は学部生が18.8%、院生が18.0%という結果であった。

図Ⅸ-9　大学施設・環境への改善要望（２つまで回答可）





第 10 章　大学生活についての感想、意見、要望等ついて

学　　部

学習環境

授業等：　シラバスと異なる授業をする教員がいる。
シラバスをインターネットに全て掲載してほしい
冬休みの期間が県外生に配慮されていない
講義室に時計がほしい

図書館：　２４時間開館して欲しい
空調の効きが悪い
専門書以外の一般書籍も充実して欲しい

施設設備：　構内と周辺に点字ブロックの設置
自習スペースが欲しい
トイレの整備
建物、施設、環境の整備希望多数

事務等：　保健センターや事務などの休憩時間を学生とずらして欲しい
名簿の順番を留年生込みで作成して欲しい

学生生活

食堂売店：　学生食堂に対する広さ、メニュー、営業時間についての不満多数

駐車場：　駐輪場を広く屋根付きにして欲しい

就職：　就職活動支援をもっと強力に

課外活動：　サークル棟、大集会室、体育館等の空調を改善してほしい

喫煙場所：　喫煙者からは喫煙場所を増やす要望が、非喫煙者からは分煙を完全にする要望が多数

マナー：　駐輪のマナーが悪いという指摘多数

学生寮：　騒ぐ者がいる
桜ヶ丘寮と郡元の間に直通バスが欲しい

授業料免除：免除基準が不公平
授業料免除をもっと多く

アンケートについて：
長すぎる
内容が郡元に偏っている（桜ヶ丘版が要るのでは）

大学院

学習環境

授業等：　研究費が少ない
受講できる科目が少ない

図書館：　ジャーナルを増やして欲しい
開館時間の延長
研究室所蔵の図書が多く使いにくい

などの他は、学部生と同じ希望が寄せられた。

【学部学生用】

学 生 生 活 実 態 調 査 項 目

＊この調査は、「基本事項」「経済状況」「住居・通学・食事」「学習」「課外活動」「就職」「健康状態」「ハラスメント等」「施設とキャンパス環境」「記述事項（意見等）」についての質問構成になっています。

＊以下の質問について、あなたの回答に最も近い項目（選択肢）の番号を選択してください。

＊記入にあたっては、平成 23 年 9 月 1 日現在で記入してください。

基本事項について

○性別

１．男　　２．女

○配偶者の有無

１．無　　２．有

○子供の有無

１．無　　２．有

○出身地

１．北海道　２．青森　３．岩手　４．宮城　５．秋田　６．山形　７．福島
８．茨城　９．栃木　１０．群馬　１１．埼玉　１２．千葉　１３．東京
１４．神奈川　１５．新潟　１６．富山　１７．石川　１８．福井　１９．山梨
２０．長野　２１．岐阜　２２．静岡　２３．愛知　２４．三重　２５．滋賀
２６．京都　２７．大阪　２８．兵庫　２９．奈良　３０．和歌山　３１．鳥取
３２．島根　３３．岡山　３４．広島　３５．山口　３６．徳島　３７．香川
３８．愛媛　３９．高知　４０．福岡　４１．佐賀　４２．長崎　４３．熊本
４４．大分　４５．宮崎　４６．鹿児島　４７．沖縄　４８．海外

○所属学部

１．法文学部　２．教育学部　３．理学部　４．医学部　５．歯学部　６．工学部
７．農学部　８．水産学部

○入学年度

１．平成 23 年(2011 年)　２．平成 22 年(2010 年)　３．平成 21 年(2009 年)
４．平成 20 年(2008 年)　５．平成 19 年(2007 年)　６．平成 18 年(2006 年)
７．平成 17 年(2005 年)　８．平成 16 年(2004 年)以前

○学年

１．1 年　２．2 年　３．3 年　４．4 年　５．5 年（医・歯・獣医）
６．6 年（医・歯・獣医）

○入学選抜方法

１．前期入試　２．後期入試　３．推薦入試Ⅰ　４．推薦入試Ⅱ
５．編入学　６．AO 入試　７．その他

Ⅰ　経済状況について

Ａ－１．あなたの１カ月の平均収入額(援助等含みます)

１．3 万円未満　　２．3 万円以上～5 万円未満
３．5 万円以上～7 万円未満　　４．7 万円以上～10 万円未満
５．10 万円以上～12 万円未満　　６．12 万円以上～15 万円未満
７．15 万円以上

Ａ－２．あなたの１カ月の平均支出額(授業料は除きます)

１．3 万円未満　　２．3 万円以上～5 万円未満
３．5 万円以上～7 万円未満　　４．7 万円以上～10 万円未満
５．10 万円以上～12 万円未満　　６．12 万円以上～15 万円未満
７．15 万円以上

Ａ－３．あなたの家庭全体の年収額

１．200 万円未満　　２．200 万円以上～400 万円未満
３．400 万円以上～600 万円未満　　４．600 万円以上～800 万円未満
５．800 万円以上～1000 万円未満　　６．1000 万円以上
７．わからない

Ａ－４．主な家計支持者

１．父　２．母　３．兄弟姉妹　４．祖父母　５．配偶者　６．本人　７．その他

Ａ－５．授業料免除(平成 23 年度前期分)について、次のどれにあたりますか

１．全額免除された　　２．半額免除された　　３．申請したが不許可だった
４．制度を知らなかったので申請できなかった　５．希望しなかった　６．その他

Ａ－６．現在、奨学金を受けていますか

１．受けている　２．応募したが受けられなかった
３．制度を知らなかったので応募できなかった　４．希望しなかった　５.その他

Ａ－７．自分専用のパソコンを持っていますか

１．持っている　　２．持っていない

Ａ－８．大学に入学してからアルバイトをしたことがありますか

１．全くしたことがない　　２．長期休暇中のみのアルバイトをした
３．授業期間中に経常的なアルバイトをした
４．授業期間中に臨時的なアルバイトをした
５．長期休暇中も授業期間中も経常的にアルバイトをした

Ａ－９．Ａ－８で２～５を選んだ方に伺います。

①どのような職種のアルバイトをしましたか（複数可）

１．家庭教師　　２．塾講師　　３．販売・店員
４．飲食店でのウェイター、ウェイトレス、調理補助等
５．肉体労働　　６．一般事務　　７．調査員
８．特殊技能（翻訳、コンピュータ等）
９．大学でのティーチングアシスタント等　１０．その他

②アルバイトに費やす時間は、１週間あたりどの位ですか（でしたか）

１．4 時間未満　　２．4 時間以上～8 時間未満
３．8 時間以上～16 時間未満　　４．16 時間以上～24 時間未満
５．24 時間以上～32 時間未満　　６．32 時間以上～40 時間未満
７．40 時間以上

③アルバイトで得た収入は主に何に使いますか（ましたか）（3 つまで）

１．授業料　　２．授業料以外の学習費
３．通学費　　４．衣食住のための生活費
５.サークル活動　　６.自動車等の購入、維持費
７.携帯電話などの通信費　　８.レジャーや旅行
９.娯楽・嗜好品　　１０.貯蓄　　１１.その他

Ⅱ　住居・通学・食事などについて

Ｂ－１．現在のすまいについて、次のどれにあたりますか

１．家族と同居　２．アパート・マンション　３．学生寮　４．親戚・知人宅
５．下宿　６．その他

Ｂ－２．通学に利用している主な交通手段は次のどれですか(移動距離の最も長いものを選択)

１．自転車　２．徒歩　３．バイク、原付　４．自家用車　５．バス　６．市電
７．ＪＲ在来線　８．新幹線　９．フェリー　10．その他

Ｂ－３．片道の通学所要時間はどの位ですか

１．15 分未満　２．15 分以上～30 分未満　３．30 分以上～60 分未満
４．60 分以上～90 分未満　５．90 分以上～120 分未満　６．120 分以上

Ｂ－４．朝食は主にどのようにすませていますか

１．自宅　　２．学内食堂
３．学外の飲食店　　４．学内で弁当などを購入
５．学外で弁当などを購入　　６．食べない
７．その他

Ｂ－５．昼食は主にどのようにすませていますか

１．自宅　　２．学内食堂
３．学外の飲食店　　４．学内で弁当などを購入
５．学外で弁当などを購入　　６．食べない
７．その他

Ｂ－６．夕食は主にどのようにすませていますか

１．自宅　　２．学内食堂
３．学外の飲食店　　４．学内で弁当などを購入
５．学外で弁当などを購入　　６．食べない
７．その他

Ⅲ　学習について

Ｃ－１．本学を選ぶにあたって、主にどこからの情報を参考にしましたか

１．高校の先生　２．塾の先生　３．先輩・友人・家族　４．大学情報誌

５．大学進学説明会　６．本学のオープンキャンパス　７．インターネット
８．その他

Ｃ－２．本学を志望した主な理由はどれですか（3 つまで）
１．国立大学なので　２．地元の大学なので
３．大学の特色・学風が気に入った　４．専攻したい学科、課程があった
５．将来の進路を考えて　６．鹿児島の気候、風土に魅力を感じた
７．受験の実力ランクを考えて　８．経済的理由
９．ほかの人に勧められて　10．その他

Ｃ－３．本学の授業に満足していますか
１．満足　２．やや満足　３．どちらともいえない　４．やや不満　５．不満

Ｃ－４．Ｃ－３で３～５を選んだ方に伺います。満足できない理由は主な何ですか
１．内容が難しい　２．内容がつまらない　３．教え方に工夫が足りない
４．休講が多い　５．受講者が多すぎる　６．試験・レポートが多い
７．その他

Ｃ－５．授業にはどのくらい出席していますか
１．全て出席している　２．だいたい出席している
３．あまり出席していない　４．全く出席していない

Ｃ－６．Ｃ－５で３～４を選んだ方に伺います。授業を欠席する主な理由は何ですか
１．勉学の意欲がわかない　２．内容がつまらない
３．アルバイトで忙しい　４．課外活動で忙しい
５．就職活動で忙しい　６．健康上の理由
６．朝寝坊　７．その他

Ｃ－７．授業内容が理解できますか
１．ほとんどの授業が理解できる　２．理解できない授業が多少ある
２．理解できない授業がかなりある　４．ほとんどの授業が理解できない

Ｃ－８．授業のための自習を１日あたり何時間位していますか
１．1 時間未満　２．1 時間以上～2 時間未満　３．2 時間以上～3 時間未満
４．3 時間以上～4 時間未満　５．4 時間以上

Ｃ－９．教員に対してどのようなことを希望しますか
１．授業内容を充実させてほしい　２．オフィスアワー＊を増やしてほしい
３．個別学習指導に力を入れてほしい　４．履修指導を充実させてほしい
５．学生との対話の場を持ってほしい　６．その他
＊オフィスアワー:学生からの質問や相談に応じるために、教員が必ず研究室にいる時間帯

Ｃ－１０．本学の附属図書館にどの位の頻度で足を運びますか
１．週 4 回以上　２．週 2～3 回　３．週 1 回程度　４．月 1～2 回程度
５．ほとんど利用しない

Ｃ－11．本学の附属図書館の主な利用目的は何ですか

１．自習　２．図書の借り出し、閲覧　３．新聞・雑誌の閲覧
４．CD・ビデオの視聴　５．文献調査　６．文献複写
７．パソコンの利用　８．グループ学習室の利用　９．休憩
１０．その他の目的　１１.利用しないのでわからない

Ｃ－12. 資格,技能を身につけるため現在専門学校等に通っている場合、その種類はどれにあたりますか(自動車学校は除きます)
１．通っていない　２．公務員試験　３．国際、語学　４．経営、ビジネス
５．法律　６．栄養、調理　７．健康、福祉　８．医療
９．保育、教育　10. その他

Ⅳ　課外活動について

Ｄ－１．学内のサークルに入っていますか
１．入っている　２．入っていたがやめた　３．入ったことがない

Ｄ－２．Ｄ－１で１を選んだ方に伺います。
①どのようなサークルに入っていますか
１．文化系　２．体育系　３．文化系、体育系両方　４．その他

②サークルに入ったきっかけは何でしたか（3 つまで）
１．団体活動に魅力を感じた　２．活動内容に興味があった
３．将来の進路と関係があるから　４．友人を増やすため
５．体力をつけるため　６．大学生活を楽しむため
７．勧誘されたから　８．その他

③サークル活動に要する時間は 1 週間あたり何時間位ですか
１．3 時間未満　２．3～5 時間未満　３．5～10 時間未満
４．10～15 時間未満　５．15 時間以上

Ｄ－３．Ｄ－１で２を選んだ方に伺います。
学内のサークルをやめた理由は次のうちどれにあたりますか
１．学業に支障があった　２．対人関係に問題があった
３．活動に興味を失った　４．雰囲気が自分に合わなかった
５．体力的につらかった　６．出費が多かった
７．親に反対された　８．アルバイトを優先させたかった
９．その他

Ｄ－４．大学に入学してからボランティア活動をしたことがありますか
１．ある　２．ない

Ｄ－５．Ｄ－４で１を選んだ方に伺います。
経験したボランティアの活動内容はどれにあたりますか（複数可）
１．教育補助・保育　２．スポーツボランティア
３．障がい者支援　４．高齢者支援
５．災害復興ボランティア　６．環境・清掃・自然保護
７．地域協力・街づくり　８．限界集落の支援
９．観光ガイド　10. 国際交流
11. その他

Ｄ－６．Ｄ－４で２を選んだ方に伺います。
今後、ボランティア活動をやりたいですか
１．やりたい　２．どちらかというとやりたい
３．どちらかというとやりたくない　４．やりたくない

Ｖ　就職について

Ｅ－１．卒業後の進路で第１希望は何ですか
１．就職　２．進学　３．起業、開業　４．家業を継ぐ　５．海外留学
６．その他　７．決めていない

Ｅ－２．就職する場合、どのような業種（分野）を希望しますか
１．農林、水産　２．建設　３．製造　４．情報通信
５．卸売、小売　６．金融、保険　７．医療、福祉　８．教育、学習
９．サービス　10．公務員　11．教員　12．その他
13.何でもよい　14.わからない　15.就職する気はない

Ｅ－３．就職する場合、どのようなことを重視しますか（3 つまで）
１．仕事内容　２．将来性　３．経営方針、社風
４．企業の規模　５．企業のイメージ、知名度　６．給与、福利厚生
７．女性の処遇　８．安定性　９．勤務地
10．転勤の有無　11．その他

Ｅ－４．就職する場合、どの地域を希望しますか。
１．鹿児島県　２．鹿児島県を除く九州沖縄　３．中国地方　４．四国地方
５．近畿地方　６．中部地方　７．関東地方　８．東北地方　９．北海道
10．海外　11．どこでもよい　12．わからない　13．就職する気はない

Ｅ－５．就職に関して不安に思っていることは何ですか
１．自分の適性がわからない
２．就職活動の進め方がわからない
３．採用になるか自信がない　４．面接が苦手
５．大学の成績が良くない　６．学業と就職活動の両立が困難
７．就職活動にお金がかかる　８．その他の不安
９．特に不安はない　10．わからない
11．就職する気はない

Ｅ－６．本学の就職サポート体制について、充実させたほうがよいと思うものは何ですか
１．就職関係の書籍や DVD 等の資料
２．面接対策、履歴書の書き方等の指導
３．公務員、教員採用試験の合格対策講座
４．各種資格試験の合格対策講座　５．学内企業説明会
６．新規求人企業の開拓　７．就職ガイダンスや就職支援講座
８．インターンシップ＊　９．就職相談体制
10．その他　11．いまのままでよい
12．わからない
＊インターンシップ:一定期間企業等の中で研修生として働き,自分の将来に関連

のある就業体験を行える制度

Ｅ－７．本学に就職支援センターがあることを知っていますか
１．知っている　２．知らない

Ⅵ　健康状態について

Ｆ－１．ふだんの健康状態はどうですか。
１．良好　２．概ね良好　３．やや不調　４．不調

Ｆ－２．１日の睡眠時間は、平均どの位ですか
１．4 時間未満　２．4 時間以上～6 時間未満　３．6 時間以上～8 時間未満
４．8 時間以上～10 時間未満　５．10 時間以上

Ｆ－３．保健管理センターを過去 1 年間で何回利用しましたか（定期健康診断を除きます）
１．利用していない　２．1～2 回　３．3～4 回
４．5～6 回　５．7～9 回　６．10 回以上

Ｆ－４．アルコールをどの位の頻度で飲みますか
１．まったく飲まない　２．ほとんど飲まない　３．月に 1～2 回
４．週に 1 回程度　５．週に 2～3 回　６．週に 4 回以上

Ｆ－５．タバコを吸いますか
１．吸ったことがない　２．やめた　３．1 日 10 本未満
４．1 日 10 本以上～20 本未満　５．1 日 20 本以上

Ｆ－６．現在どのような悩みがありますか（複数可）
１．学業　２．進路、就職　３．経済的問題　４．健康、身体
５．性格、適応　６．友人、対人関係　７．家族、家庭環境　８．恋愛、結婚
９．悩みはない　10．その他

Ｆ－７．悩みについて、これまでどのように対処してきましたか（複数可）
１．自力で解決した　２．他人の助力により解決した
３．他のことに熱中することによって忘れた　４．未解決のまま
５．その他

Ｆ－８．悩みについて、最初に相談する相手は誰ですか
１．両親　２．兄弟姉妹　３．友人
４．恋人　５．先輩、知人　６．大学の教員
７．保健管理センターの職員　８．医療機関
９．相談できる相手はいない　10．相談相手は不要　11．その他

Ｆ－９．保健管理センターにカウンセラーがいることを知っていますか。
１．知っている　２．知らない

Ⅶ　ハラスメント等について

Ｇ－１．本学に「学生何でも相談室」があることを知っていますか
１．知っている　２．知らない

Ｇ－２．大学入学後の生活で、大きなトラブルに巻き込まれたことはありますか
１．特にない　２．消費者金融　３．悪徳商法
４．宗教関係　５．その他(暴力, ストーカーなど)

Ｇ－３．大学でハラスメント＊を受けたと感じたことはありますか
１．ない　２．ある

＊ハラスメントとは以下に類する行為のことをいう
・セクシュアル・ハラスメント：性的言動や要求, 異性一般に対する蔑視的な発言等を行うこと
・アカデミック・ハラスメント：教員が地位や権限を不当に利用し, 教育研究や進路等において不適切な扱いをすること
・パワー・ハラスメント：学生等が地位や権限, 人間関係を背景にし, 人格や尊厳を傷つける言動を行うこと
・アルコール・ハラスメント：飲酒や一気飲みの強要, 意図的な酔いつぶし, 酔ったうえでの迷惑行為などアルコールに絡む嫌がらせ全般
・その他のハラスメント：配慮を欠いた言動等により不快感を与える行為で, 上記以外のもの

Ｇ－４．Ｇ－３で２を選んだ方に伺います。
①どのようなハラスメントですか（複数可）
１．セクシュアル・ハラスメント　２．アカデミック・ハラスメント
３．パワー・ハラスメント　４．アルコール・ハラスメント
５．その他のハラスメント

②どのような場面で受けましたか（複数可）
１．授業・実習中　２．ゼミや研究活動中　３．事務の受付窓口
４．課外活動中　４．飲み会　５．更衣室・トイレ
６．学外　７．その他

③どのような人から受けましたか（複数可）
１．教員　２．教員以外の職員　３．サークルのメンバー
４．同じ学部の学生　５．他学部の学生　６．その他

④誰かに相談しましたか（複数可）
１．相談していない　２．学生何でも相談室の職員
３．大学のハラスメント相談員　４．大学の教員　５．保健管理センターの職員
６．大学の事務職員　７．家族　８．友人　９．恋人　10．先輩・知人
11．学外の相談窓口　12．その他

⑤あなたが受けたハラスメントは解決しましたか
１．解決した　２．解決していない

Ⅷ　施設とキャンパス環境について

Ｈ－１．キャンパス内で居心地がよいと思う場所はどこですか（2 つまで）
１．研究室　２．講義室　３．ホール・ラウンジ　４．図書館
５．食堂・売店　６．大学会館　７．課外活動施設　８．広場・庭園

９．その他　　10．居心地のよい場所はない

Ｈ－２．居心地のよい場所では主に何をしていますか（2 つまで）
１．学習　　２．読書　　３．インターネット
４．友達とおしゃべり、お茶　　５．課外活動　　６．暇つぶし
７．その他　　８．居心地のよい場所はない

Ｈ－３．自習する場合、主にどこを利用しますか（2 つまで）
１．自宅　　２．学外の図書館　　３．学内の図書館
４．学外の飲食店　５．学内の飲食店　　６．研究室
７．講義室　　８．自習室　　９．ホール、ラウンジ
10．大学会館　　11．課外活動施設　　12．その他
13．自習はしない

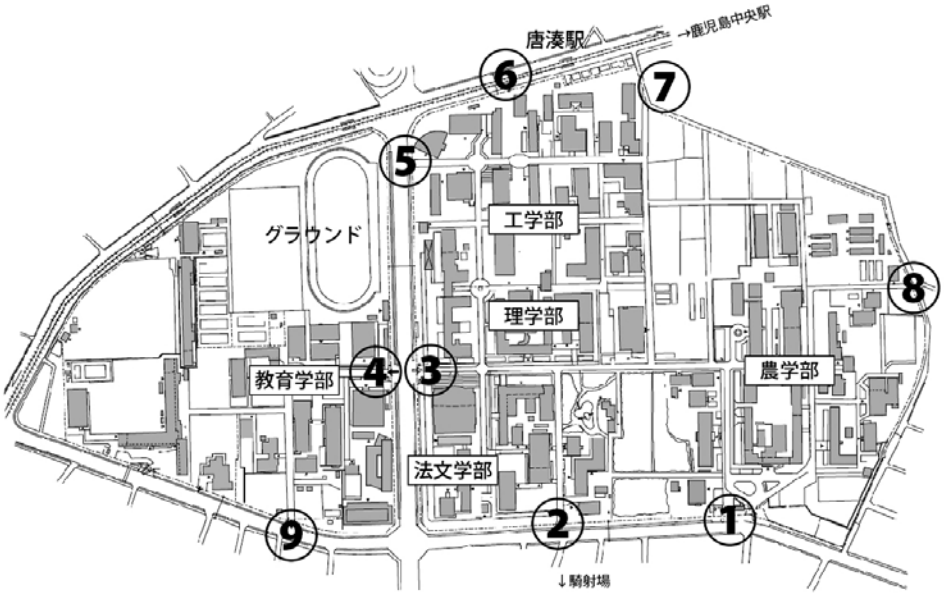
Ｈ－４．キャンパス内の自習の場に対する不満は何ですか（2 つまで）
１．座席が少ない　　２．汚い・暗い　　３．利用できる時間が短い
４．飲食ができない　　５．友人とグループで学習ができない
６．IT 環境が充実していない　７．周囲の音が気になる
８．どこにあるかわからない　９．その他
10．不満はない　　11．自習しないのでわからない

Ｈ－５．弁当等をキャンパス内で食べる場合、主にどこで食べますか（2 つまで）
１．研究室　　２．講義室　　３．ホール・ラウンジ　　４．図書館
５．食堂　　６．大学会館　　７．課外活動施設　　８．広場・庭園
９．その他の場所　　10．食べない

Ｈ－６．キャンパス内の飲食施設に関する不満は何ですか（2 つまで）
１．飲食店の座席が足りない　２．飲食店が少ない　３．飲食店の場所が悪い
４．飲食店の種類が少ない（カフェ、ファーストフード店等がない）
５．おいしくない　　６．値段が高い　　７．メニューが少ない
８．量が少ない　　９．飲食店の営業時間が短い
10．その他　　11．不満はない

Ｈ－７．キャンパス内で買い物をする際の不満は何ですか（2 つまで）
１．売店が狭い　　２．売店が少ない　　３．売店の場所が悪い
４．売店の営業時間が短い　５．食べ物、飲み物が少ない
６．文具が少ない　　７．小説・雑誌が少ない　　８．参考書が少ない
９．日用品が少ない　　10．パソコン関係が少ない
11．医薬品・コスメ関係が少ない
12．旅券関係が少ない　　13．宅配、コピー等、サービスの種類が少ない
14．その他　　15．不満はない

Ｈ－８．郡元キャンパスではどの門をよく利用しますか（2 つまで）



１．(1)の正門　　２．(2)の東門
３．(3)の図書館前門　　４．(4)の教育学部門
５．(5)の工学部門　　６．(6)の通用門-機械工学科1号棟前
７．(7)の通用門-産学官連携推進機構棟前　　８．(8)の通用門-遺伝子実験施設前
９．(9)の教育学部東門　　10．わからない

Ｈ－９．キャンパス内で、改善してほしいと思う場所はどこですか（2 つまで）

１．研究室　２．講義室　３．実験室　４．自習室
５．ホール・ラウンジ　６．トイレ　７．大学会館
８．課外活動施設　９．飲食店　10．売店　11．図書館
12．広場・庭園　13．自転車駐輪場　14．バイク駐輪場
15．駐車場　16．道路（歩道、車道）　17．その他　18．特にない

記述事項（意見等）

○大学生活について感想、意見、要望等ありましたら何でも記入して下さい(1000 文字まで)

【大学院生用】

学 生 生 活 実 態 調 査 項 目

＊この調査は、「基本事項」「経済状況」「住居・通学・食事」「学習」「ボランティア活動」「就職」「健康状態」「ハラスメント等」「施設とキャンパス環境」「記述事項（意見等）」についての質問構成になっています。

＊以下の質問について、あなたの回答に最も近い項目（選択肢）の番号を選択してください。

＊記入にあたっては、平成 23 年 9 月 1 日現在で記入してください。

基本事項について

○性別

１．男　　２．女

○配偶者の有無

１．無　　２．有

○子供の有無

１．無　　２．有

○出身地

１．北海道　２．青森　３．岩手　４．宮城　５．秋田　６．山形　７．福島
８．茨城　９．栃木　１０．群馬　１１．埼玉　１２．千葉　１３．東京
１４．神奈川　１５．新潟　１６．富山　１７．石川　１８．福井　１９．山梨
２０．長野　２１．岐阜　２２．静岡　２３．愛知　２４．三重　２５．滋賀
２６．京都　２７．大阪　２８．兵庫　２９．奈良　３０．和歌山　３１．鳥取
３２．島根　３３．岡山　３４．広島　３５．山口　３６．徳島　３７．香川
３８．愛媛　３９．高知　４０．福岡　４１．佐賀　４２．長崎　４３．熊本
４４．大分　４５．宮崎　４６．鹿児島　４７．沖縄　４８．海外

○所属研究科

１．理工学研究科　２．医歯学総合研究科　３．農学研究科　４．水産学研究科
５．連合農学研究科　６．保健学研究科　７．人文社会科学研究科
８．教育学研究科　９．臨床心理学研究科　１０．司法政策研究科

○課程

１．修士（博士前期）課程　２．博士（博士後期）課程　３．専門職学位課程

○入学年度

１．平成 23 年(2011 年)　２．平成 22 年(2010 年)　３．平成 21 年(2009 年)
４．平成 20 年(2008 年)　５．平成 19 年(2007 年)以前

○学年

１．1 年　２．2 年　３．3 年　４．4 年

Ⅰ　経済状況について

Ａ－１．あなたの１カ月の平均収入額(援助等含みます)

１．3 万円未満　　２．3 万円以上～5 万円未満
３．5 万円以上～7 万円未満　　４．7 万円以上～10 万円未満
５．10 万円以上～12 万円未満　　６．12 万円以上～15 万円未満
７．15 万円以上

Ａ－２．あなたの１カ月の平均支出額(授業料は除きます)

１．3 万円未満　　２．3 万円以上～5 万円未満
３．5 万円以上～7 万円未満　　４．7 万円以上～10 万円未満
５．10 万円以上～12 万円未満　　６．12 万円以上～15 万円未満
７．15 万円以上

Ａ－３．あなたの家庭全体の年収額

１．200 万円未満　　２．200 万円以上～400 万円未満
３．400 万円以上～600 万円未満　　４．600 万円以上～800 万円未満
５．800 万円以上～1000 万円未満　　６．1000 万円以上
７．わからない

Ａ－４．主な家計支持者

１．父　２．母　３．兄弟姉妹　４．祖父母　５．配偶者　６．本人　７．その他

Ａ－５．授業料免除(平成 23 年度前期分)について、次のどれにあたりますか

１．全額免除された　　２．半額免除された　　３．申請したが不許可だった
４．制度を知らなかったので申請できなかった　５．希望しなかった
６．その他

Ａ－６．現在、奨学金を受けていますか

１．受けている　２．応募したが受けられなかった
３．制度を知らなかったので応募できなかった　４．希望しなかった　５.その他

Ａ－７．自分専用のパソコンを持っていますか

１．持っている　　２．持っていない

Ａ－８．大学に入学してからアルバイトをしたことがありますか

１．全くしたことがない　　２．長期休暇中のみのアルバイトをした
３．授業期間中に経常的なアルバイトをした
４．授業期間中に臨時的なアルバイトをした
５．長期休暇中も授業期間中も経常的にアルバイトをした

Ａ－９．Ａ－８で２～５を選んだ方に伺います。

①どのような職種のアルバイトをしましたか（複数可）

１．家庭教師　　２．塾講師　　３．販売、店員
４．飲食店でのウェイター、ウェイトレス、調理補助等
５．肉体労働　　６．一般事務　　７．調査員
８．特殊技能（翻訳、コンピュータ等）
９．大学でのティーチングアシスタント等　１０．その他

②アルバイトに費やす時間は、１週間あたりどの位ですか（でしたか）

１．4 時間未満　　２．4 時間以上～8 時間未満
３．8 時間以上～16 時間未満　　４．16 時間以上～24 時間未満
５．24 時間以上～32 時間未満　　６．32 時間以上～40 時間未満
７．40 時間以上

③アルバイトで得た収入は主に何に使いますか（ましたか）(3 つまで)

１．授業料　　２．授業料以外の学習費
３．通学費　　４．衣食住のための生活費
５.サークル活動　　６.自動車等の購入、維持費
７.携帯電話などの通信費　　８.レジャーや旅行
９.娯楽・嗜好品　　１０.貯蓄　　１１.その他

Ⅱ　住居・通学・食事などについて

Ｂ－１．現在のすまいについて、次のどれにあたりますか

１．家族と同居　２．アパート・マンション　３．学生寮　４．親戚・知人宅
５．下宿　６．その他

Ｂ－２．通学に利用している主な交通手段は次のどれですか(移動距離の最も長いものを選択)

１．自転車　２．徒歩　３．バイク、原付　４．自家用車　５．バス　６．市電
７．ＪＲ在来線　８．新幹線　９．フェリー　10．その他

Ｂ－３．片道の通学所要時間はどの位ですか

１．15 分未満　２．15 分以上～30 分未満　３．30 分以上～60 分未満
４．60 分以上～90 分未満　５．90 分以上～120 分未満　６．120 分以上

Ｂ－４．朝食は主にどのようにすませていますか

１．自宅　　２．学内食堂
３．学外の飲食店　　４．学内で弁当などを購入
５．学外で弁当などを購入　　６．食べない
７．その他

Ｂ－５．昼食は主にどのようにすませていますか

１．自宅　　２．学内食堂
３．学外の飲食店　　４．学内で弁当などを購入
５．学外で弁当などを購入　　６．食べない
７．その他

Ｂ－６．夕食は主にどのようにすませていますか

１．自宅　　２．学内食堂
３．学外の飲食店　　４．学内で弁当などを購入
５．学外で弁当などを購入　　６．食べない
７．その他

Ⅲ　学習について

Ｃ－１．大学院に進学した理由は何ですか（3 つまで）

１．学部で学んだ学問をさらに探究したいから

２．学部で学んだ学問とは違った分野の学問を学びたいから
３．就職するために必要な、より深い知識を得るため
４．就職する意思がなかったから　５．就職できそうになかったから
６．研究者を目指しているから
７．現在の仕事においてスキルアップを図るため
８．学位・資格を取得するため　９．その他

Ｃ－３．本学の研究科・専攻を選んだ主な理由は何ですか（3 つまで）
１．興味のある専門分野があったから　２．教わりたい教員がいたから
３．環境・設備がよいから　４．教員の勧め
５．先輩・友人・家族の勧め　６．地元の大学だから
７．国立大学だから　８．その他

Ｃ－３．本学を選ぶにあたって、主にどこからの情報を参考にしましたか
１．鹿児島大学の教員　２．先輩・友人・家族　３．鹿児島大学の研究成果
４．大学情報誌　５．インターネット　６．その他

Ｃ－４．現在所属している研究科・専攻は自分に合っていると思いますか
１．思う　２．どちらかというと思う　３．どちらかというと思わない
４．思わない

Ｃ－５．修士、博士論文の研究テーマに満足していますか
１．満足　２．どちらかというと満足　３．どちらかというと不満
４．不満　５．研究テーマは決まっていない　６．その他

Ｃ－７．指導教員に教育・研究の熱意は感じられますか。
１．感じられる　２．どちらかというと感じられる
３．どちらかというと感じられない　４．感じられない

Ｃ－８．指導教員とコミュニケーションが取れていますか
１．取れている　２．どちらかというと取れている
２．どちらかというと取れていない　４．取れていない

Ｃ－９．大学院にふさわしいレベルでの教育が行われていると思いますか
１．思う　２．どちらかというと思う　３．どちらかというと思わない
４．思わない

Ｃ－１０．研究に必要な設備や環境、資料等は整っていると思いますか
１．思う　２．どちらかというと思う　３．どちらかというと思わない
４．思わない

Ｃ－１１．研究スペースは確保されていると思いますか
１．思う　２．どちらかというと思う　３．どちらかというと思わない
４．思わない

Ｃ－１２．現在の所属研究科・専攻を変わりたいと思いますか
１．思わない　２．専攻を変わりたい　３．研究科を変わりたい
４．大学を変わりたい　５．その他

C－１３．C－１２で２～４を選んだ方に伺います。
現在の所属研究科・専攻,または大学を変わりたいと思う理由は何ですか
１．自分に合わない　２．就職を考えて　３．学業についていけない
４．経済的な問題　５．人間関係の問題　６．その他

C－１４．本学の附属図書館にどの位の頻度で足を運びますか
１．週 4 回以上　２．週 2～3 回　３．週 1 回程度　４．月 1～2 回程度
５．ほとんど利用しない

Ｃ－１５．附属図書館の主な利用目的は何ですか
１．自習　２．図書の借り出し、閲覧　３．雑誌・新聞の閲覧
４．CD・ビデオの視聴　５．文献調査　６．文献複写
７．パソコンの利用　８．グループ学習室の利用　９．休憩
１０．その他の目的　１１.利用しないのでわからない

Ｃ－１６．資格,技能を身につけるため現在専門学校等に通っている場合、その種類はどれにあたりますか(自動車学校は除きます)
１．通っていない　２．公務員試験　３．国際、語学　４．経営、ビジネス
５．法律　６．栄養、調理　７．健康、福祉　８．医療
９．保育、教育　10．その他

Ⅳ　ボランティア活動について

D－１．大学院に入学してからボランティア活動をしたことがありますか
１．ある　２．ない

D－２．D－１で１を選んだ方に伺います。
経験したボランティアの活動内容はどれにあたりますか（複数可）
１．教育補助・保育　２．スポーツボランティア
３．障がい者支援　４．高齢者支援
５．災害復興ボランティア　６．環境・清掃・自然保護
７．地域協力・街づくり　８．限界集落の支援
９．観光ガイド　10．国際交流
11．その他

D－３．D－４で２を選んだ方に伺います。
今後、ボランティア活動をやりたいですか
１．やりたい　２．どちらかというとやりたい
３．どちらかというとやりたくない　４．やりたくない

Ⅴ　就職について

Ｅ－１．卒業後の進路で第１希望は何ですか
１．就職　２．進学　３．起業、開業　４．家業を継ぐ　５．海外留学
６．その他　７．決めていない

Ｅ－２．就職する場合、どのような業種（分野）を希望しますか
１．農林、水産　２．建設　３．製造　４．情報通信
５．卸売、小売　６．金融、保険　７．医療、福祉　８．教育、学習

９．サービス　10．公務員　11．教員　12．その他
13.何でもよい　14.わからない　15.就職する気はない

Ｅ－３．就職する場合、どのようなことを重視しますか（3つまで）
１．仕事内容　２．将来性　３．経営方針、社風
４．企業の規模　５．企業のイメージ、知名度　６．給与、福利厚生
７．女性の処遇　８．安定性　９．勤務地
10．転勤の有無　11．その他

Ｅ－４．就職する場合、どの地域を希望しますか。
１．鹿児島県　２．鹿児島県を除く九州沖縄　３．中国地方　４．四国地方
５．近畿地方　６．中部地方　７．関東地方　８．東北地方　９．北海道
10．海外　11．どこでもよい　12．わからない　13．就職する気はない

Ｅ－５．就職に関して不安に思っていることは何ですか
１．自分の適性がわからない
２．就職活動の進め方がわからない
３．採用になるか自信がない　４．面接が苦手
５．大学の成績が良くない　６．学業と就職活動の両立が困難
７．就職活動にお金がかかる　８．その他の不安
９．特に不安はない　10．わからない
11．就職する気はない

Ｅ－６．本学の就職サポート体制について、充実させたほうがよいと思うものは何ですか
１．就職関係の書籍やDVD等の資料
２．面接対策、履歴書の書き方等の指導
３．公務員、教員採用試験の合格対策講座
４．各種資格試験の合格対策講座　５．学内企業説明会
６．新規求人企業の開拓　７．就職ガイダンスや就職支援講座
８．インターンシップ＊　９．就職相談体制
10．その他　11．いまのままでよい
12．わからない
＊インターンシップ:一定期間企業等の中で研修生として働き,自分の将来に関連のある就業体験を行える制度

Ｅ－７．本学に就職支援センターがあることを知っていますか
１．知っている　２．知らない

Ⅵ　健康状態について

Ｆ－１．ふだんの健康状態はどうですか。
１．良好　２．概ね良好　３．やや不調　４．不調

Ｆ－２．1日の睡眠時間は、平均どの位ですか
１．4時間未満　２．4時間以上～6時間未満　３．6時間以上～8時間未満
４．8時間以上～10時間未満　５．10時間以上

Ｆ－３．保健管理センターを過去1年間で何回利用しましたか（定期健康診断は除きま

す)

１．利用していない　２．1～2 回　３．3～4 回
４．5～6 回　５．7～9 回　６．10 回以上

Ｆ－４．アルコールをどの位の頻度で飲みますか

１．まったく飲まない　２．ほとんど飲まない　３．月に 1～2 回
４．週に 1 回程度　５．週に 2～3 回　６．週に 4 回以上

Ｆ－５．タバコを吸いますか

１．吸ったことがない　２．やめた　３．1 日 10 本未満
４．1 日 10 本以上～20 本未満　５．1 日 20 本以上

Ｆ－６．現在どのような悩みがありますか（複数可）

１．学業　２．進路、就職　３．経済的問題　４．健康、身体
５．性格、適応　６．友人、対人関係　７．家族、家庭環境　８．恋愛、結婚
９．悩みはない　10．その他

Ｆ－７．悩みについて、これまでどのように対処してきましたか（複数可）

１．自力で解決した　２．他人の助力により解決した
３．他のことに熱中することによって忘れた　４．未解決のまま
５．その他

Ｆ－８．悩みについて、最初に相談する相手は誰ですか

１．両親　２．兄弟姉妹　３．友人
４．恋人　５．先輩、知人　６．大学の教員
７．保健管理センターの職員　８．医療機関
９．相談できる相手はいない　10．相談相手は不要　11．その他

Ｆ－９．保健管理センターにカウンセラーがいることを知っていますか。

１．知っている　２．知らない

Ⅶ　ハラスメント等について

Ｇ－１．本学に「学生何でも相談室」があることを知っていますか

１．知っている　２．知らない

Ｇ－２．大学入学後の生活で、大きなトラブルに巻き込まれたことはありますか

１．特にない　２．消費者金融　３．悪徳商法
４．宗教関係　５．その他(暴力, ストーカーなど)

Ｇ－３．大学でハラスメント＊を受けたと感じたことはありますか

１．ない　２．ある

＊ハラスメントとは以下に類する行為のことをいう

・セクシュアル・ハラスメント：性的言動や要求, 異性一般に対する蔑視的な発言等を行うこと
・アカデミック・ハラスメント：教員が地位や権限を不当に利用し, 教育研究や進路等において不適切な扱いをすること
・パワー・ハラスメント：学生等が地位や権限, 人間関係を背景にし, 人格や尊厳を傷つ

ける言動を行うこと
・アルコール・ハラスメント：飲酒や一気飲みの強要, 意図的な酔いつぶし, 酔ったうえでの迷惑行為などｱﾙｺｰﾙに絡む嫌がらせ全般
・その他のハラスメント：配慮を欠いた言動等により不快感を与える行為で, 上記以外のもの

Ｇ－４．Ｇ－３で２を選んだ方に伺います。

①どのようなハラスメントですか（複数可）
１．セクシュアル・ハラスメント　２．アカデミック・ハラスメント
３．パワー・ハラスメント　４．アルコール・ハラスメント
５．その他のハラスメント

②どのような場面で受けましたか（複数可）
１．授業・実習中　２．ゼミや研究活動中　３．事務の受付窓口
４．課外活動中　４．飲み会　５．更衣室・トイレ
６．学外　７．その他

③どのような人から受けましたか（複数可）
１．教員　２．教員以外の職員　３．サークルのメンバー
４．同じ学部の学生　５．他学部の学生　６．その他

④誰かに相談しましたか（複数可）
１．相談していない　２．学生何でも相談室の職員
３．大学のハラスメント相談員　４．大学の教員　５．保健管理センターの職員
６．大学の事務職員　７．家族　８．友人　９．恋人　10．先輩・知人
11．学外の相談窓口　12．その他

⑤あなたが受けたハラスメントは解決しましたか
１．解決した　２．解決していない

Ⅷ　施設とキャンパス環境について

Ｈ－１．キャンパス内で居心地がよいと思う場所はどこですか（2 つまで）
１．研究室　２．講義室　３．ホール・ラウンジ　４．図書館
５．食堂・売店　６．大学会館　７．課外活動施設　８．広場・庭園
９．その他　10．居心地のよい場所はない

Ｈ－２．居心地のよい場所では主に何をしていますか（2 つまで）
１．学習　２．読書　３．インターネット
４．友達とおしゃべり、お茶　５．課外活動　６．暇つぶし
７．その他　８．居心地のよい場所はない

Ｈ－３．自習する場合、主にどこを利用しますか（2 つまで）
１．自宅　２．学外の図書館　３．学内の図書館
４．学外の飲食店　５．学内の飲食店　６．研究室
７．講義室　８．自習室　９．ホール、ラウンジ
10．大学会館　11．課外活動施設　12．その他
13．自習はしない

Ｈ－４．キャンパス内の自習の場に対する不満は何ですか（2 つまで）

１．座席が少ない　２．汚い・暗い　３．利用できる時間が短い
４．飲食ができない　５．友人とグループで学習ができない
６．IT 環境が充実していない　７．周囲の音が気になる
８．どこにあるかわからない　９．その他
10．不満はない　11．自習しないのでわからない

Ｈ－５．弁当等をキャンパス内で食べる場合、主にどこで食べますか（2 つまで）

１．研究室　２．講義室　３．ホール・ラウンジ　４．図書館
５．食堂　６．大学会館　７．課外活動施設　８．広場・庭園
９．その他の場所　10．食べない

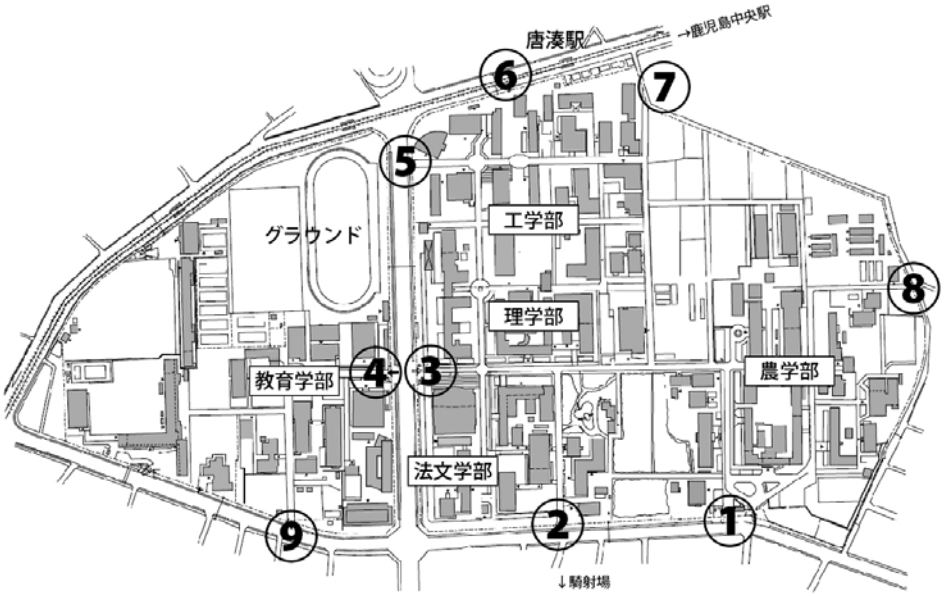
Ｈ－６．キャンパス内の飲食施設に関する不満は何ですか（2 つまで）

１．飲食店の座席が足りない　２．飲食店が少ない　３．飲食店の場所が悪い
４．飲食店の種類が少ない（カフェ、ファーストフード店等がない）
５．おいしくない　６．値段が高い　７．メニューが少ない
８．量が少ない　９．飲食店の営業時間が短い
10．その他　11．不満はない

Ｈ－７．キャンパス内で買い物をする際の不満は何ですか（2 つまで）

１．売店が狭い　２．売店が少ない　３．売店の場所が悪い
４．売店の営業時間が短い　５．食べ物、飲み物が少ない
６．文具が少ない　７．小説・雑誌が少ない　８．参考書が少ない
９．日用品が少ない　10．パソコン関係が少ない
11．医薬品・コスメ関係が少ない
12．旅券関係が少ない　13．宅配、コピー等、サービスの種類が少ない
14．その他　15．不満はない

Ｈ－８．郡元キャンパスではどの門をよく利用しますか（２つまで）



１．(1)の正門　２．(2)の東門
３．(3)の図書館前門　４．(4)の教育学部門

５．(5)の工学部門　　６．(6)の通用門-機械工学科1号棟前
７．(7)の通用門-産学官連携推進機構棟前　　８．(8)の通用門-遺伝子実験施設前
９．(9)の教育学部東門　　10．わからない

Ｈ－９．キャンパス内で、改善してほしいと思う場所はどこですか（2 つまで）

１．研究室　２．講義室　３．実験室　４．自習室
５．ホール・ラウンジ　６．トイレ　７．大学会館
８．課外活動施設　９．飲食店　10．売店　11．図書館
12．広場・庭園　13．自転車駐輪場　14．バイク駐輪場
15．駐車場　16．道路（歩道、車道）　17．その他　18．特にない

記述事項（意見等）

○大学生活について感想、意見、要望等ありましたら何でも記入して下さい(1000 文字まで)

平成２１年度鹿児島大学学生生活実態調査ＷＧ委員

委員長	歯学部	教　授	鳥 居　光 男
委　員	教育学部	准教授	末 吉　靖 宏
委　員	工学部	准教授	伊 東　祐 二
委　員	水産学部	教　授	中 村　啓 彦
委　員	学生部	学生生活課長	上 村　　敏
委　員	学生部	学生企画係長	川 添　隆 子

平成２２年度鹿児島大学学生生活実態調査ＷＧ委員

委員長	歯学部	教　授	鳥 居　光 男
委　員	教育学部	准教授	末 吉　靖 宏
委　員	工学部	准教授	橋 本　雅 仁
委　員	水産学部	教　授	中 村　啓 彦
委　員	学生部	学生生活課長	上 村　　敏
委　員	学生部	学生企画係長	川 添　隆 子

平成２３年度鹿児島大学学生生活実態調査ＷＧ委員

委員長	歯学部	教　授	鳥 居　光 男
委　員	教育学部	准教授	桶田　洋明
委　員	工学部	准教授	熊澤　典良
委　員	水産学部	教　授	木村　郁夫
委　員	学生部	学生生活課長	松野下　繁文
委　員	学生部	学生企画係長	野間　尚宜

あとがき

平成１８年以来５年ぶりに学生生活実態調査が行われた。

平成２１年１１月に学生生活委員会に実態調査実施のためのワーキンググループ（WG）が設けられ、WGでは

１．「学生生活の実態及び意識を把握し、今後の大学における学生支援の充実を図る上での基礎資料とすること」を目的として調査を実施する。

２．前回から期間があいたので、２年ごとに（奇数年度に）継続して行う。

３．前回までは紙媒体で行っていたのをＷｅｂを利用して実施する。

４．できるだけ質問数を減らす。

ことを基本方針とした。

質問項目についてはWG内で検討を重ね、Ｗｅｂを利用したシステムの構築、個人情報の保護については情報企画課に協力頂いた。

平成２３年度後期の履修申請に引き続き回答できる形で実態調査が実施された。Ｗｅｂを利用したシステムは問題なく作動し、所期のデータを得られたと考えられる。ただ、Ｗｅｂを利用したシステムで行ったため、回答は学生の自主性に任され、その結果前回に比べ回答率が減少した。このやり方としてはかなりの回答率であるとも考えられるが、さらなる高回答率を求めるならば、何らかのアメかムチが必要ではないだろうか。

質問数については、前回の１６０項目から１３０項目と２０％程度減少させたが、全部に回答するには２０分程度必要で、学生の自由記載ではまだ多すぎるという意見が寄せられた。さらなる精選が必要かもしれない。

新しい試みも加え、とにかく調査を終了することができた。この成果をどう生かすかはこれからの問題である。

最後に、本調査にご協力いただいたWGメンバー、学生生活課、情報企画課の各位に感謝申し上げる。

学生生活実態調査WG委員長

鳥居光男

平成23年度学生生活実態調査報告書

発行日	平成24年３月
編　集	鹿児島大学学生生活委員会
発　行	鹿児島大学学生部学生生活課 〒899-0065 鹿児島市郡元1丁目21番30号 TEL 099-285-7335

鹿児島大学